

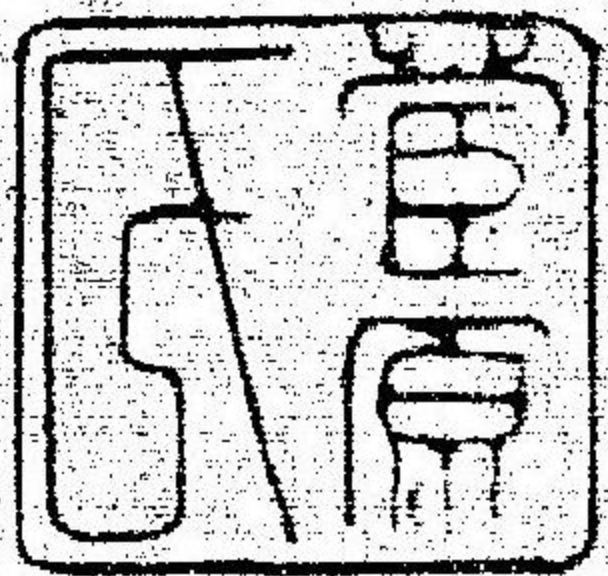
家父集

187

441



菅原春廣著



新撰  
便利

# 匠家文推乃

菅原周治藏版

匠家必携序



多と亦名工存記不阿ら毛



此書は簡易に準繩を授けしめて一化業を

成る簡易に準繩を授けしめて一化業を

毎糸簡易に先づ簡易に準繩を授けしめて一化業を

を知らず難を極む遂に匠工の過る易

遠すべきなり此書は簡易に準繩を授けしめて一化業を

此書は簡易に準繩を授けしめて一化業を



雜して徒ら後進の子を找して是れ其の理  
 解不著ししを志むる如きを宣歟 世に云ふべし  
 頃者後原素吉廣氏愛不見るより有りて  
 一書を世に公せんとし序茂余不志向む卷  
 を開きて是れ其の線見る不簡にして明約を以て詳  
 庶幾を近家後進乃好伴侶たりんうと云爾  
 明治丙午初夏 活石堂識

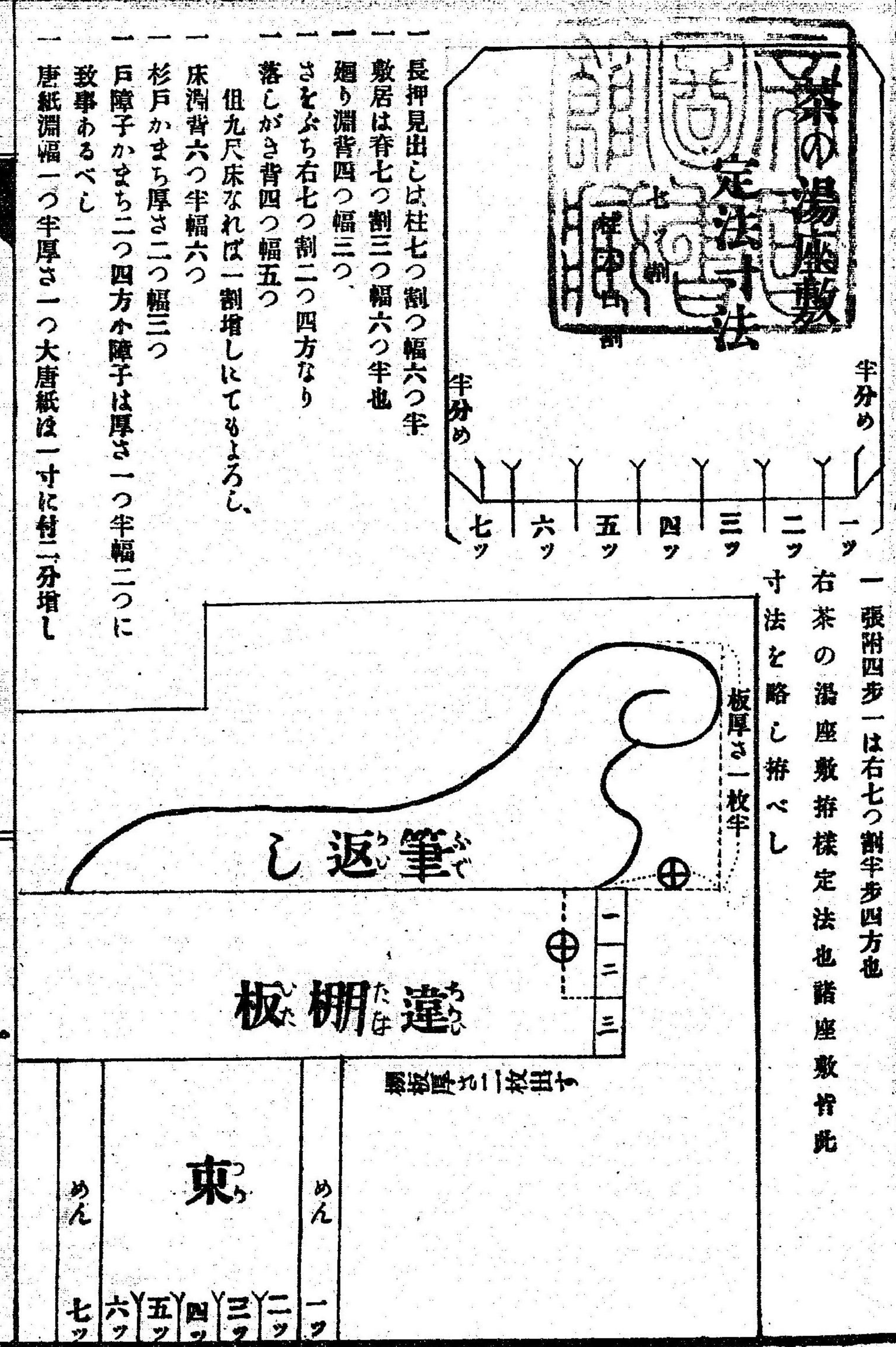
目次

- |    |            |     |             |
|----|------------|-----|-------------|
| 一  | 茶の湯座敷定法寸法  | 十三  | 四方ふんはり柱     |
| 二  | 筆返し        | 十四  | 朝かほ指カネ尺チカへ様 |
| 三  | 丸太神明鳥居之割   | 十五  | カヤチヒ轉の墨     |
| 四  | 明神鳥居之圖 全解  | 十六  | カヤチヒ留切様     |
| 五  | 同笠木割合      | 十七  | カヤチヒの留種配付墨  |
| 六  | 四ツ足鳥居之圖 全解 | 十八  | 配付種下ハ返の墨    |
| 七  | 同つま木口割     | 十九  | スミ木長サ並束長サ取様 |
| 八  | 山王鳥居之圖 全解  | 二十  | 小平起シ種長サ取様   |
| 九  | 柱木口八ツ中轉    | 二十一 | スミ木鼻の切様     |
| 十  | 三輪鳥居之圖 全解  | 二十二 | スミ木上ハの取様    |
| 十一 | 三輪鳥居木口割    | 二十三 | 地マハリチ掛リ墨の仕様 |
| 十二 | 平屏重門之圖 全解  | 二十四 | 其二スミ木チ掛様    |



- 二十五 壹ケンスミ木の圖
- 二十六 木負茅負隅木脇面エ打墨圖
- 二十七 地廻リ隅木タル木裏甲茅負の木口割
- 二十八 壹ケン反リスミ木の圖
- 二十九 フリス木木小平起極長取様
- 三十 其二
- 三十一 カヤチヒ留立水切様
- 三十二 フリスミ木上ハの取様
- 三十三 其二
- 三十四 フリスミ木ヲチ掛ケの取様
- 三十五 フリスミ木の仕様
- 三十六 其二
- 三十七 二軒隅木造リ機墨繩矩の圖
- 三十八 扇極フセ地の圖

- 三十九 扉垂木桶長ナ同垂木長ナ垂木轉取様の圖
- 四十 飛檐扉タル木茅負の木口轉取様の圖
- 四十一 地の勻配三寸六分木ヲヒ木口轉取様の圖
- 四十二 桶造リ様タル木の反リを造る臥地の圖
- 四十三 極の反り取様の圖
- 四十四 千鳥ハフ造り様
- 四十五 其二柿下地
- 四十六 ハフマユかき様





丸太神明鳥居之割

笠木上八歩社の茅負下八歩見通し

右元木

太柱さ太木笠

木笠キア

又取分八柱

○印を高さとする

柱太さ地の間一寸一分取

し増割二にさ

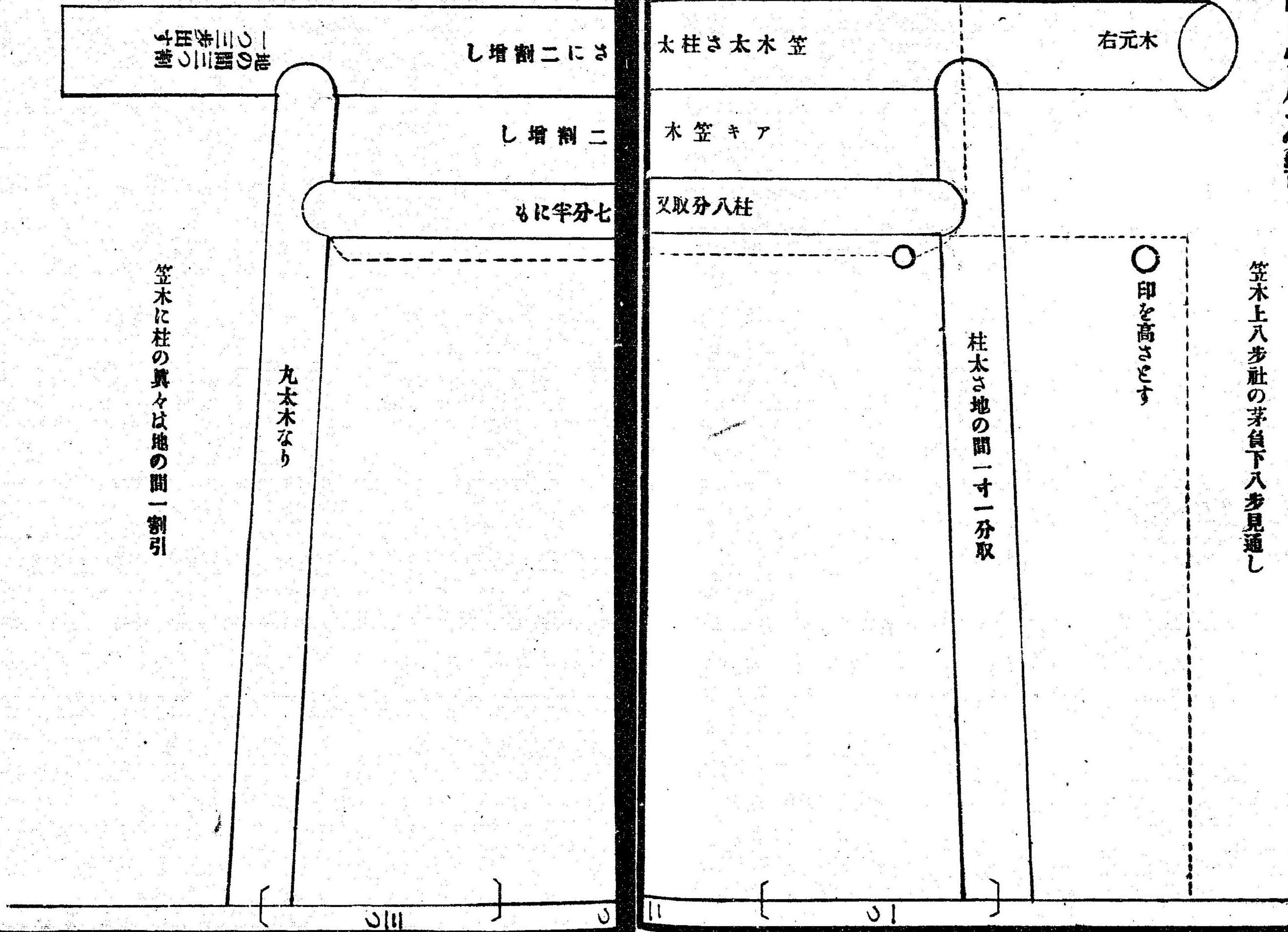
し増割二

もに半分七

丸太木なり

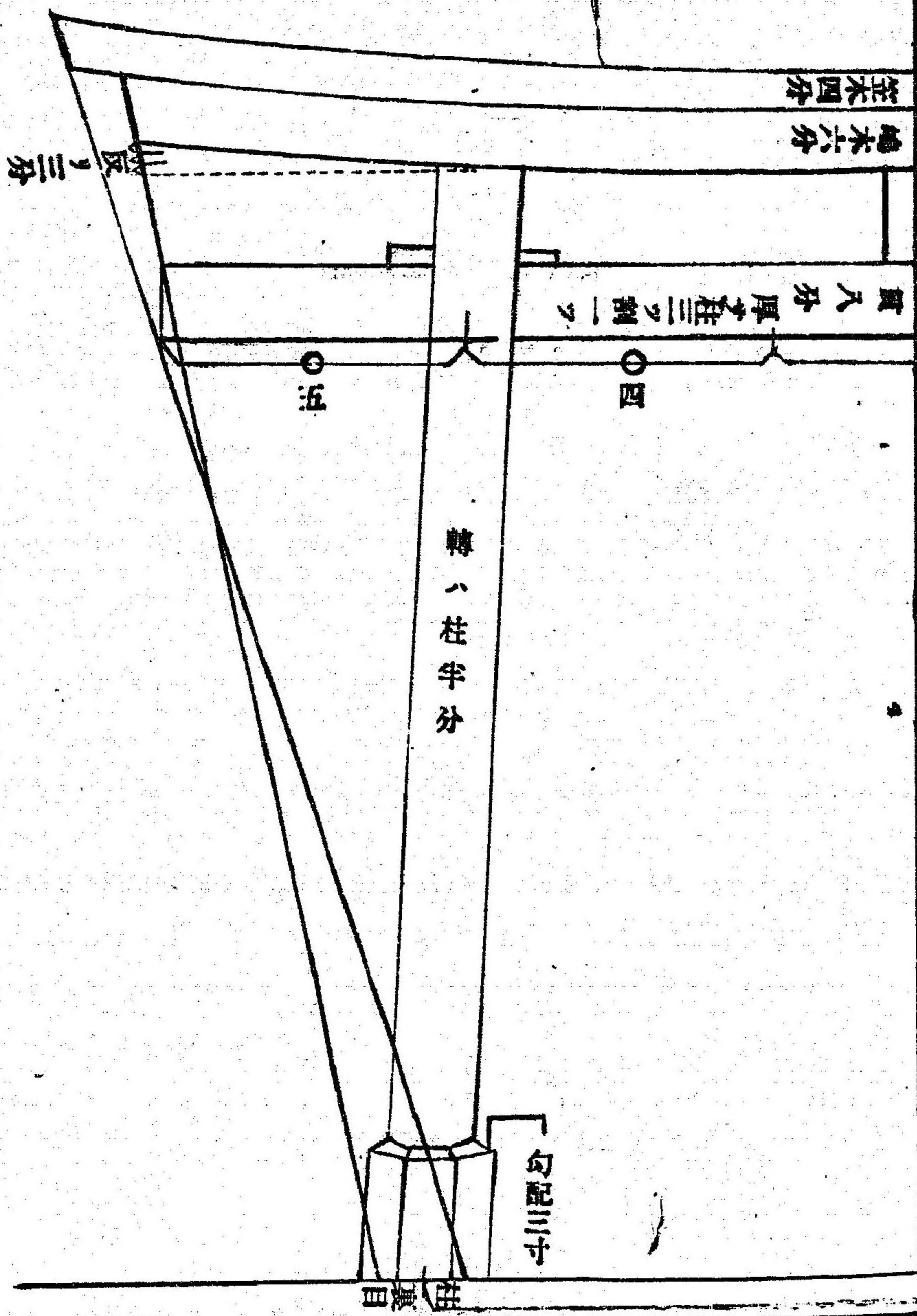
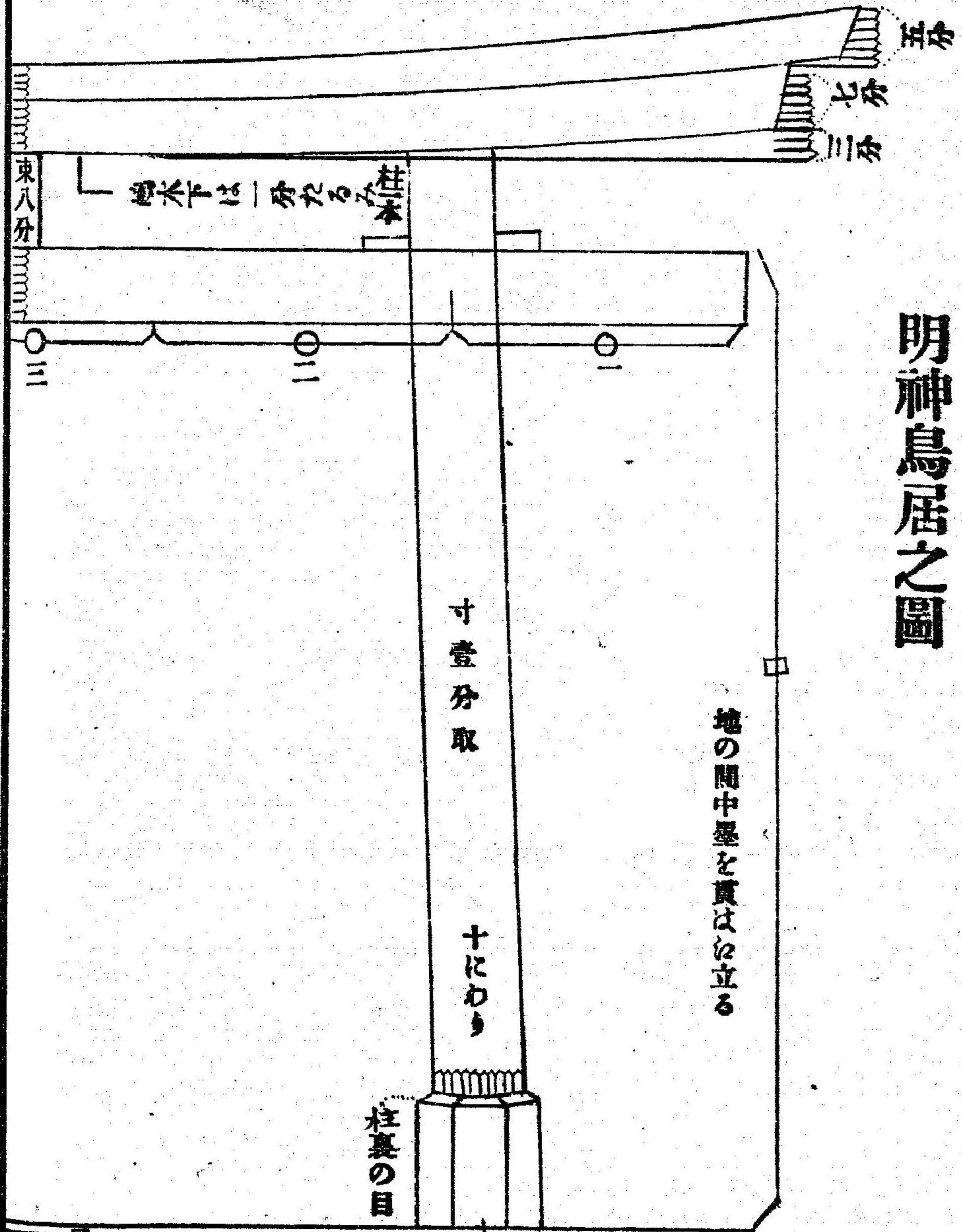
笠木に柱の真々は地の間一割引

丸太木なり  
し増割二にさ



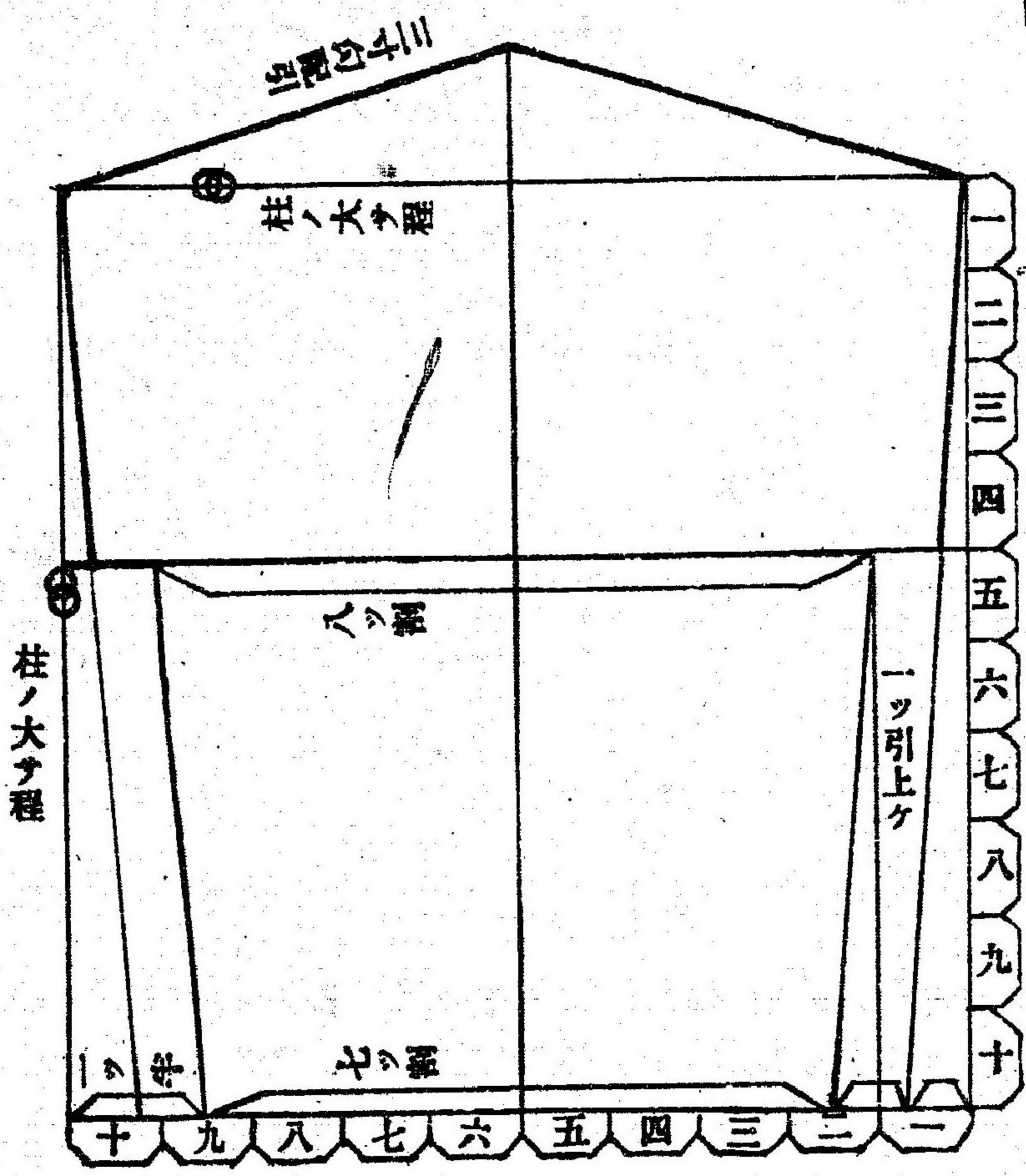


明神鳥居之圖





同笠木割合



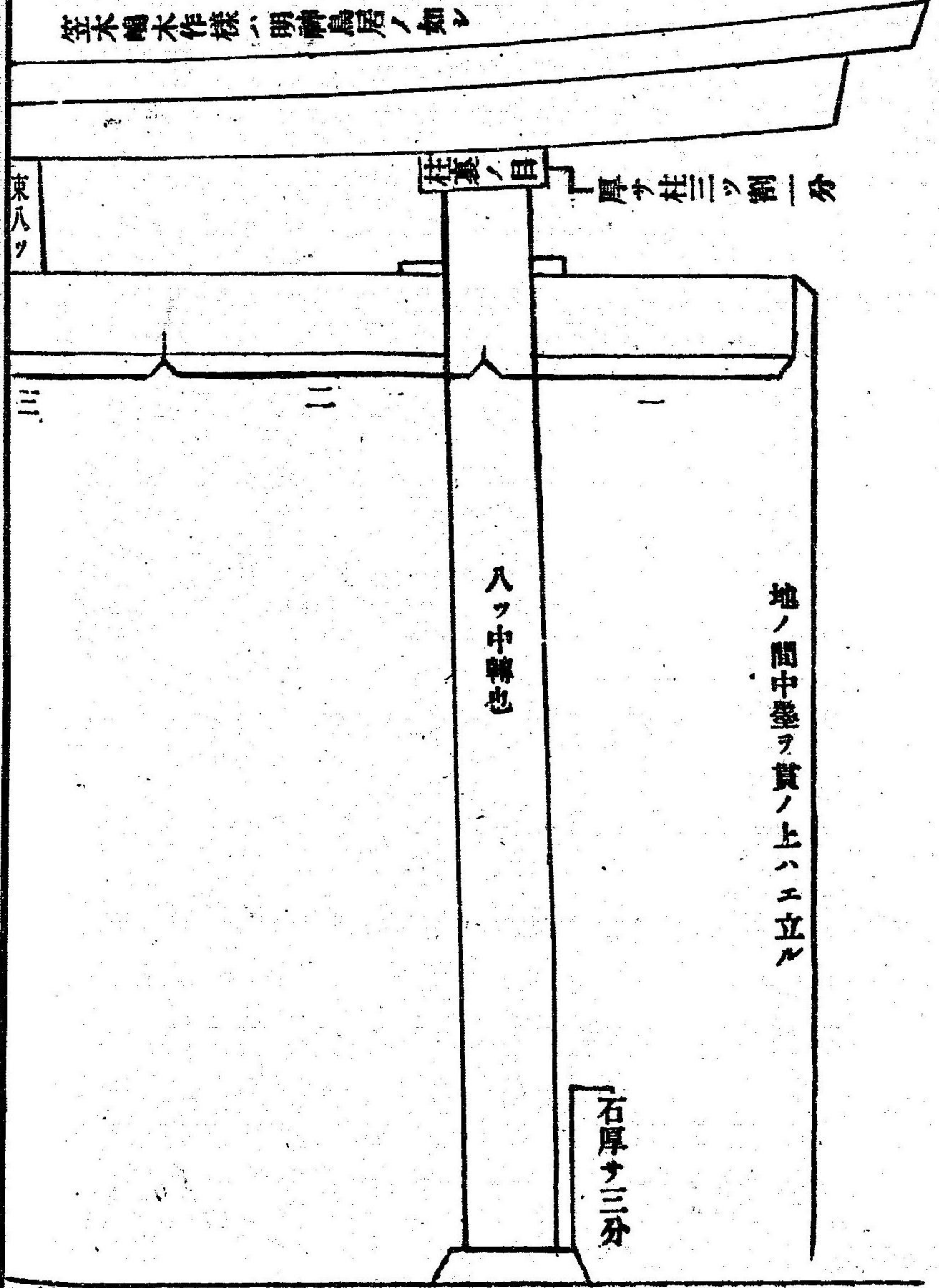
明神鳥居之事

一柱の大サ間にて寸壹分取なり上壹分こくなり貫の幅八分厚サ柱三ツ割壹ツ也貫長サ柱中墨三ツ割壹分出るなり束の幅八分根包大サ柱裏之目高サも柱裏之目程同上バ勾配は三寸嶋木貫の間はハシラ壹本明き笠木割合はハシラ十に割笠木四ツ嶋木六ツ也反はシマ木にて半分右の鼻に壹分増し有笠木の鼻にも二分増し有作り様は束の居所に壹分たるみ有様に作る也

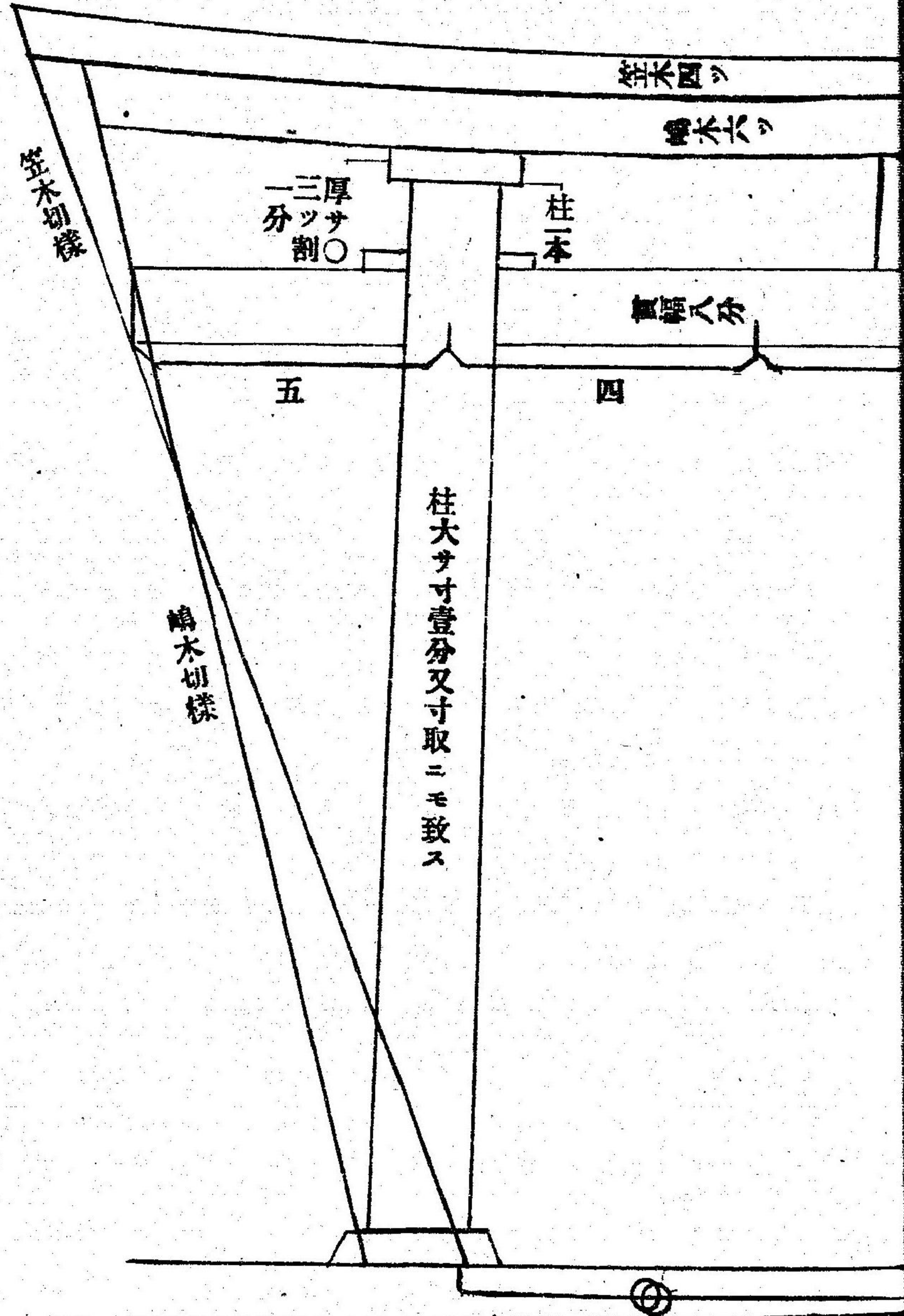


四ッ足鳥居之圖

笠木嶋木作様：明神鳥居ノ如ク

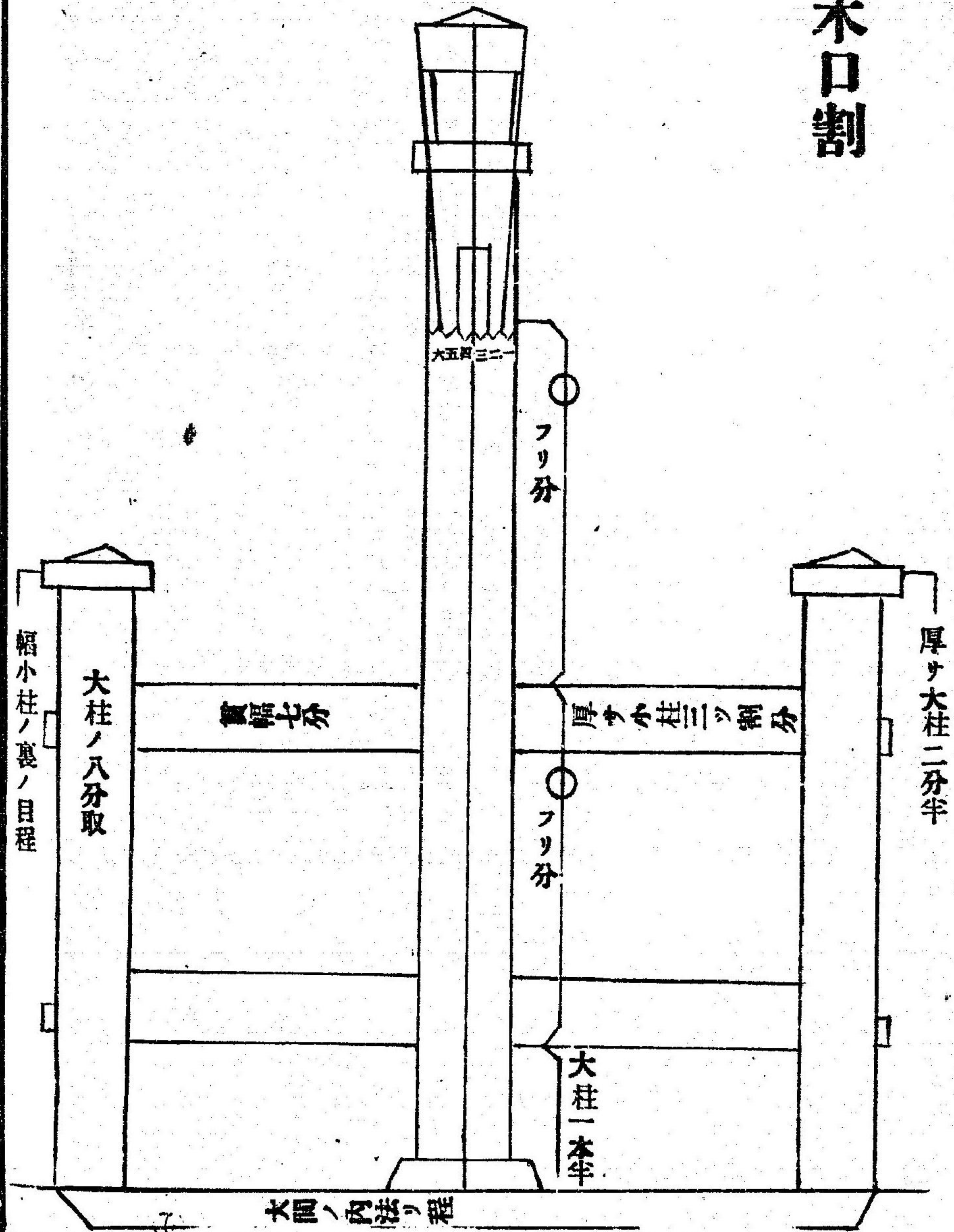


大圓ノ柱内径ヲ四ッ足ノ外径ニ比シ





同妻木口割

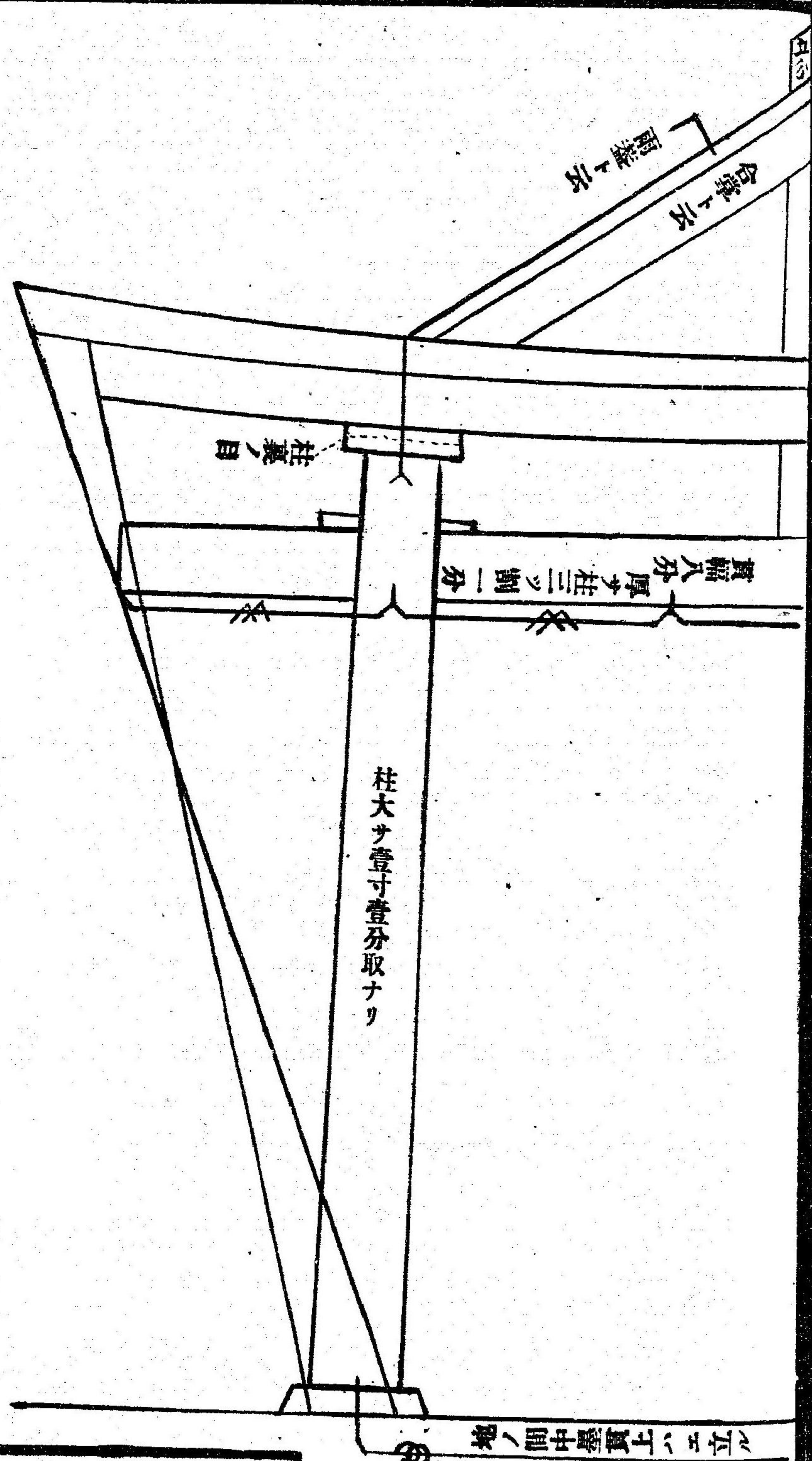
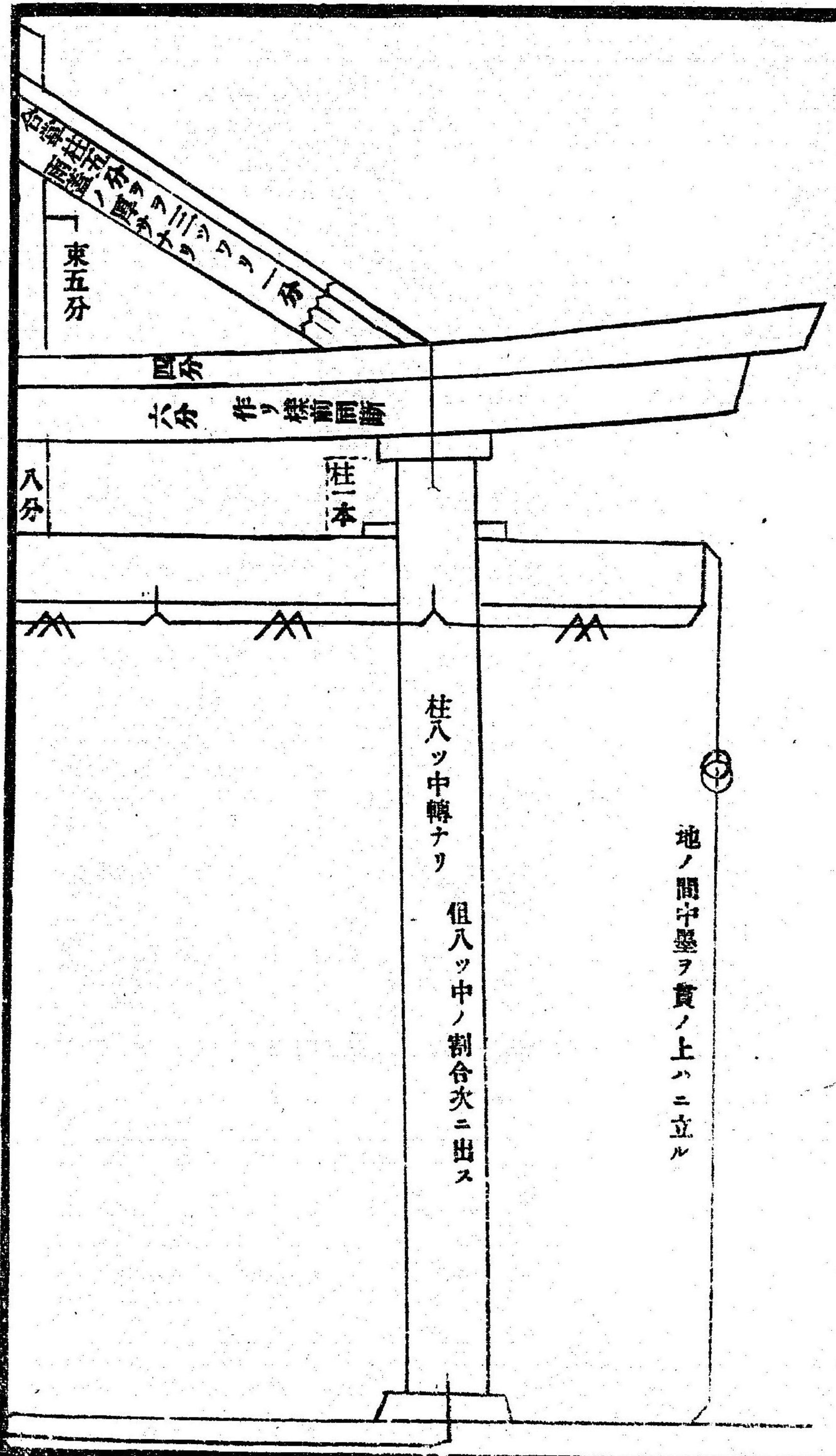


四ッ足鳥居之事

一柱の大サ大間にて寸壹分取上壹分こくなり貫の幅八分  
 厚サ柱三ツ割壹分也貫長サ柱中墨貫居所にて三ツ割に  
 て壹分貫長サに出すなり束八分上少し細くする也柱口  
 石大さ幅柱裏之目程厚さ三分臺輪大さハシラ裏之目程  
 厚さハシラ三ツ割壹分なり臺輪と貫の間ハシラ壹本挾  
 む也高サ地の間ハシナ中墨を貫の上バに當る也笠木作  
 様は束居所にて壹分緩に作り反は鳴木半分同鼻に壹分  
 増し笠木四分鳴木六分也ハシラ轉は八ツ中也



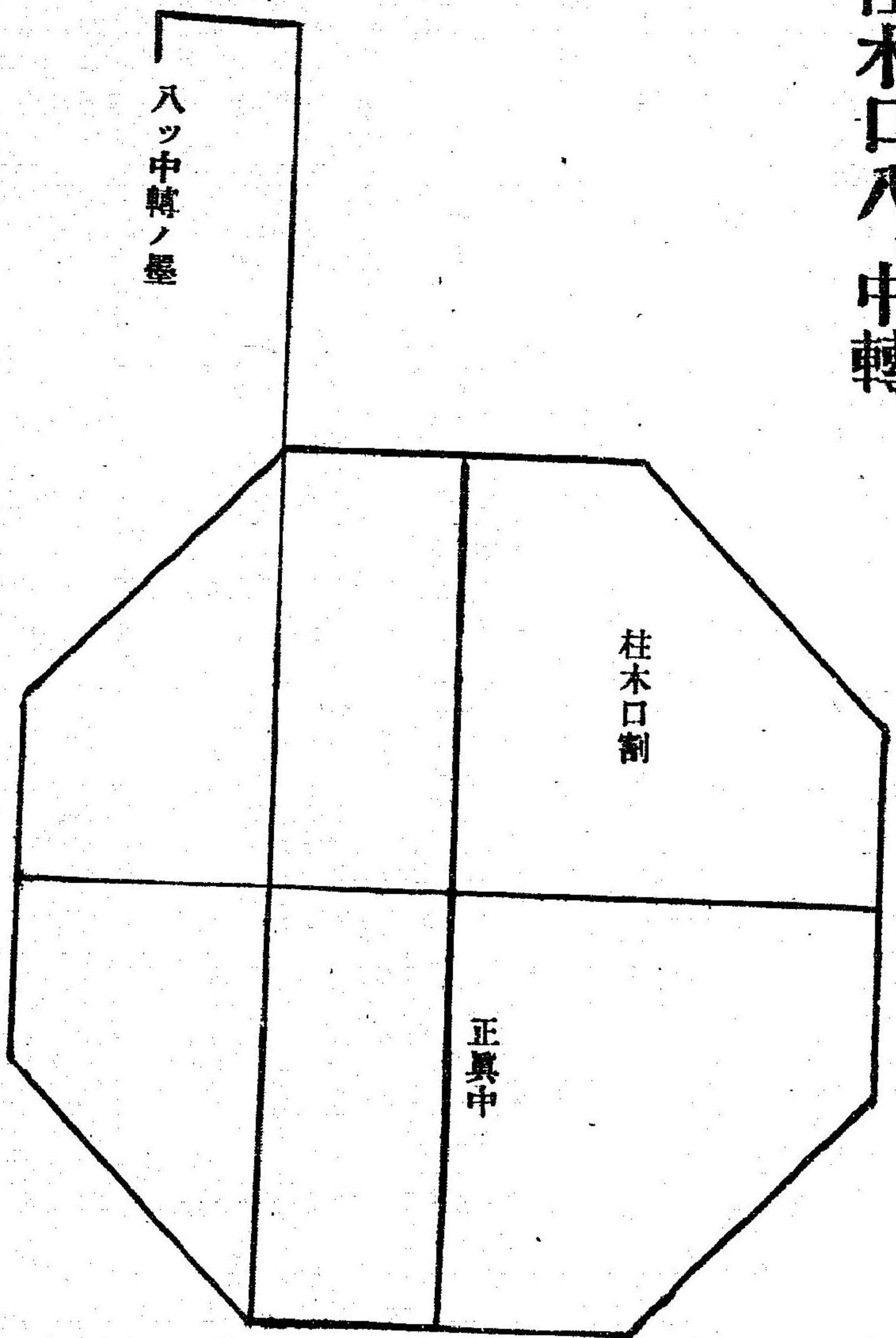
山王鳥居之圖



地ノ間中堅ヲ貫ノ上ハニ立ル



柱木口八ツ中轉

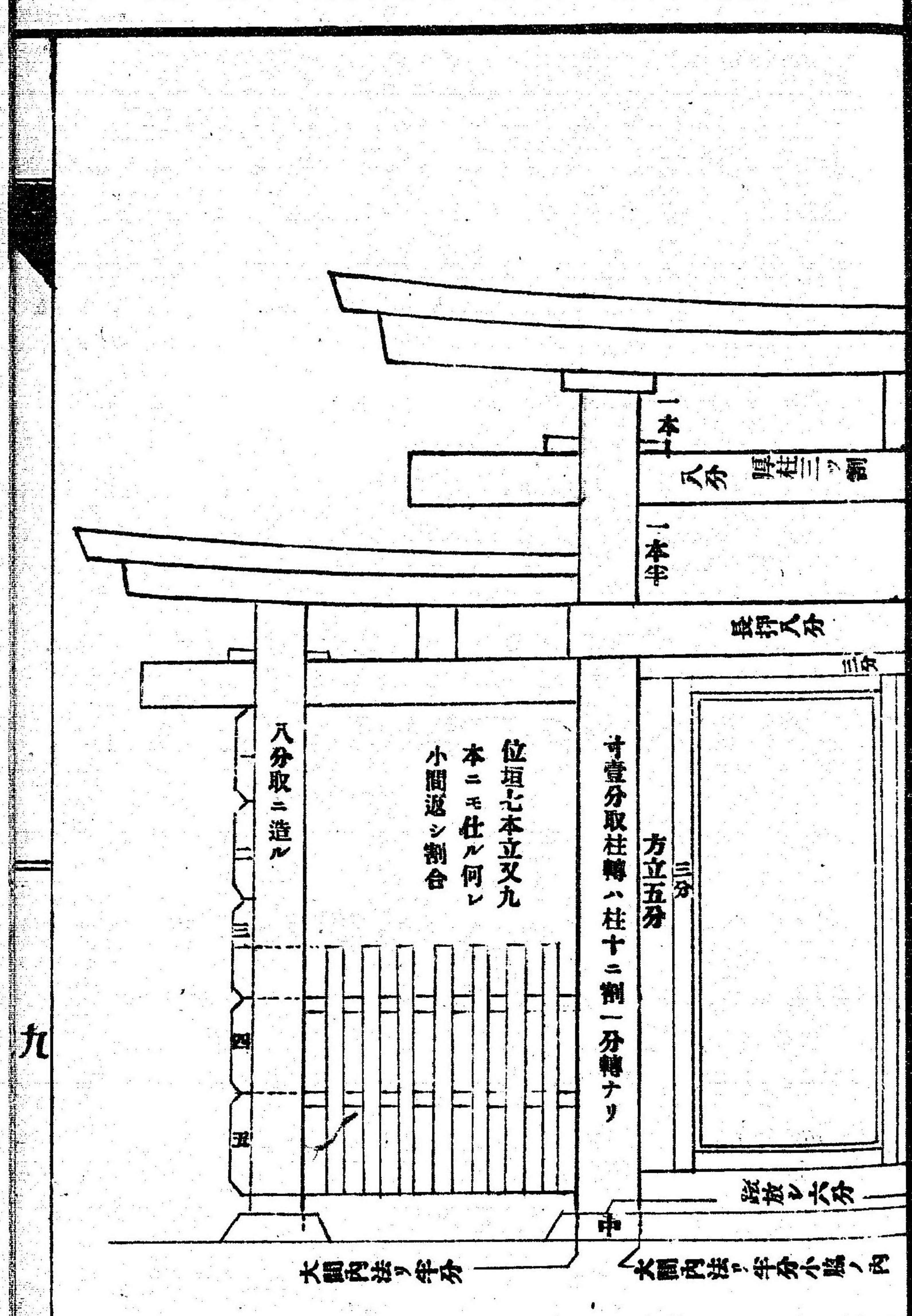
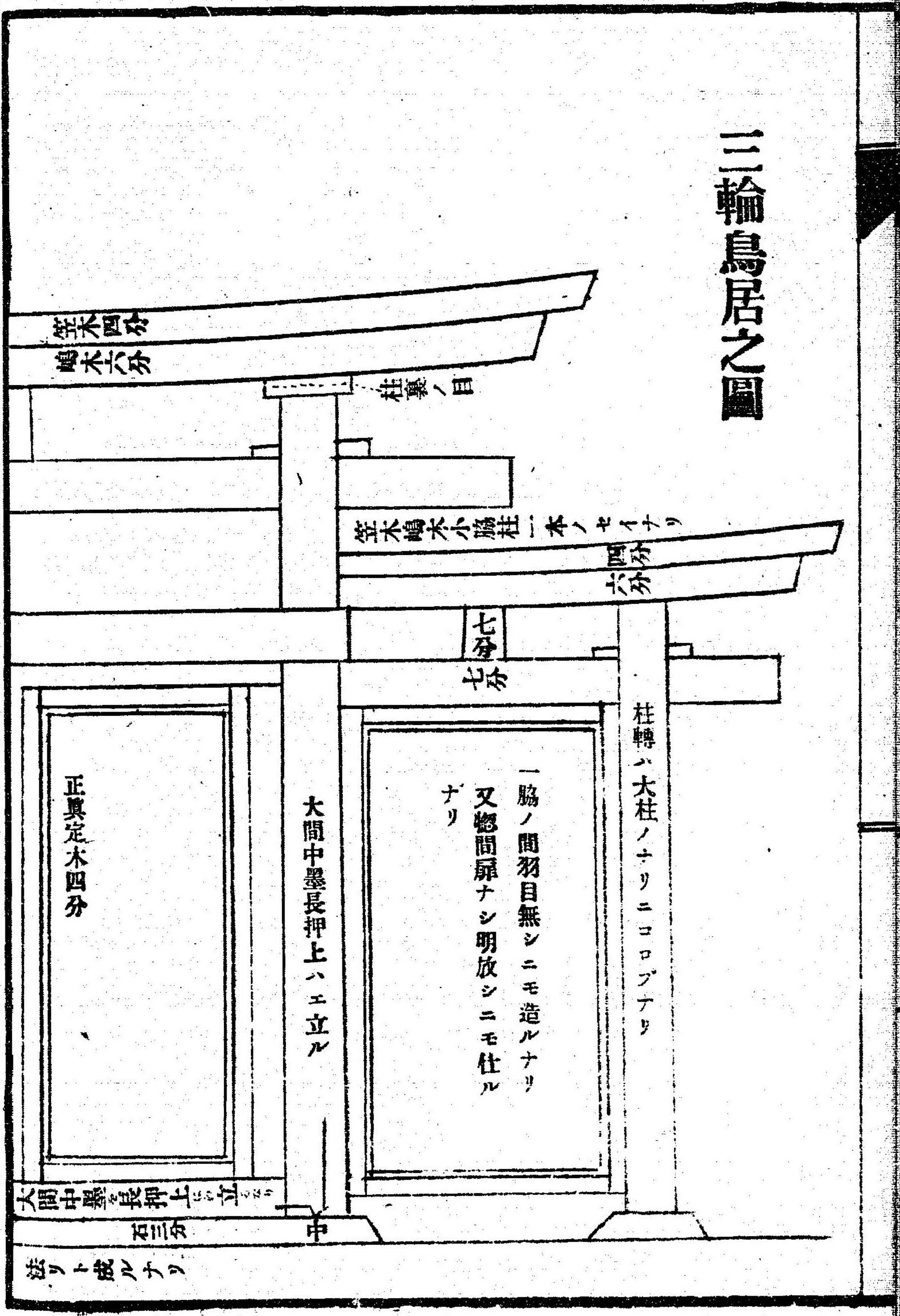


山王鳥居之事

一柱の大サ間にて壹寸壹分貫の幅は柱の八分厚サ柱三ツ割壹ツなり束八分上少し細くし臺輪の厚さ柱三ツ割壹ツ也幅は柱の裏の目程笠木嶋木ハシラ十に割笠木四ツ嶋木六ツ也割合は常の如しハシラ轉は八ツ中轉也合掌の大サハシラの五分右三つ割壹分雨蓋の厚さなり束大さ五分上少し細くし合掌上笠木五分にセイ其木にて二分増し勾配は六寸五分又七寸にても仕る立所はハシラ中墨に雨蓋の上バ當る様に作るなり



三輪鳥居之圖

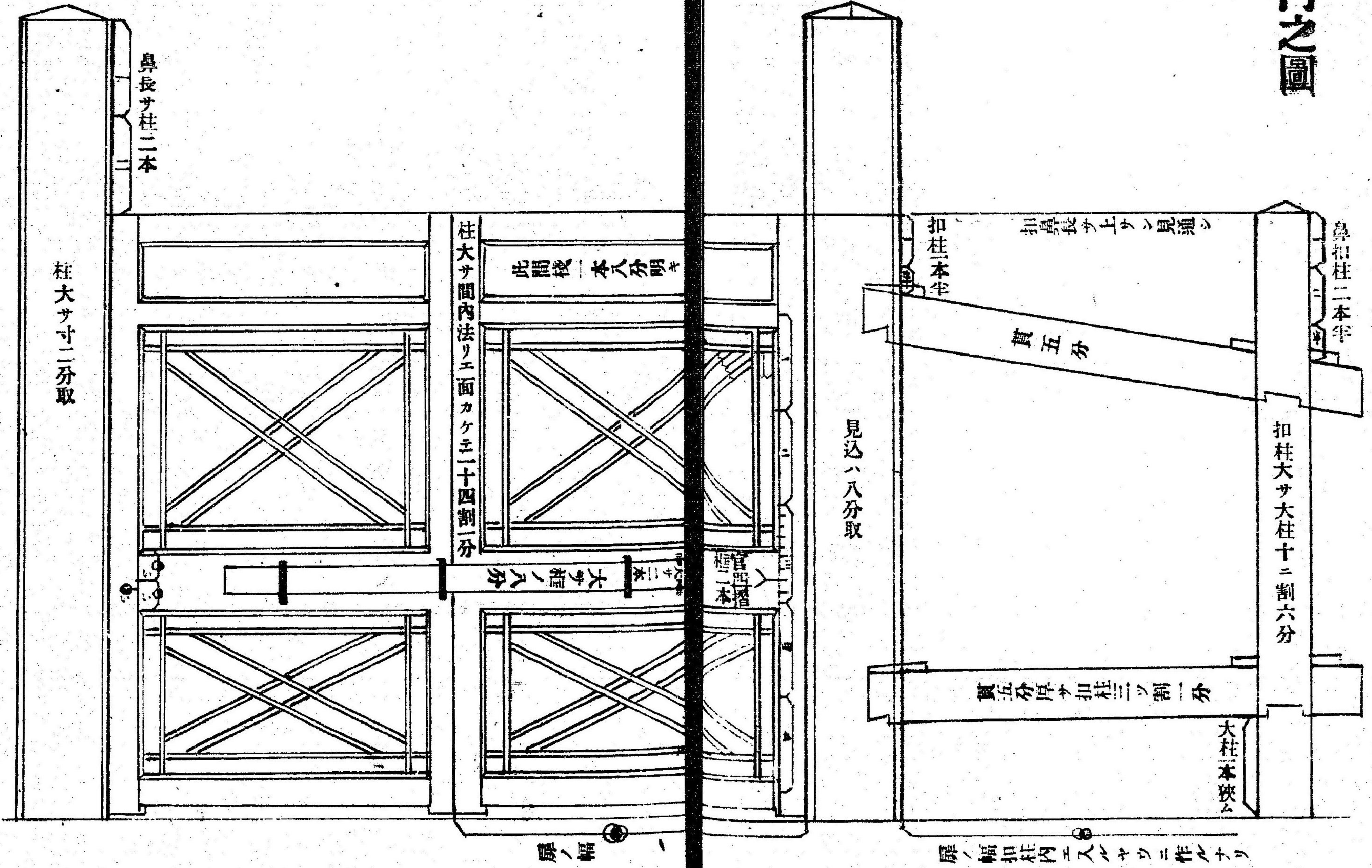








平屏重門之圖



柱大サ寸二分取

鼻長サ柱二本

柱大サ間内法リニ面カケニ二十四割一分

此間後一本八分明キ

大サ間ハ八分

扉ノ輕

見込ハ八分取

扣柱本半

鼻長サ上サノ取廻シ

取五分

鼻扣柱二本半

扣柱大サ大柱十二割六分

鼻扣柱内ニ入クヤウニ柱ノナラ

大柱本狭ク

扉ノ輕



## 平屏重門之事

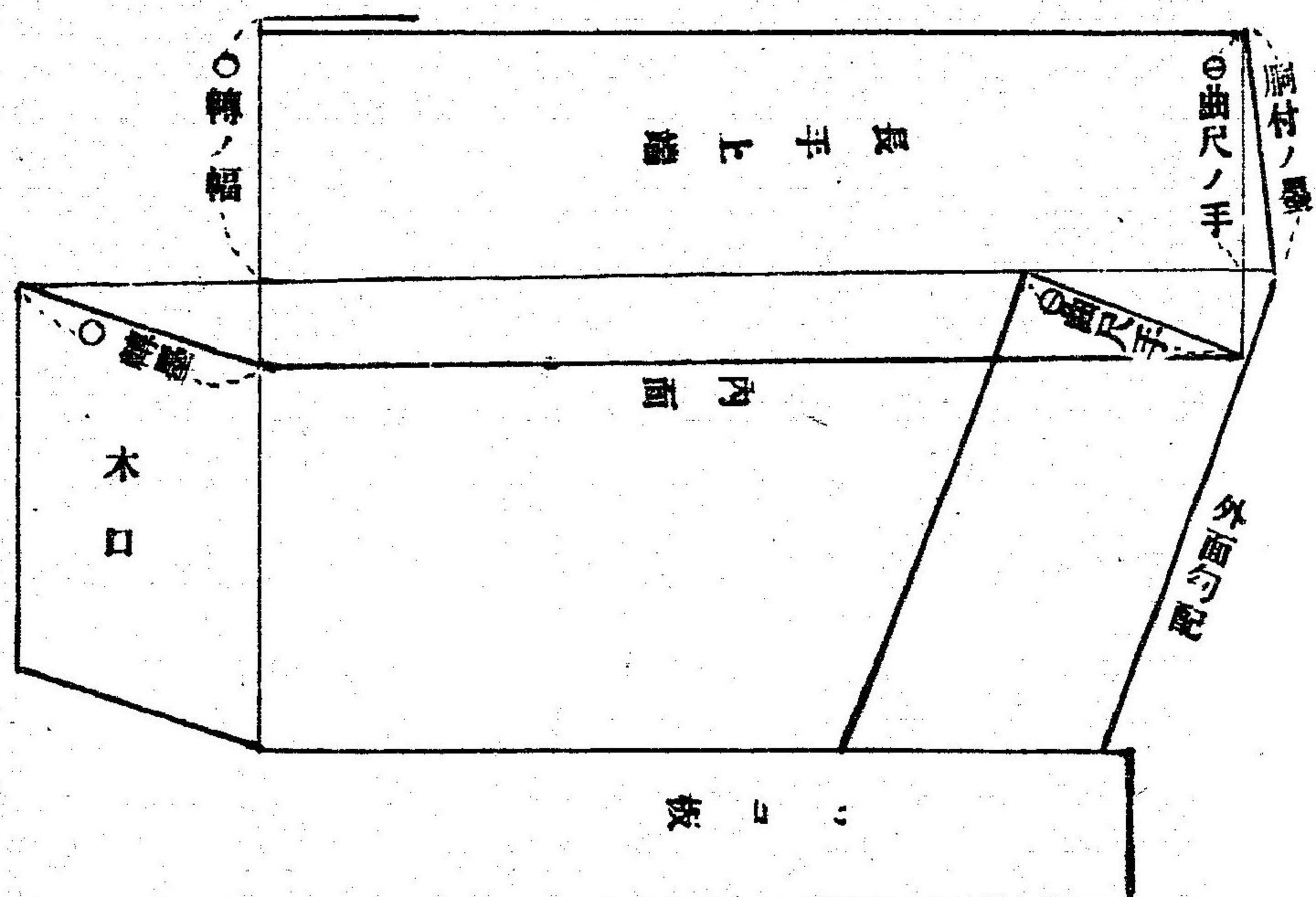
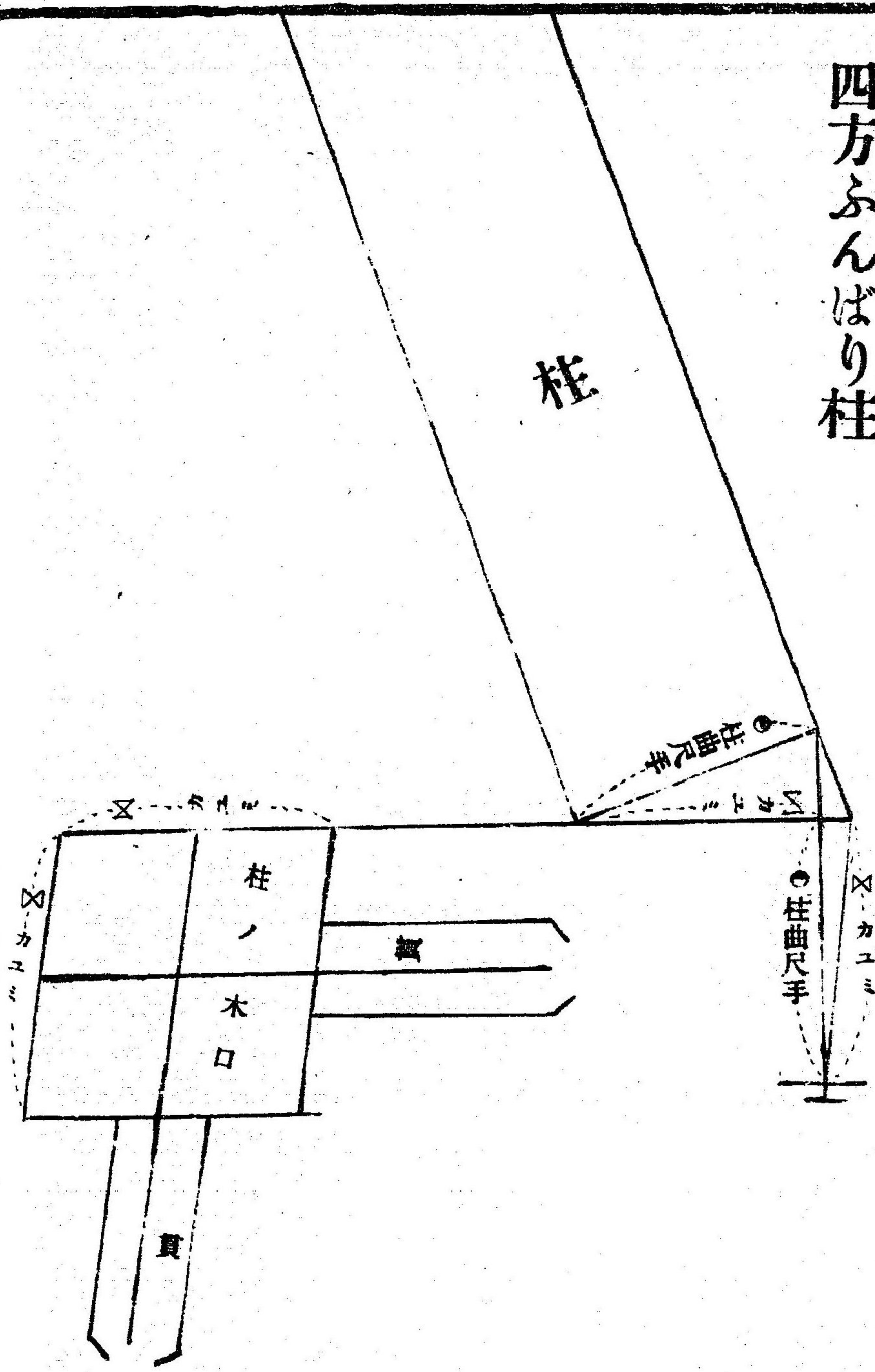
一柱の大サ大間にて寸二分取見込八分但寸二分ト申ハ總間中墨十柱ニ割十二ラ寸二分ト申ナリ鼻出は柱二本の出也鼻の上三寸勾配に切也扣柱大サ大柱十に割六分角也貫幅五分厚さ扣ハシラ三ツ壹分也扣貫上バ扉上バより扣ハシラ壹本半下て貫上バに致し扣ハシラ鼻長サ扉の上棧見通し上ハ三寸勾配に切る也扣ハシラの鼻より扣ハシラ大サ二本半下けて扣貫の上バに致し足元貫は地の上より大はしら壹本挾て貫下バ也貫幅五分扣はしらの立所は扉ひらさて扣はしらの内へ押込様に扣はしらを立る也扉框割合大柱内法をかまち

面程かけて間内二十四に割壹分框の大サ也見込は框の八分也割合は上棧より棧壹本八分の明き中棧より摺棧中墨五ツ割中棧中墨より二ツ八分として門持の中墨に定むる也門持の大サさる二本の大サくわんぬきの大サ框八分長さは扉中門持カナ物の眞より其木大サ二本出しなりたすきの大サ框四ツ割壹分也明きはたすき二本挾む也大柱の面は十に割壹分也

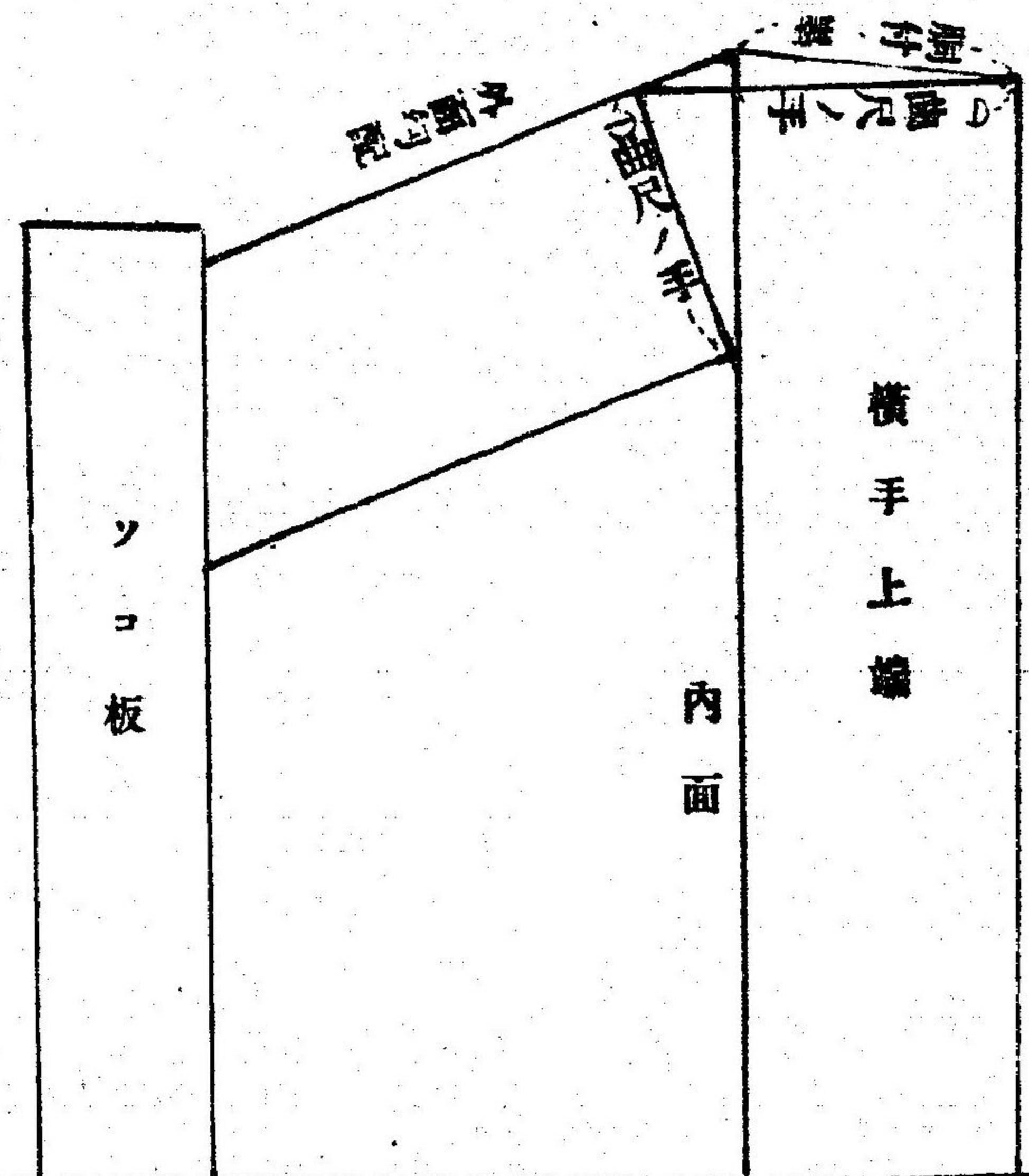


四方ふんばり柱

柱

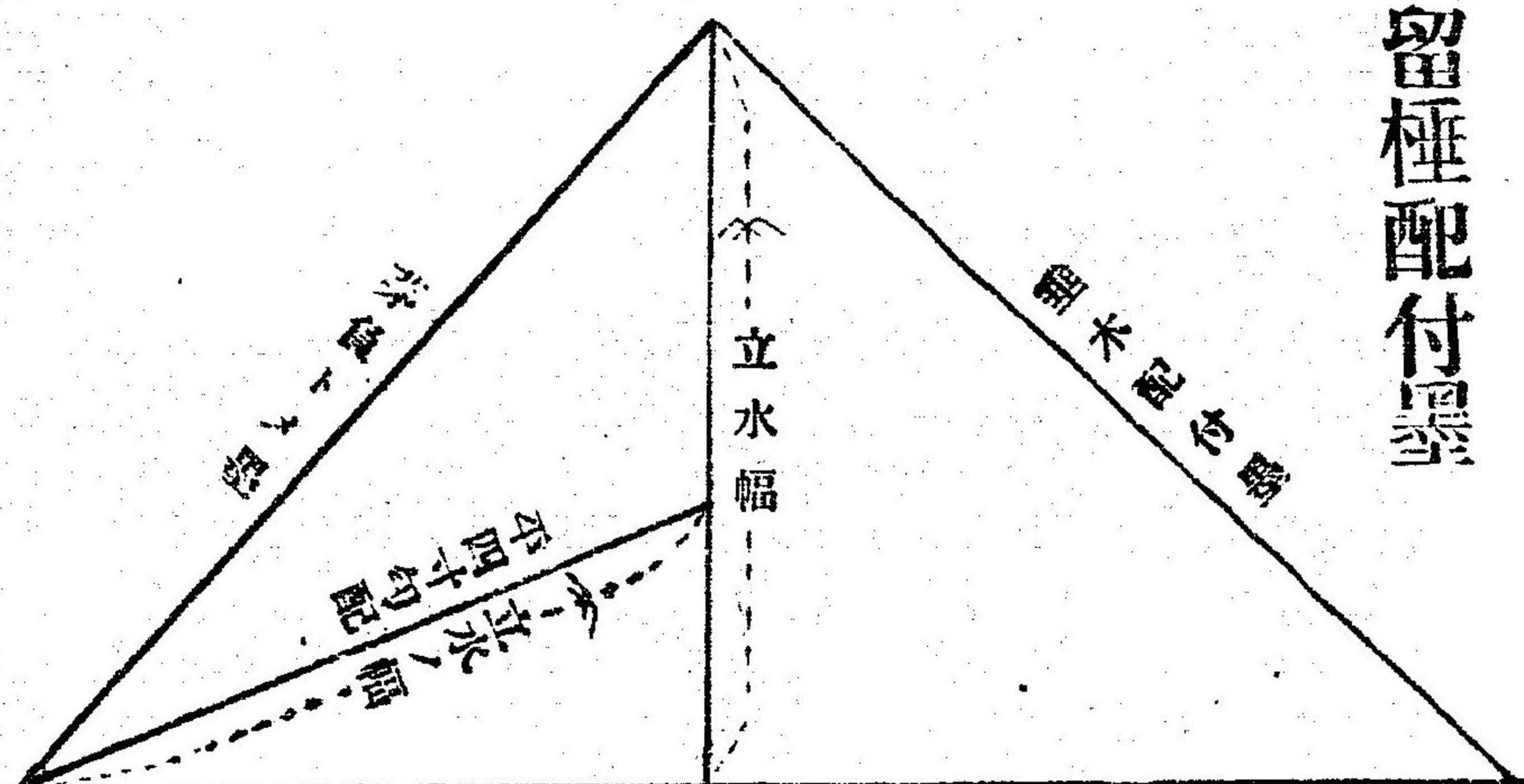


朝がほ指曲尺遣様

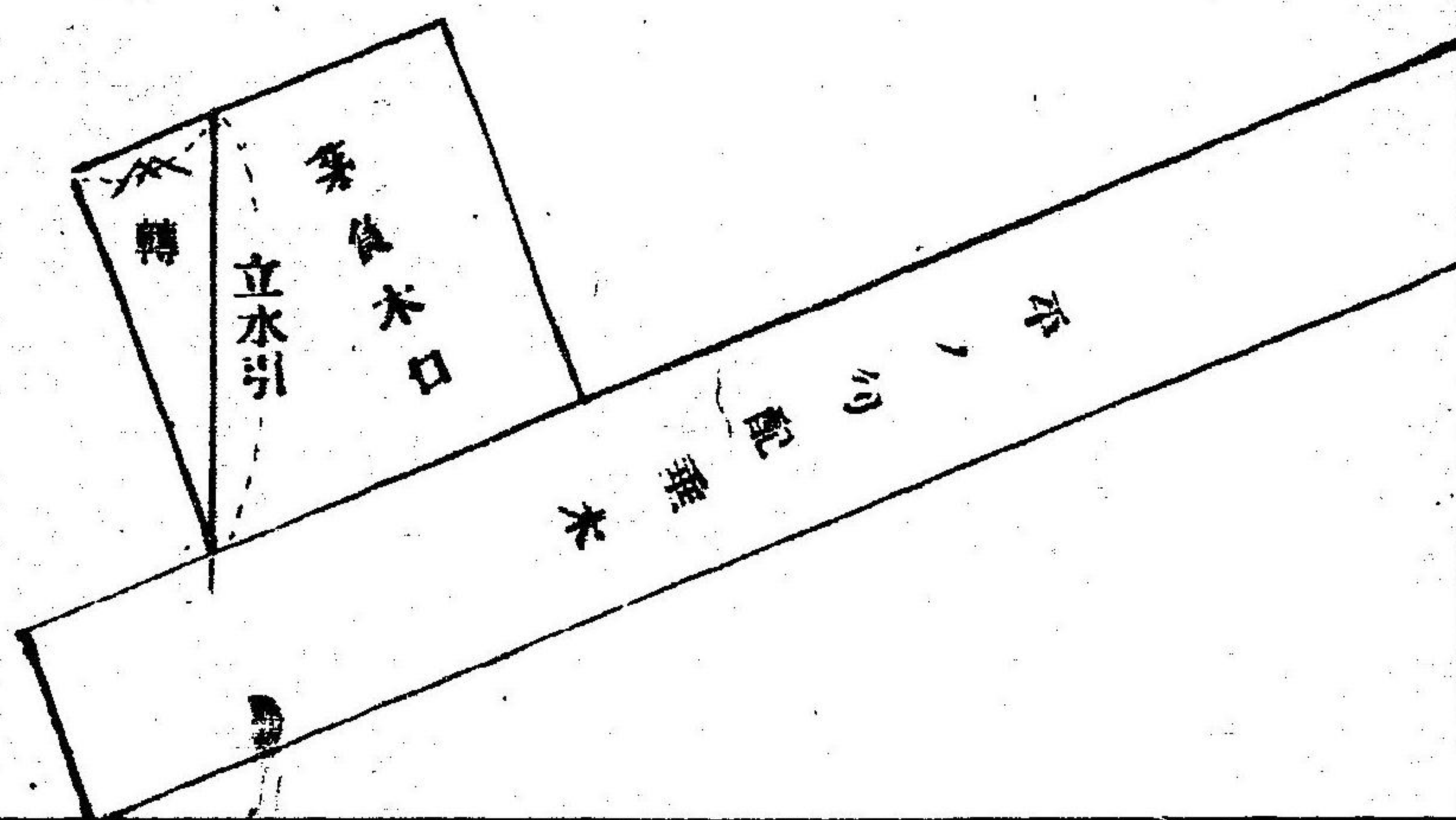




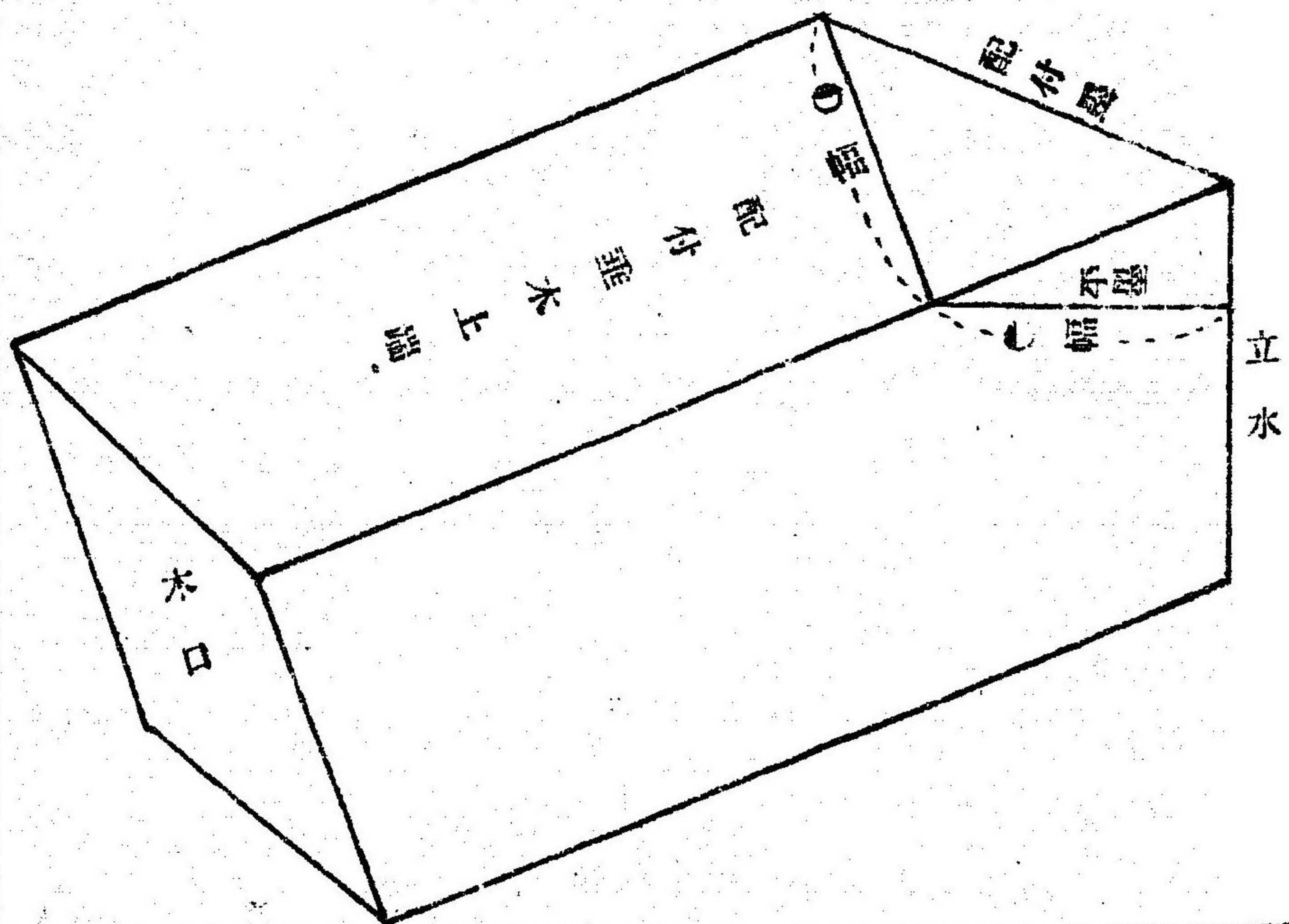
茅肩の留榫配付墨



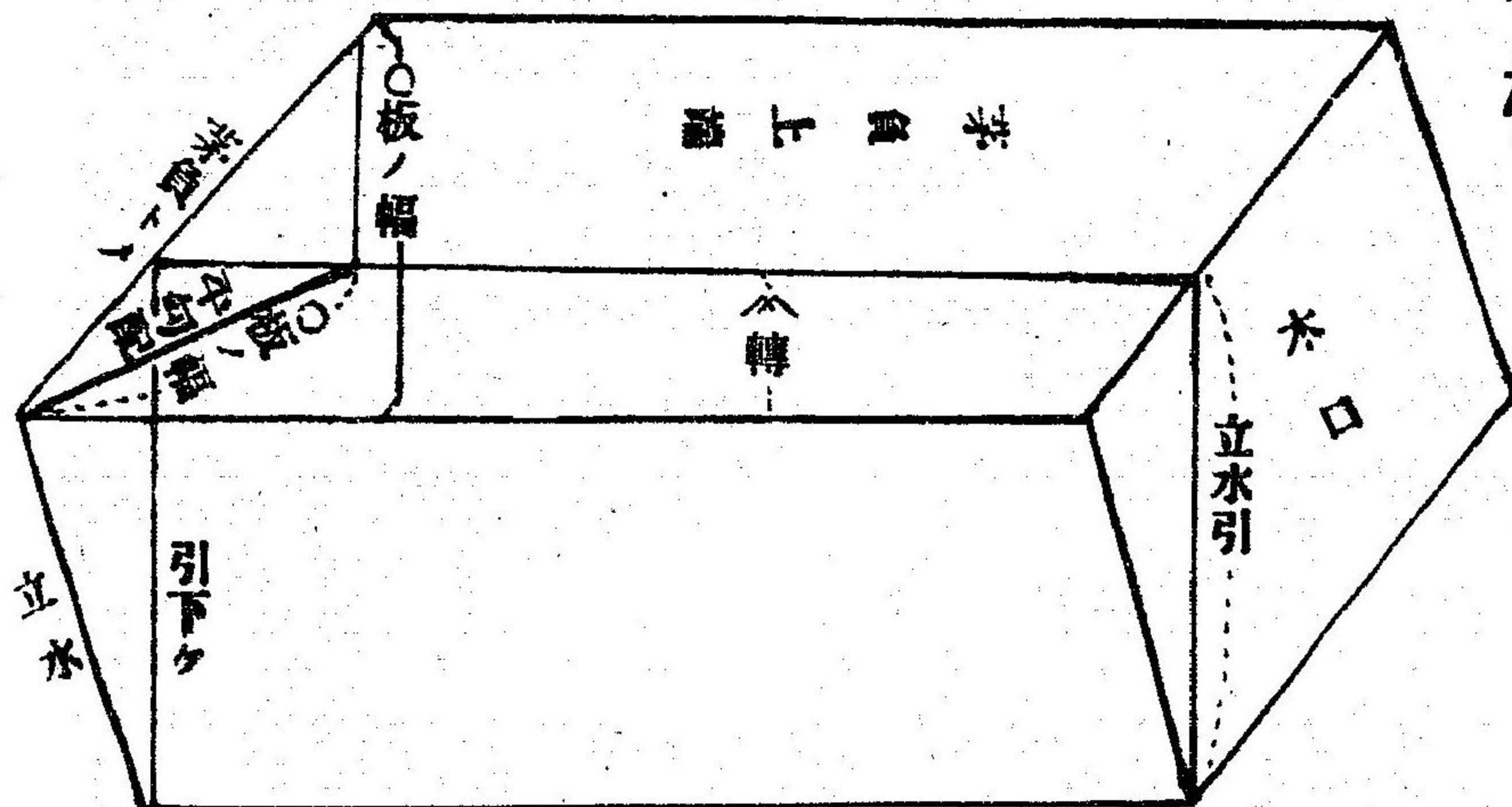
茅肩轉の墨



墨の返端下榫付配



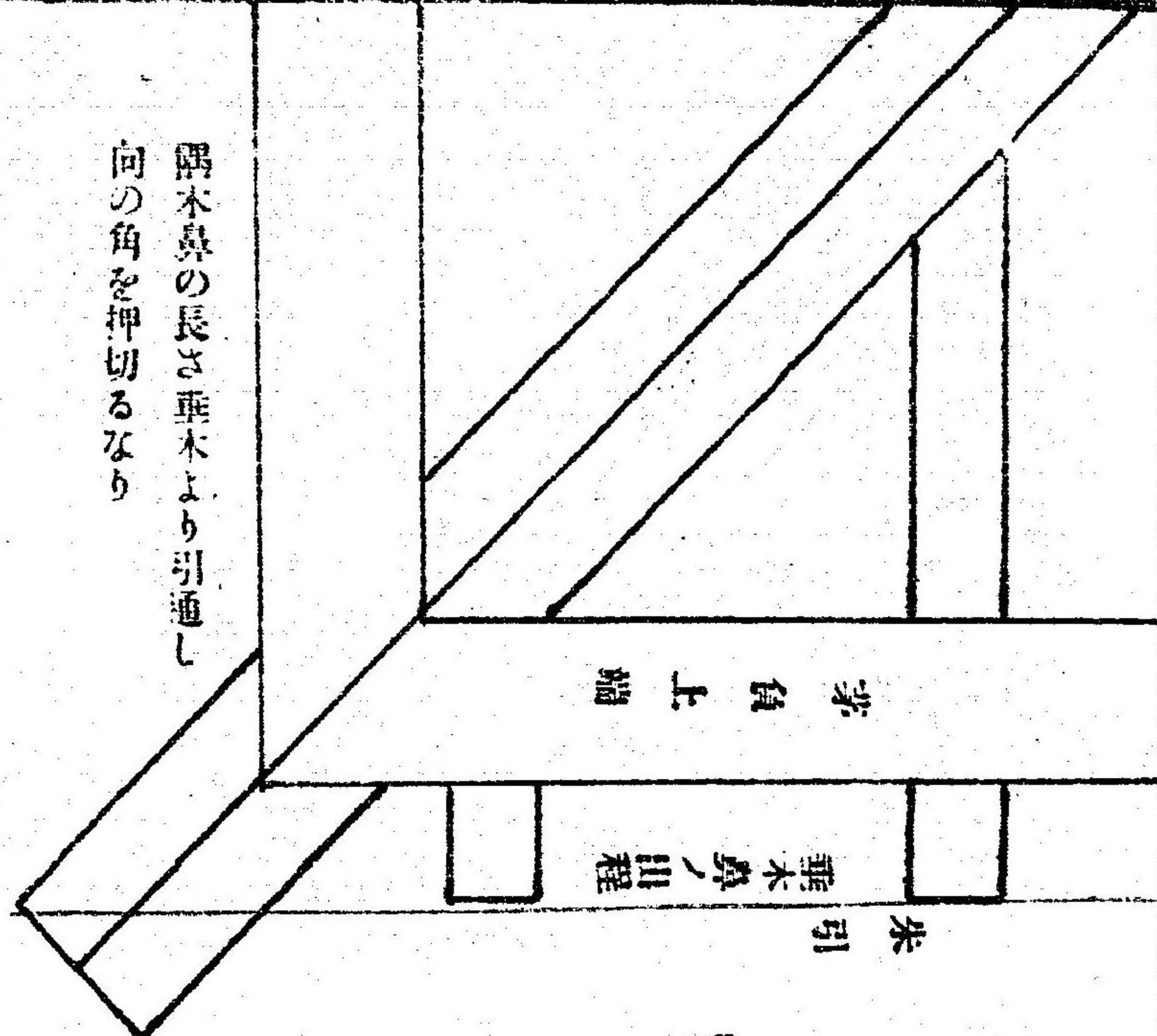
茅肩留切様



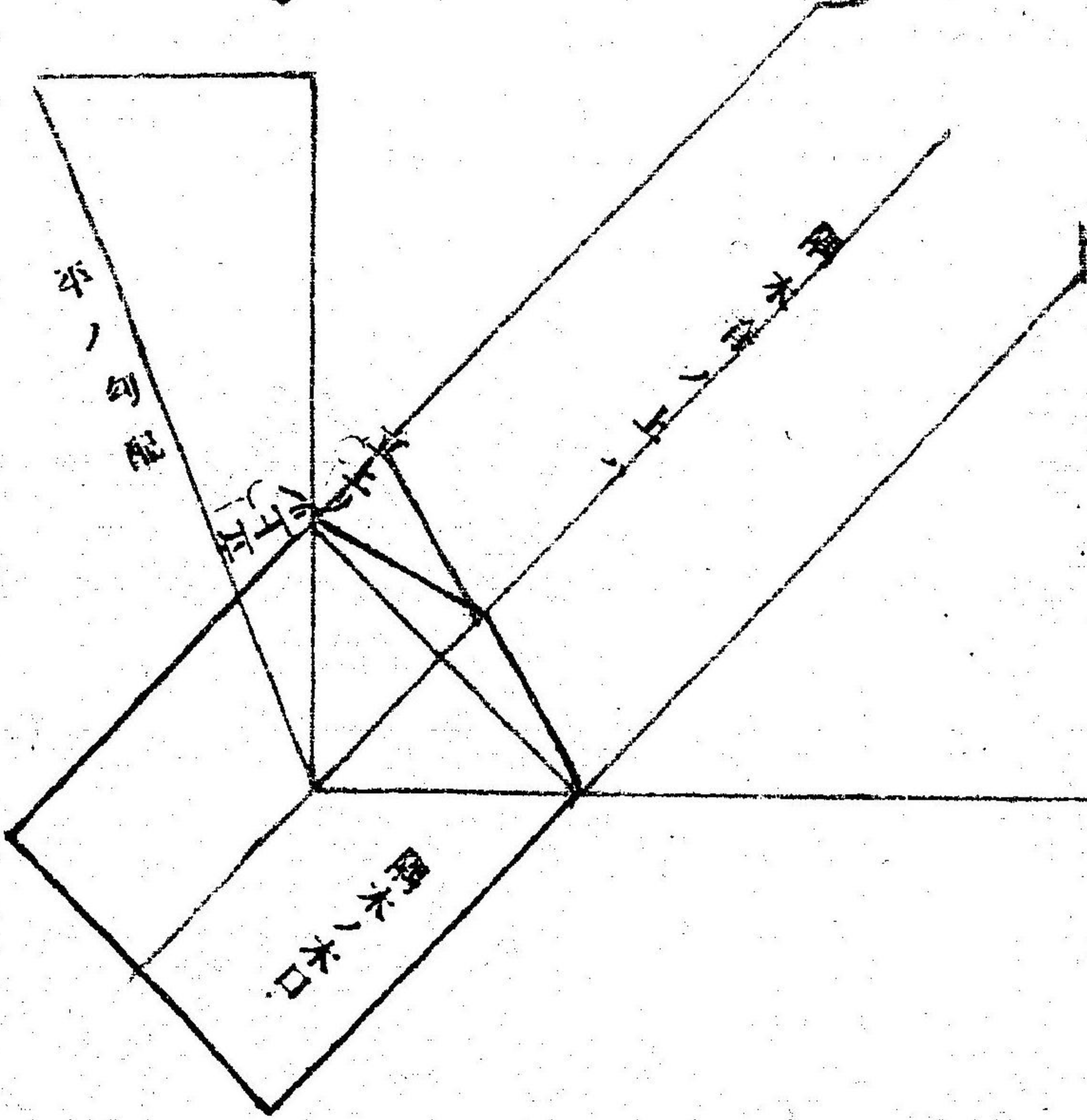


隅木鼻の切様

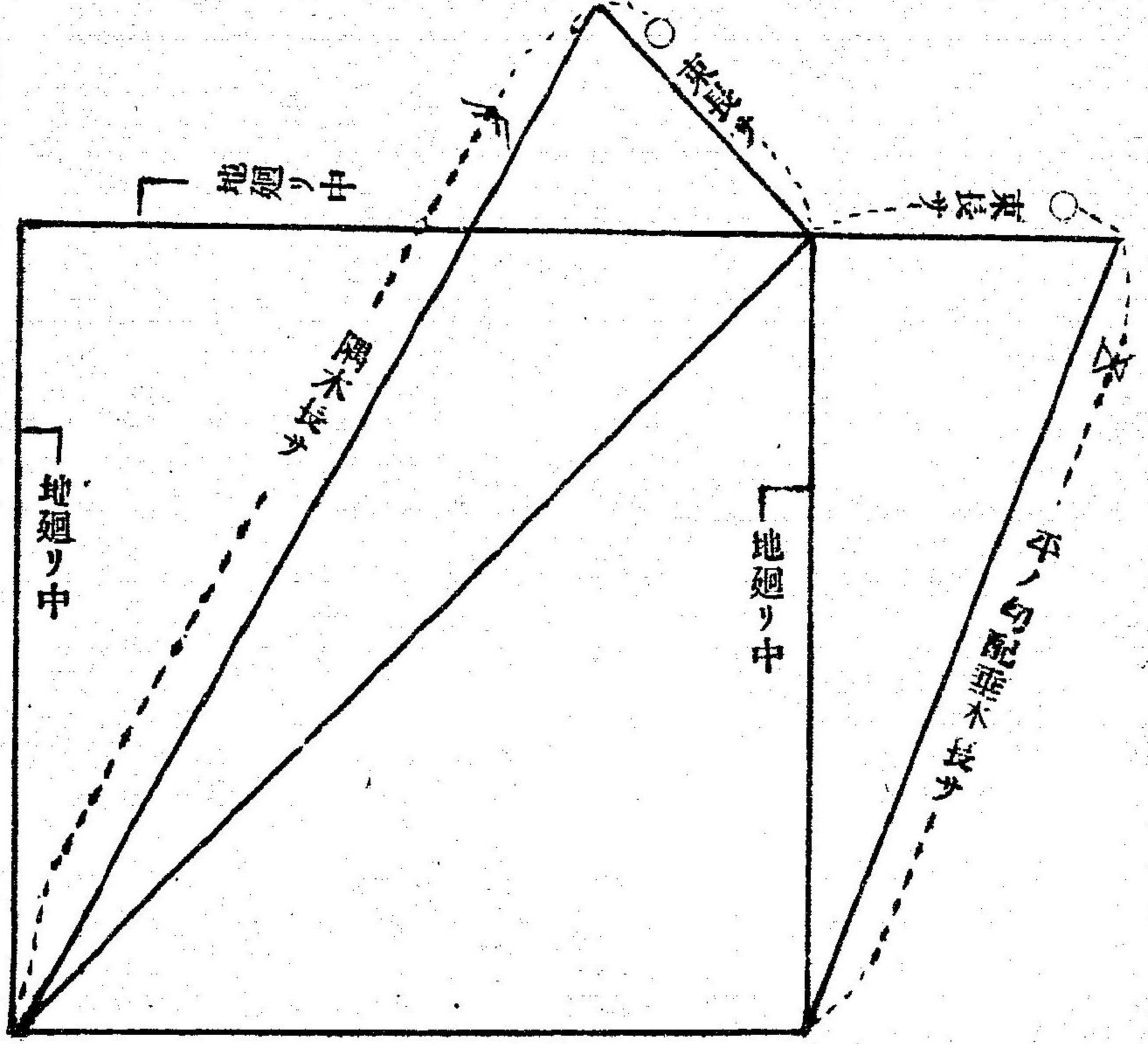
隅木鼻の長さ垂木より引通し  
向の角を押切るなり



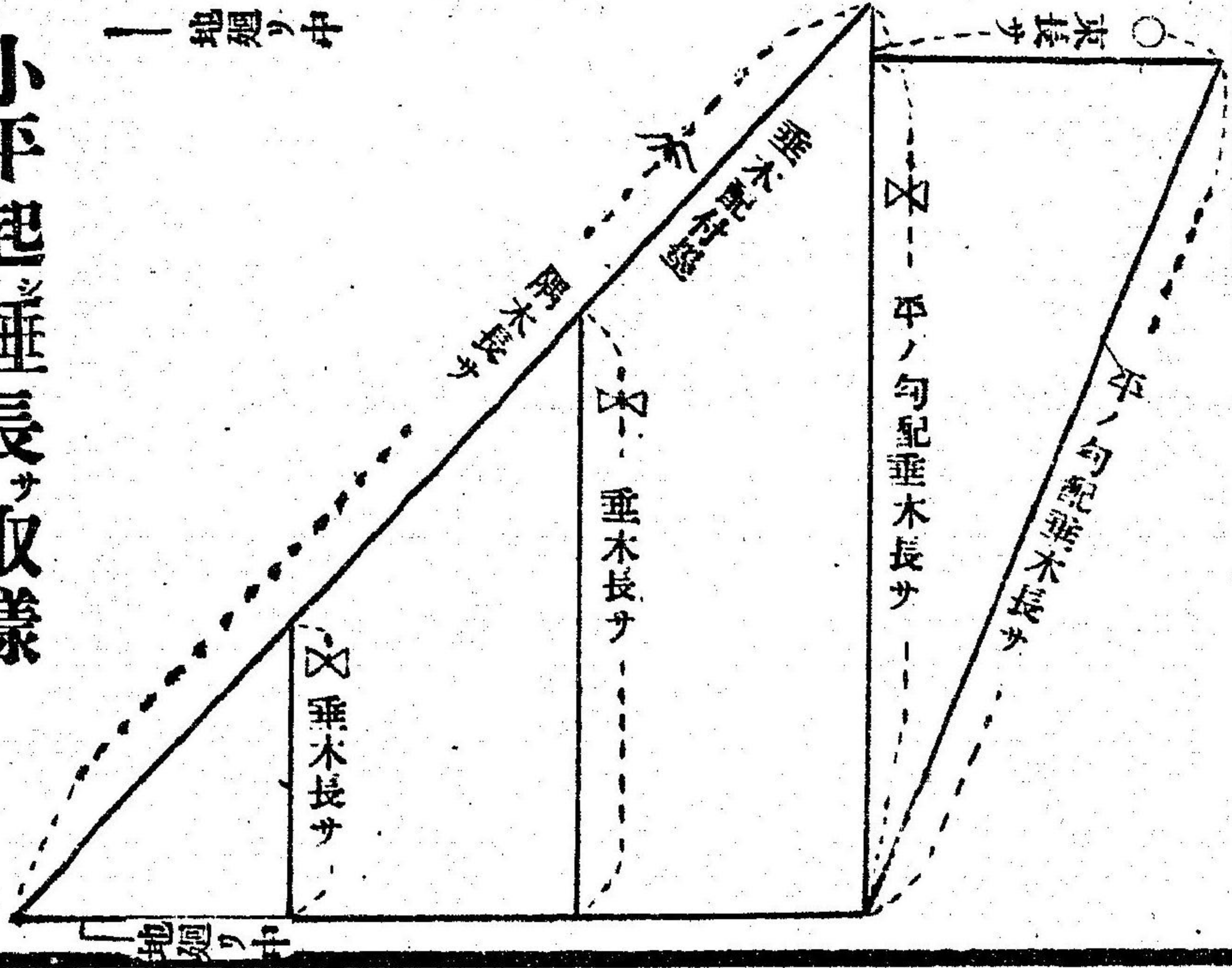
隅木上端の取様



隅木長サ并東長サ取様

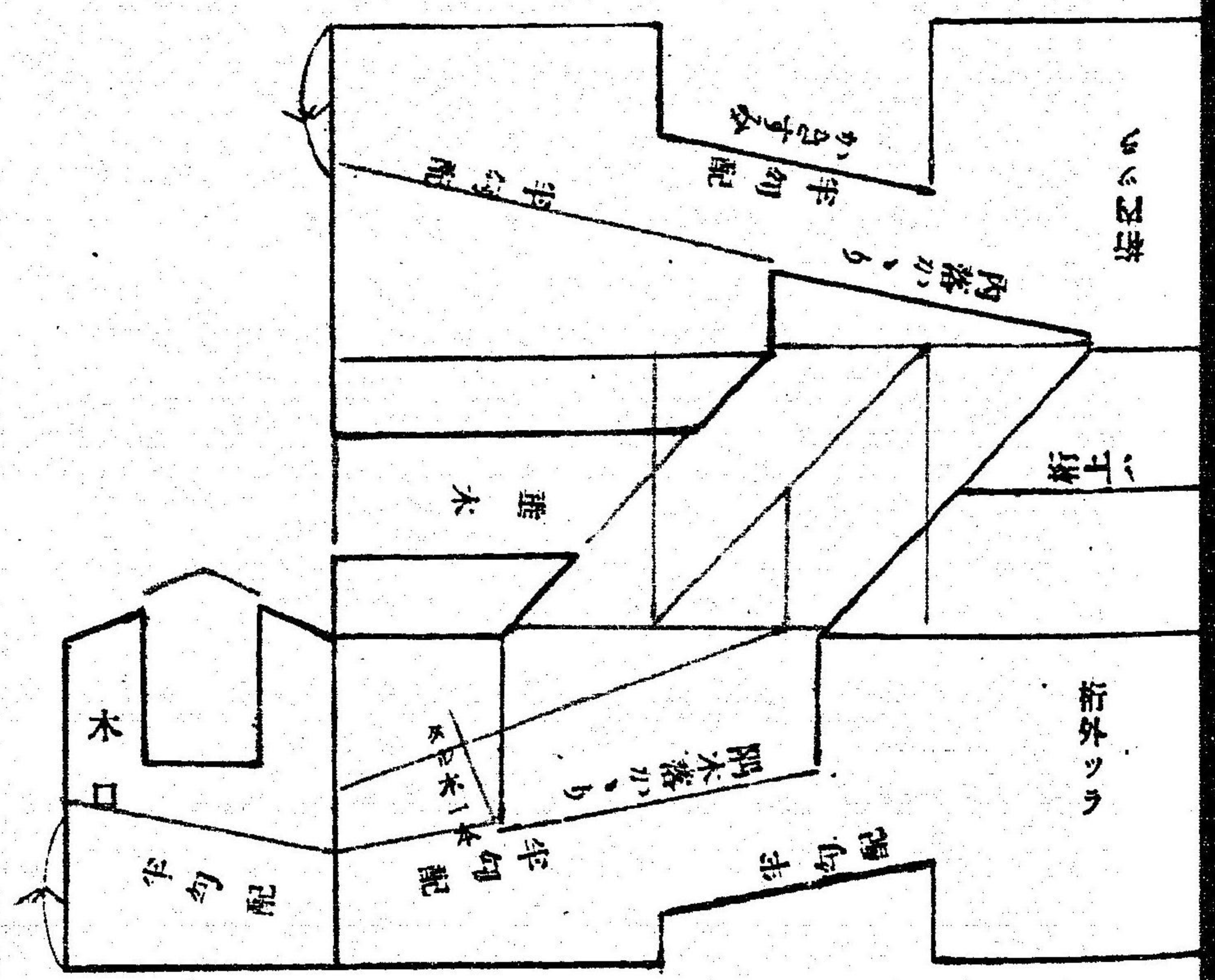
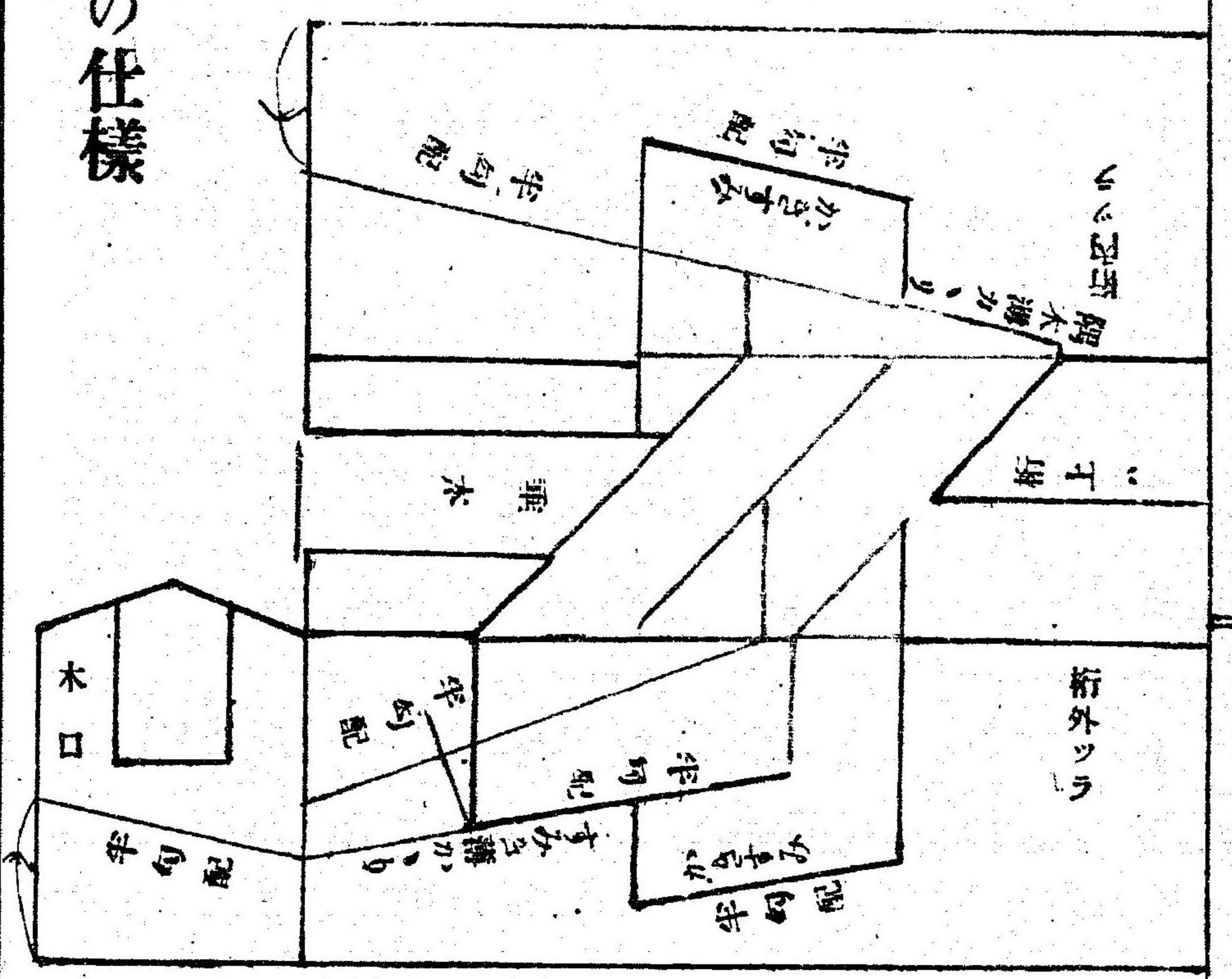


小平起極長サ取様

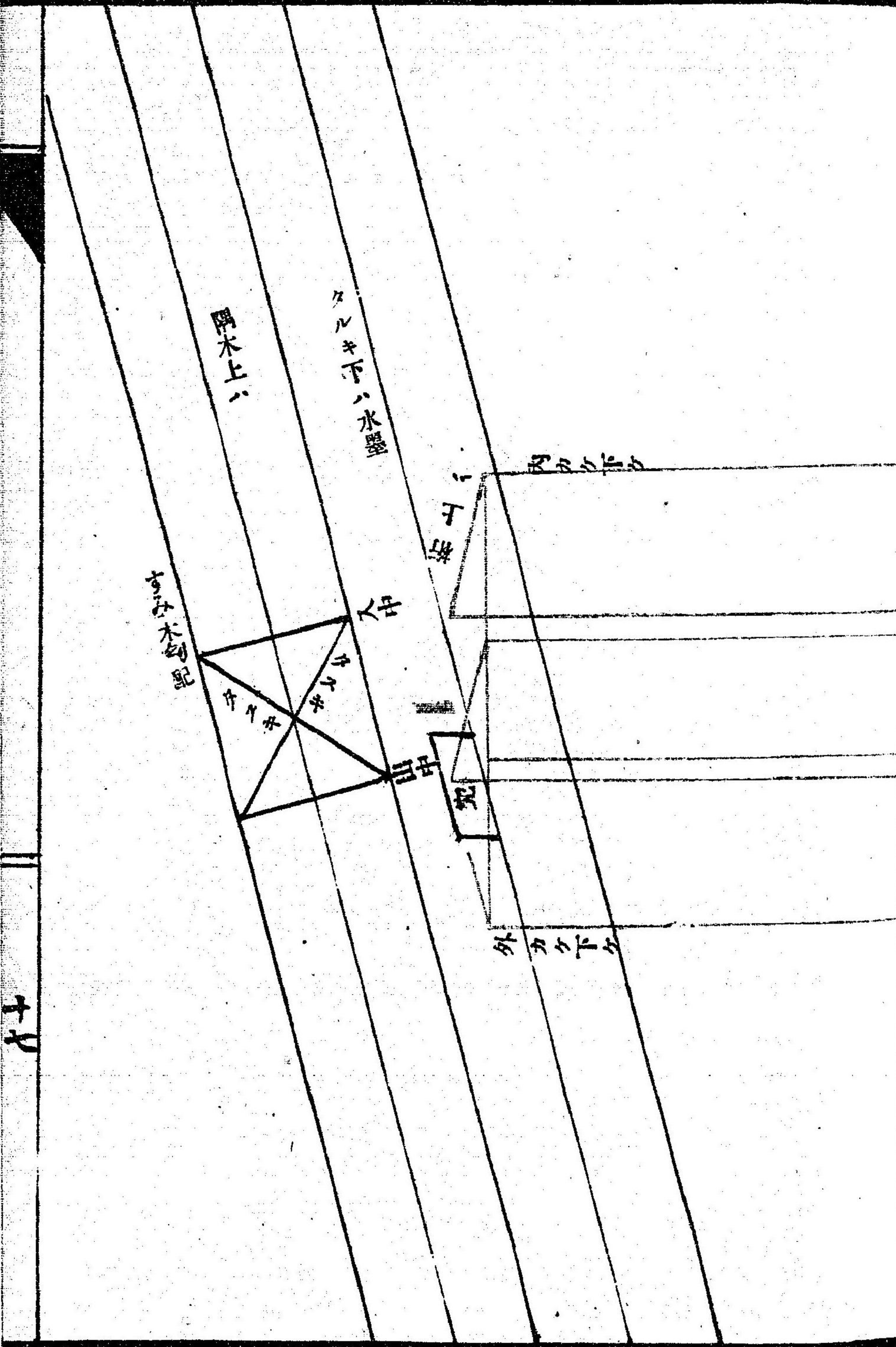




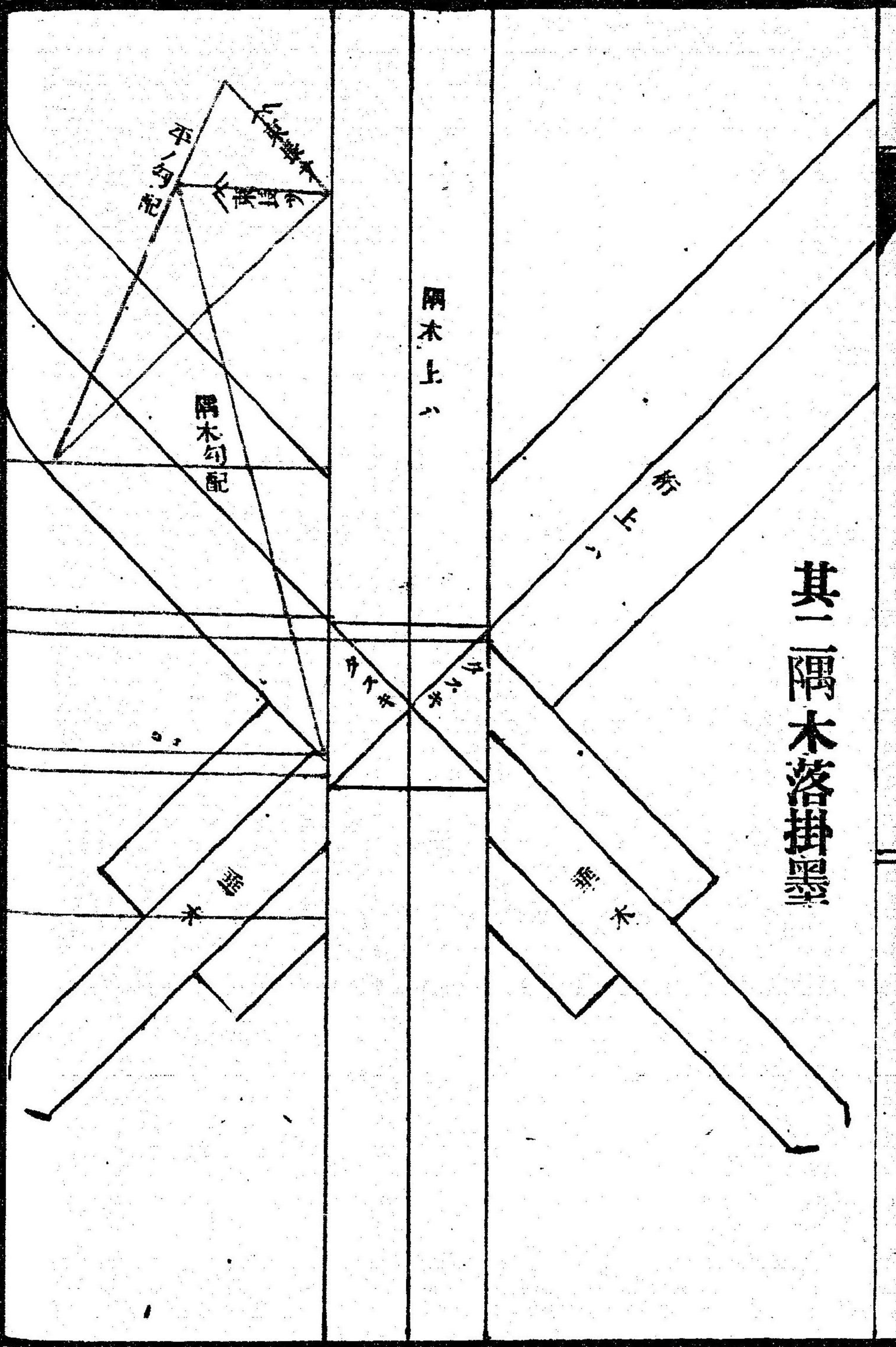
地廻り落掛り墨の仕様







十六

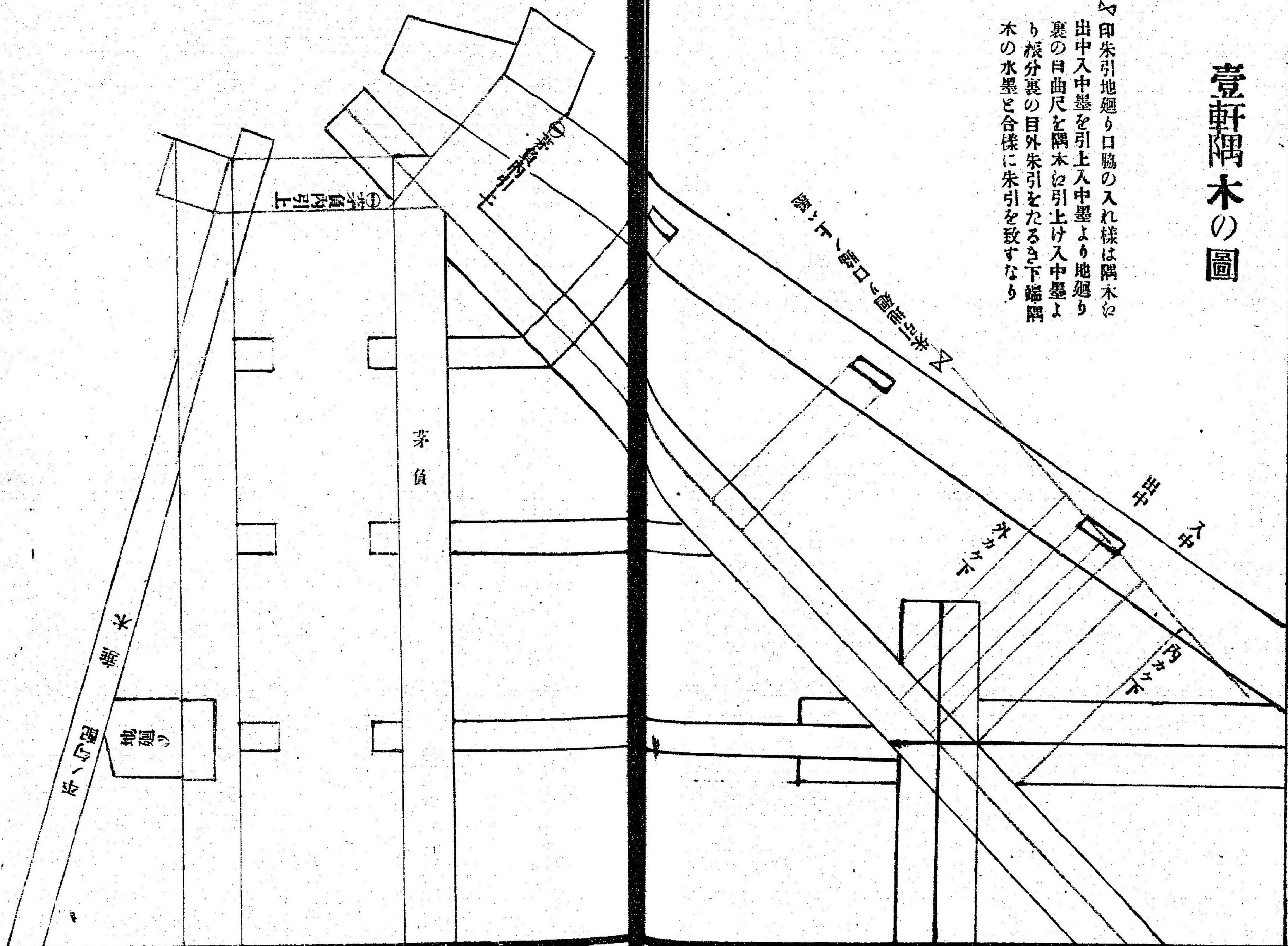


其二隅木落掛壁



# 壹軒隅木の圖

印朱引地廻り口脇の入れ様は隅木の  
 出中入中墨を引上入中墨より地廻り  
 裏の目曲尺を隅木の引上げ入中墨よ  
 り板分裏の目外朱引をたるき下端隅  
 木の水墨と合様に朱引を致すなり



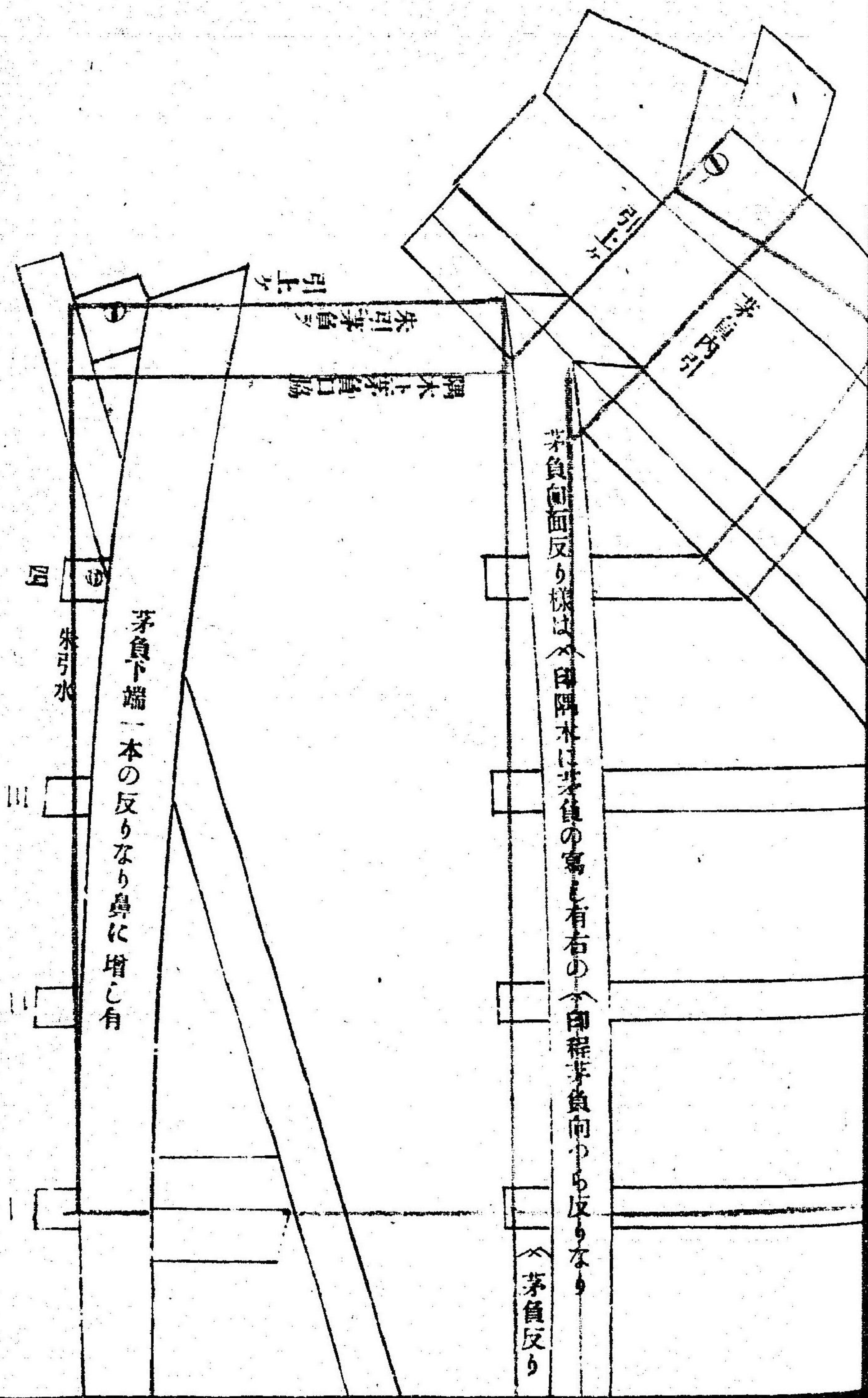
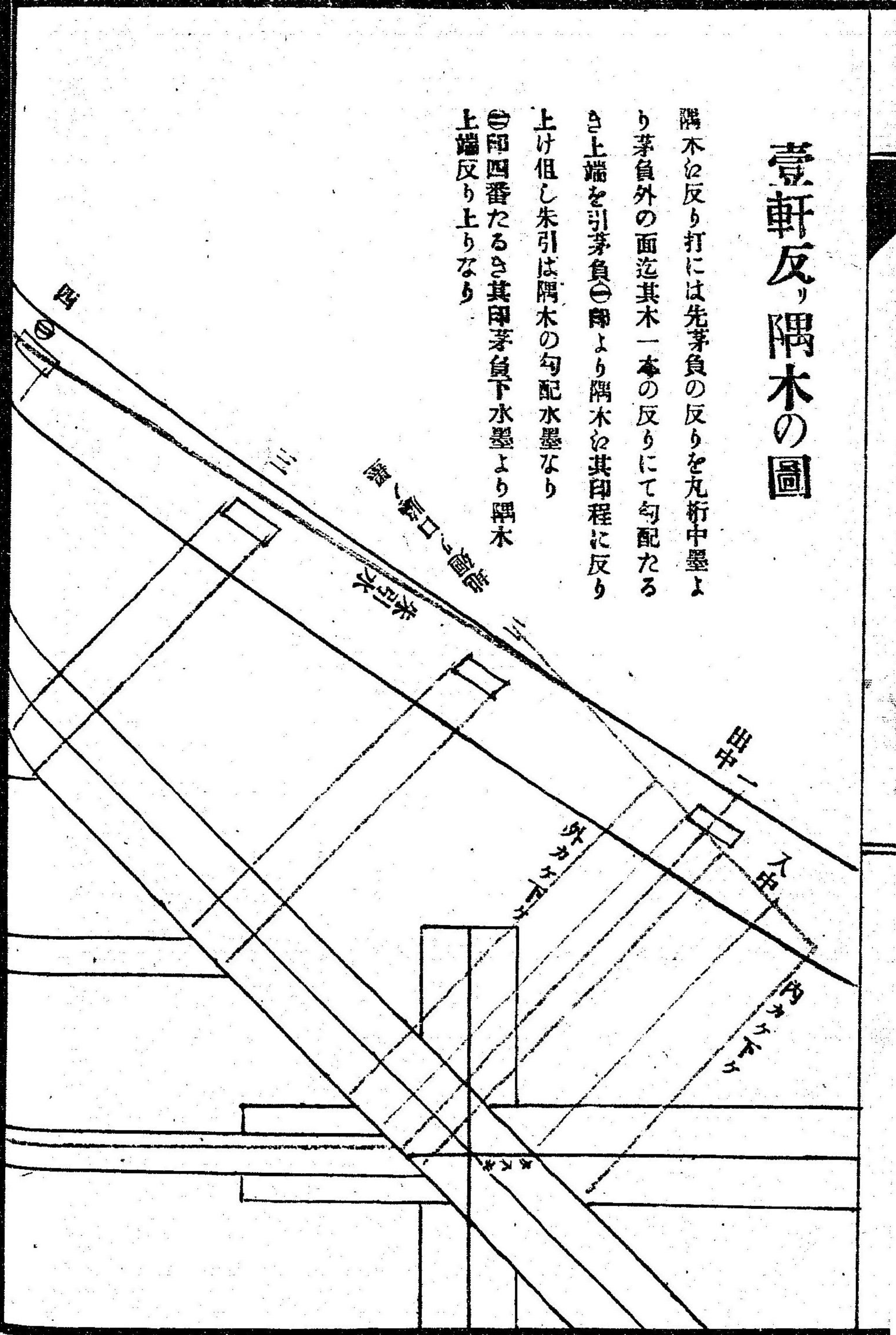






# 壹軒反り隅木の圖

隅木の反り打には先茅負の反りを丸桁中墨より茅負外の面迄其木一本の反りにて勾配たるき上端を引茅負の脚より隅木の其印程に反り上げ但し朱引は隅木の勾配水墨なり  
 ◎印四番たるき其印茅負下水墨より隅木上端反り上りなり



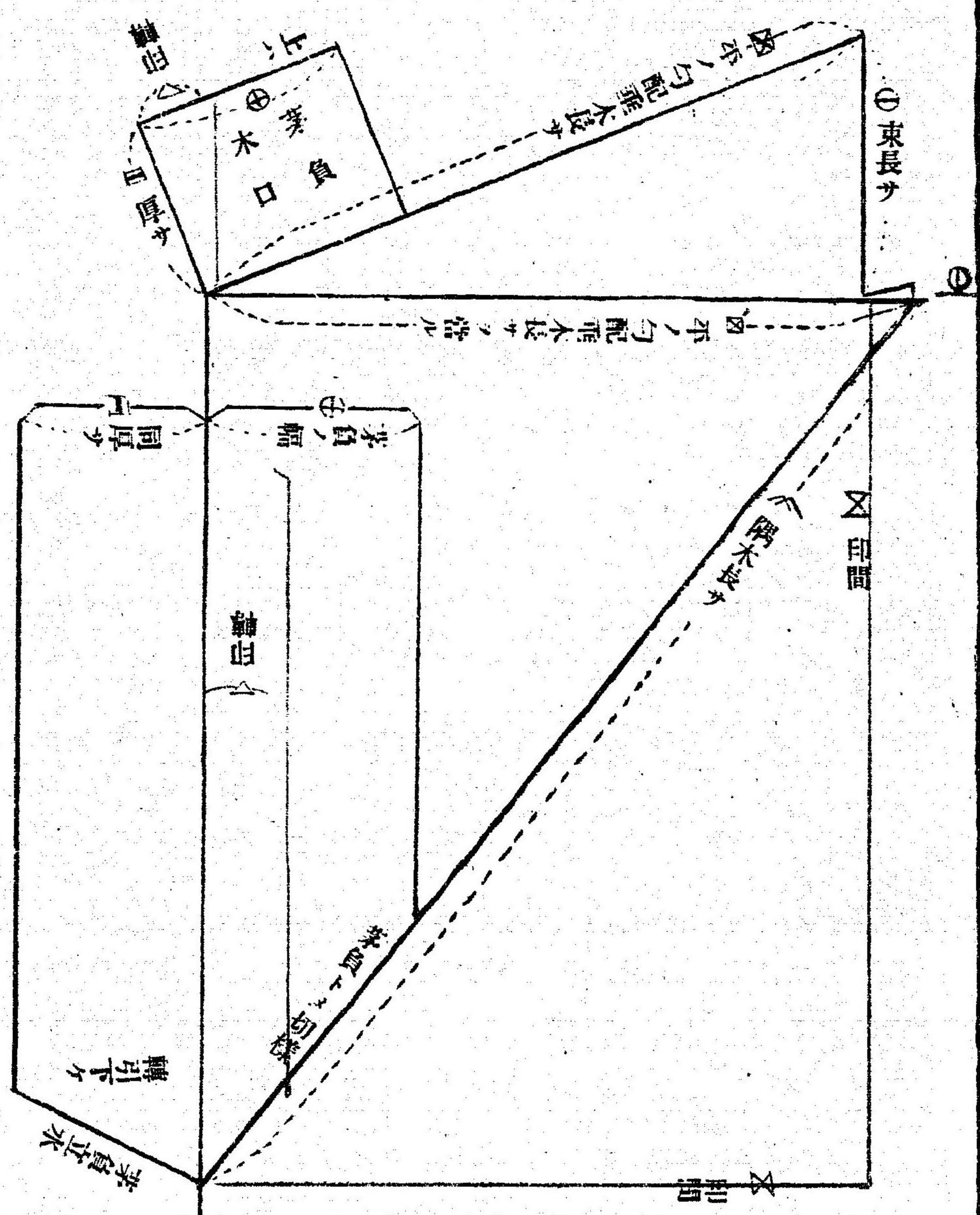
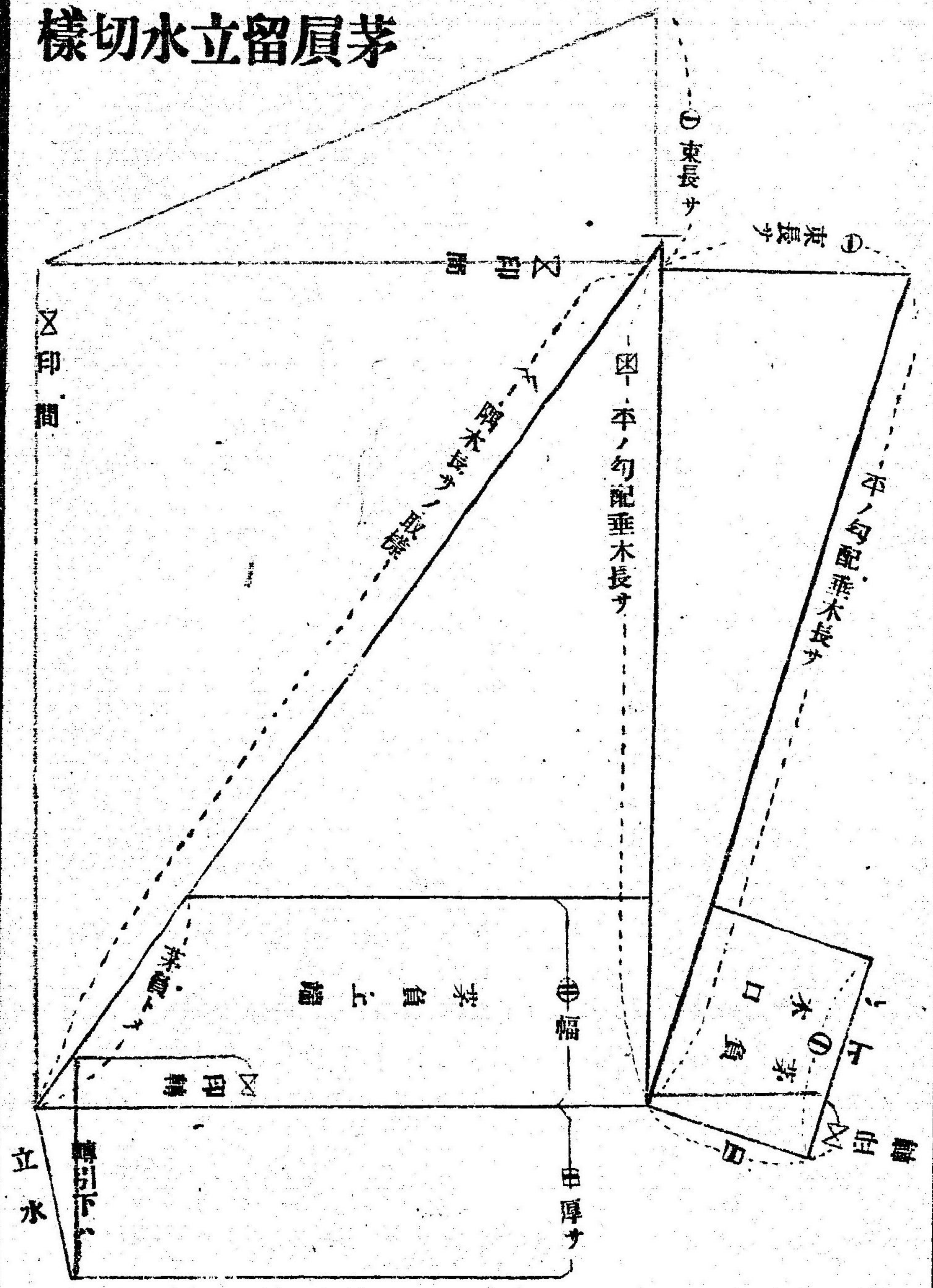
平







# 茅屋留立水切様

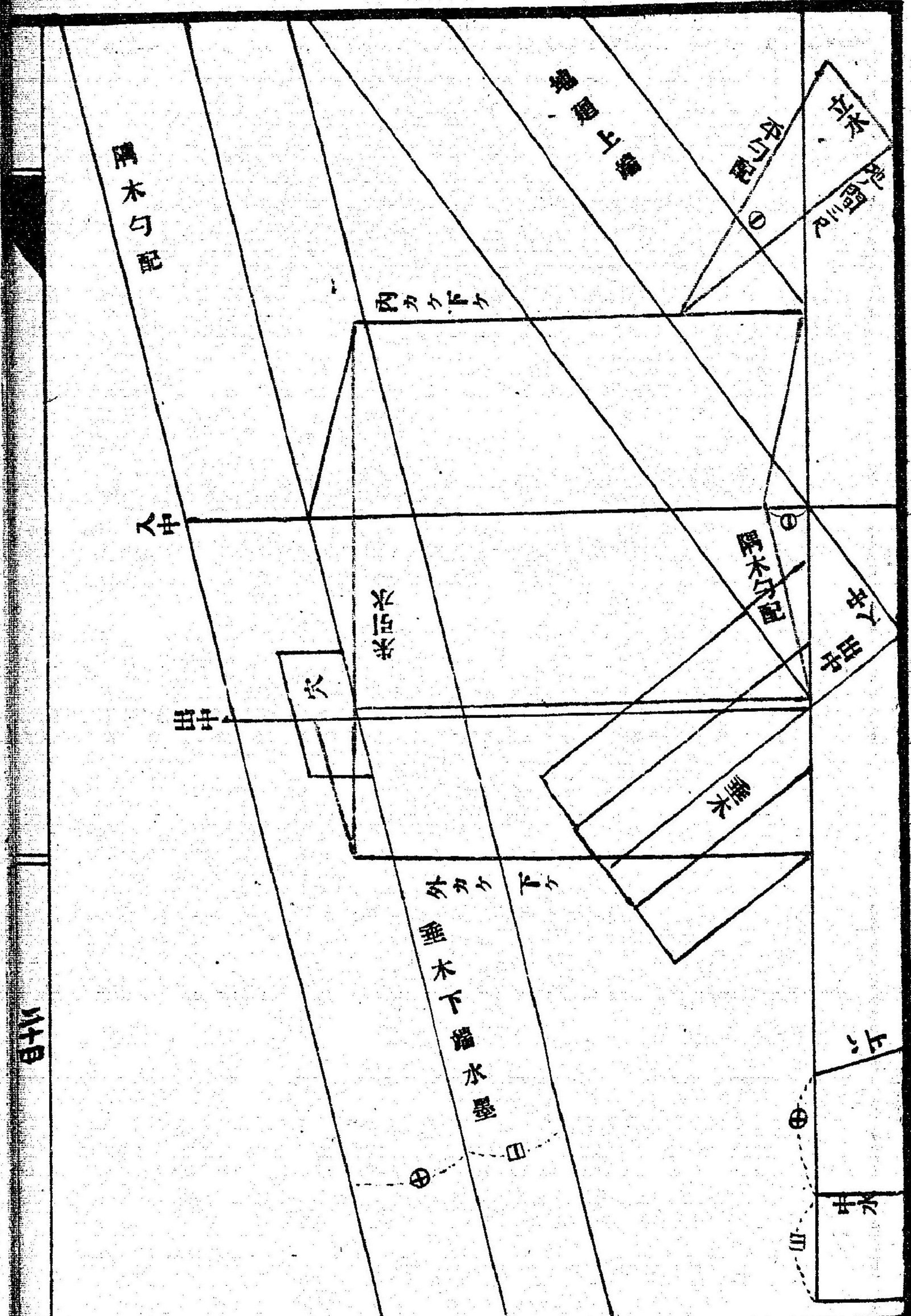
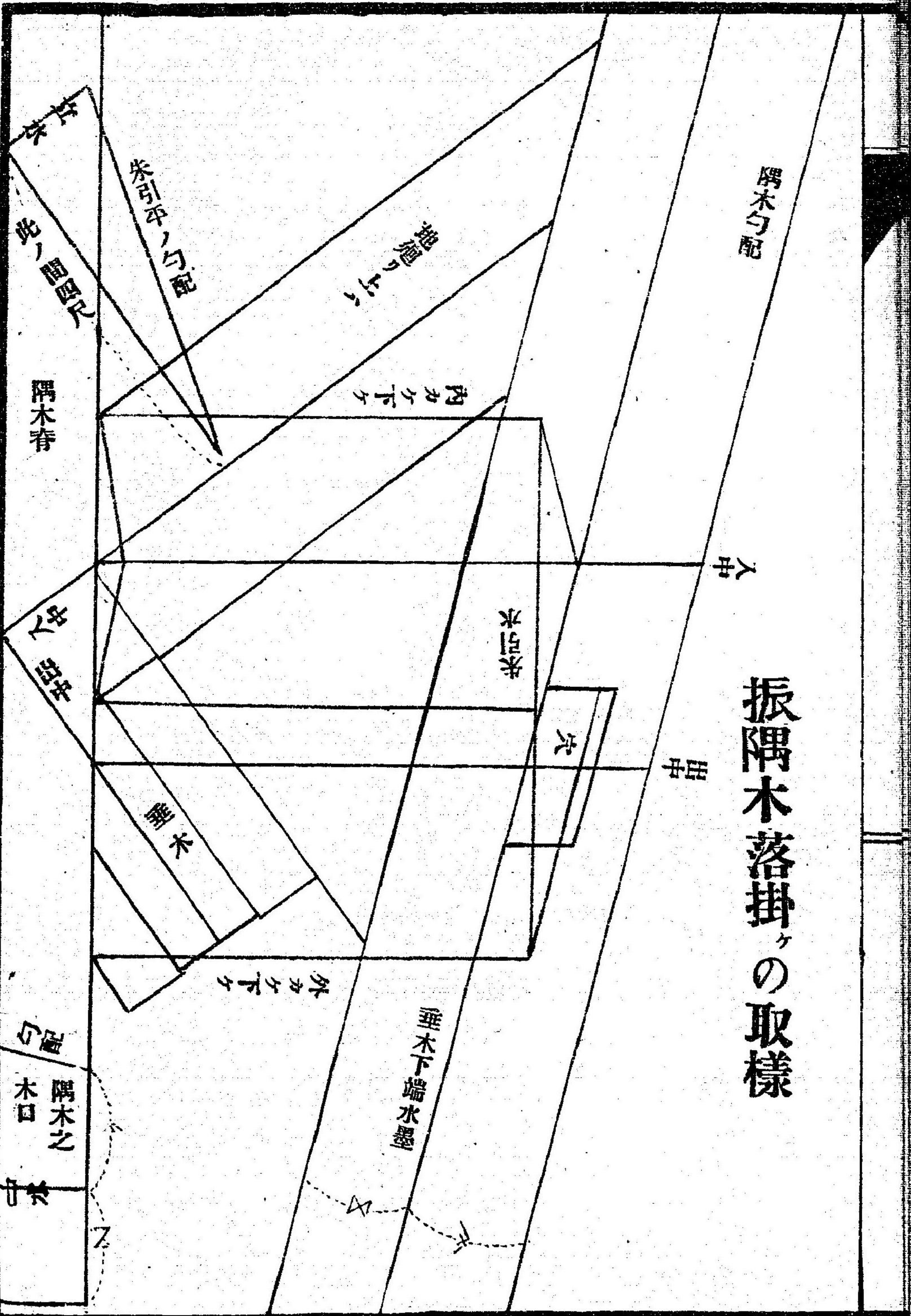








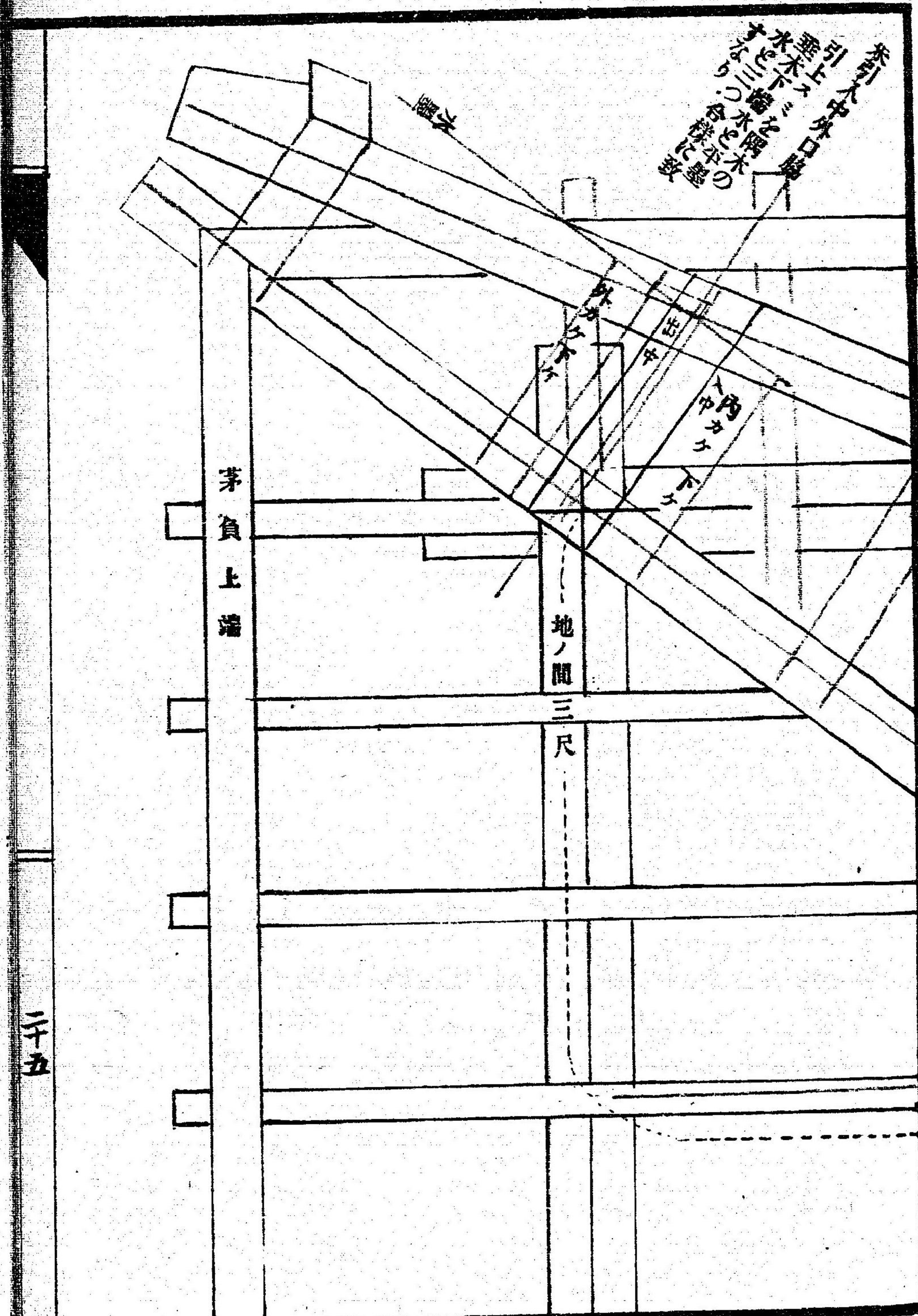
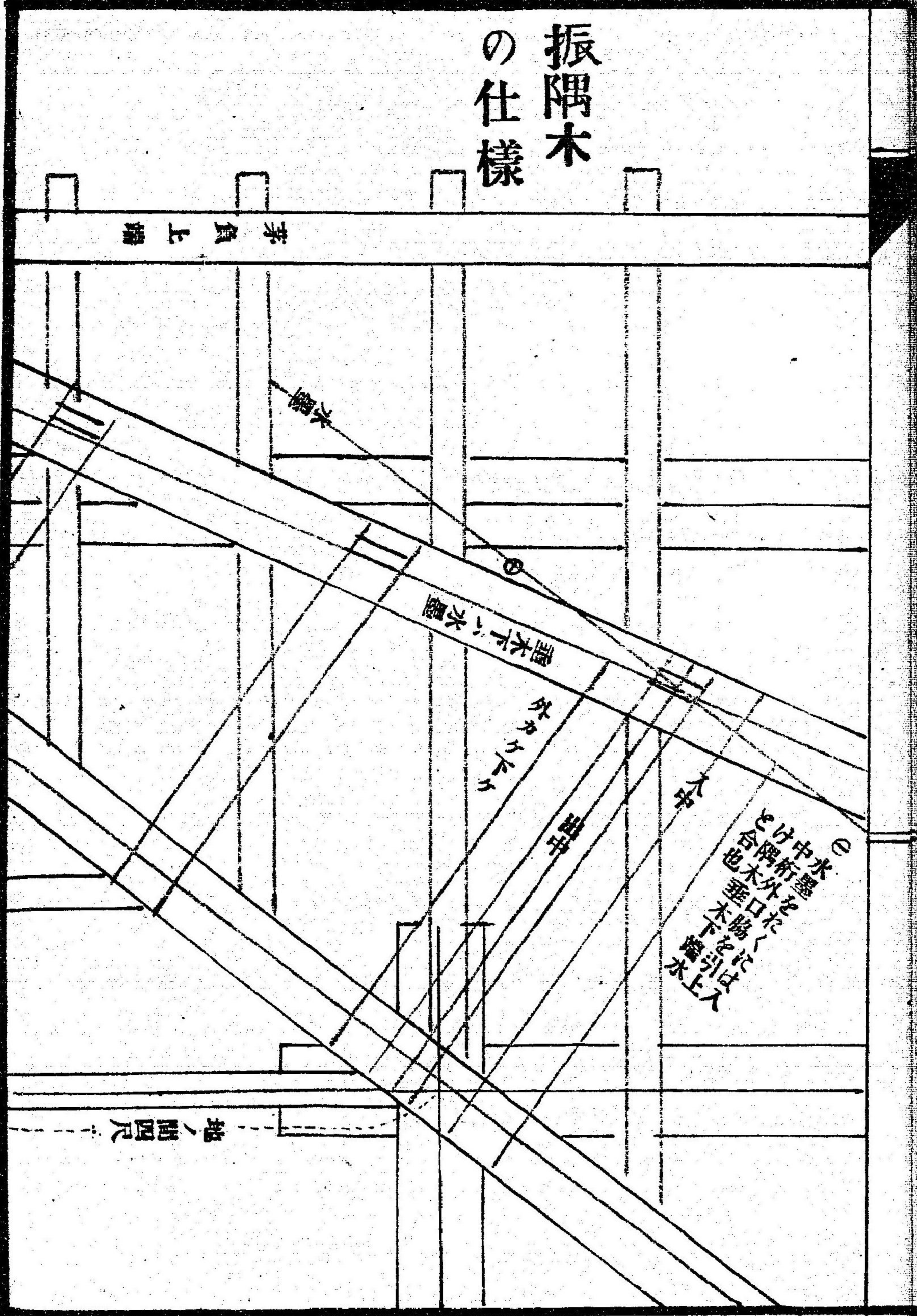
振隅木落掛の取様



1119



振隅木の仕様の



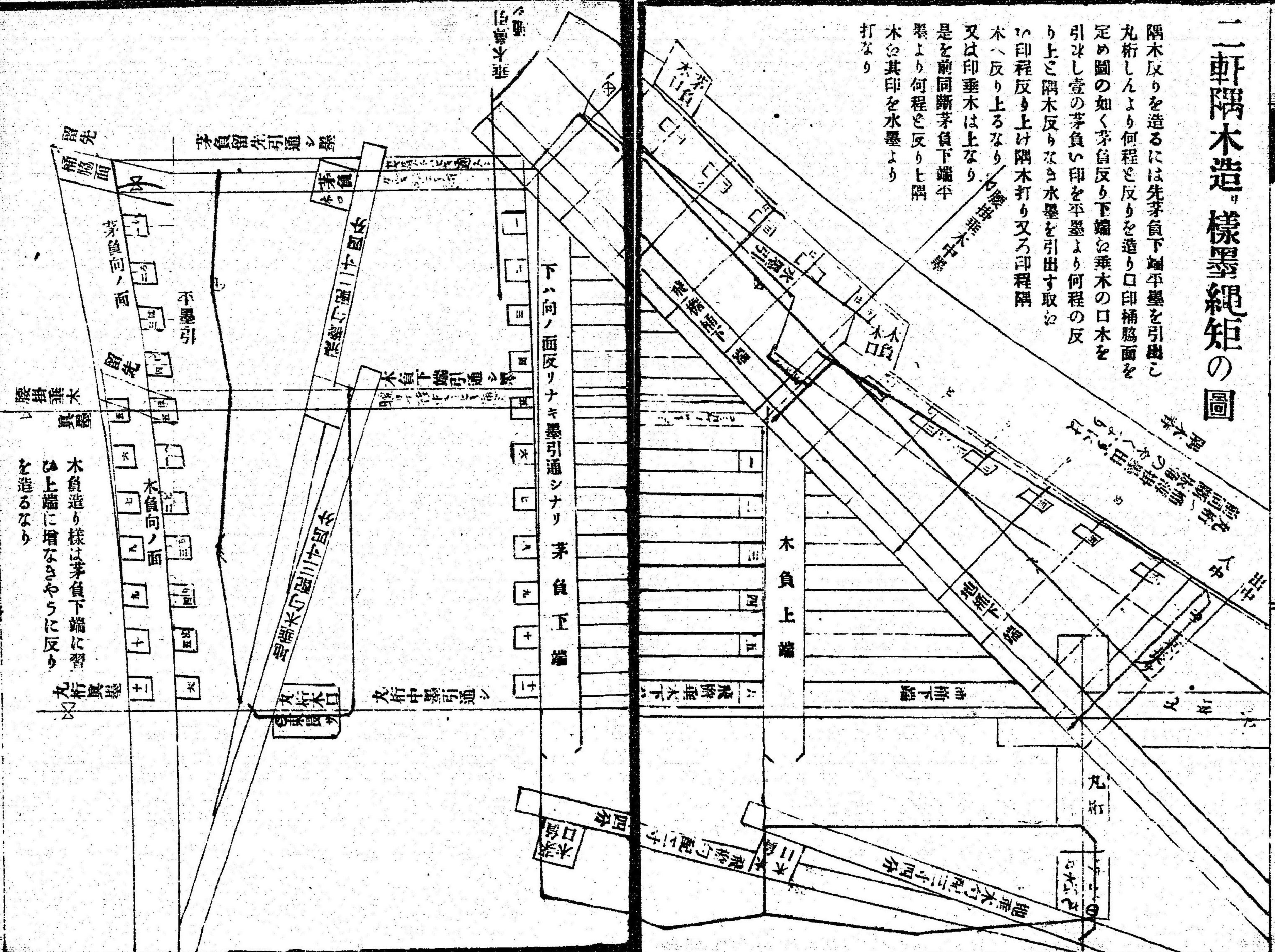






# 二軒隅木造様墨縄矩の圖

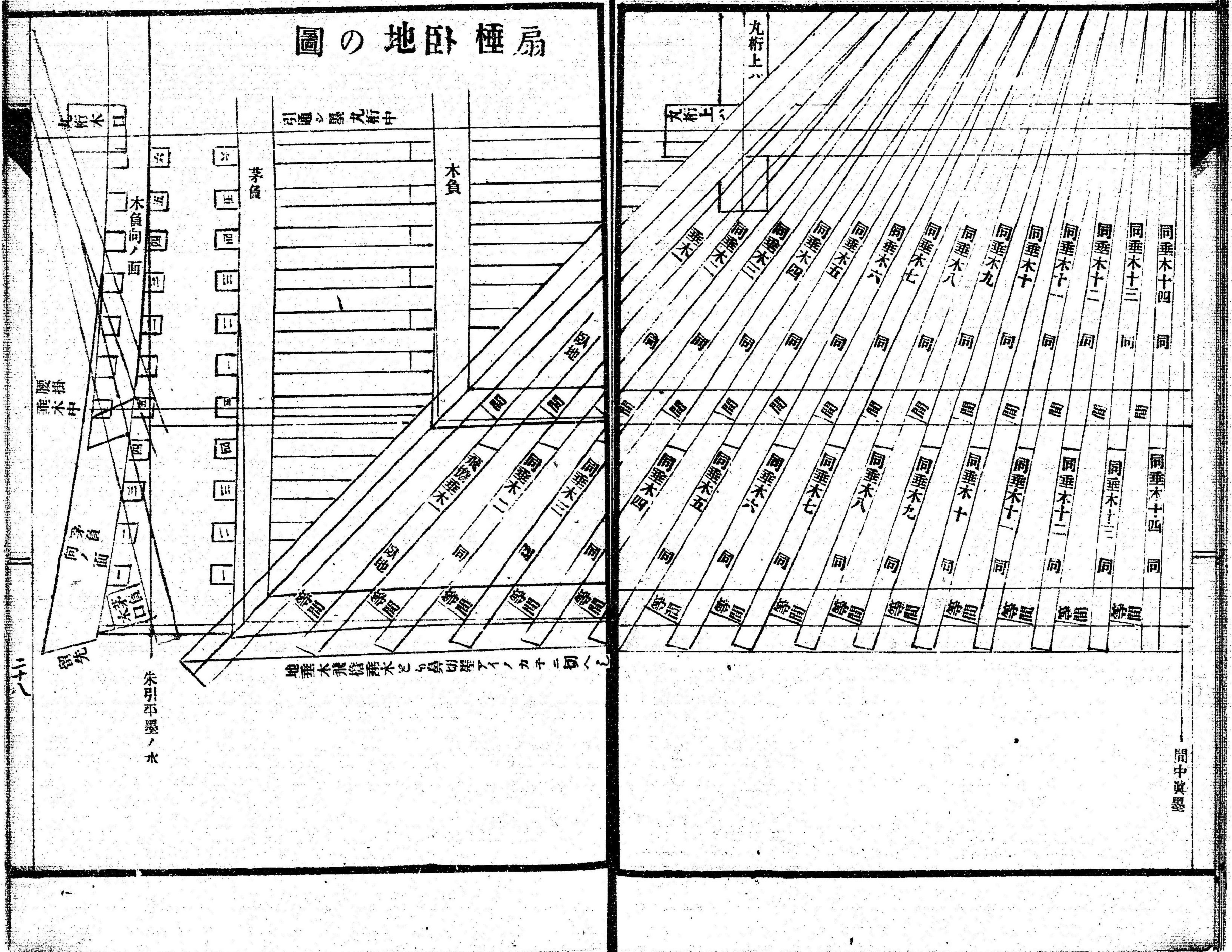
隅木反りを造るには先茅負下端平墨を引出し丸桁しんより何程と反りを造り口印桶脇面を定め圖の如く茅負反り下端の垂木の口木を引出し壹の茅負の印を平墨より何程の反り上と隅木反りなき水墨を引出す取の印程反り上げ隅木打り又る印程隅木へ反り上るなり  
 又は印垂木は上なり  
 是を前同断茅負下端平墨より何程と反り上隅木の其印を水墨より打なり



木負造り様は茅負下端に聲ひ上端に増なさらちうに反りを造るなり



# 扇極地圖



二八

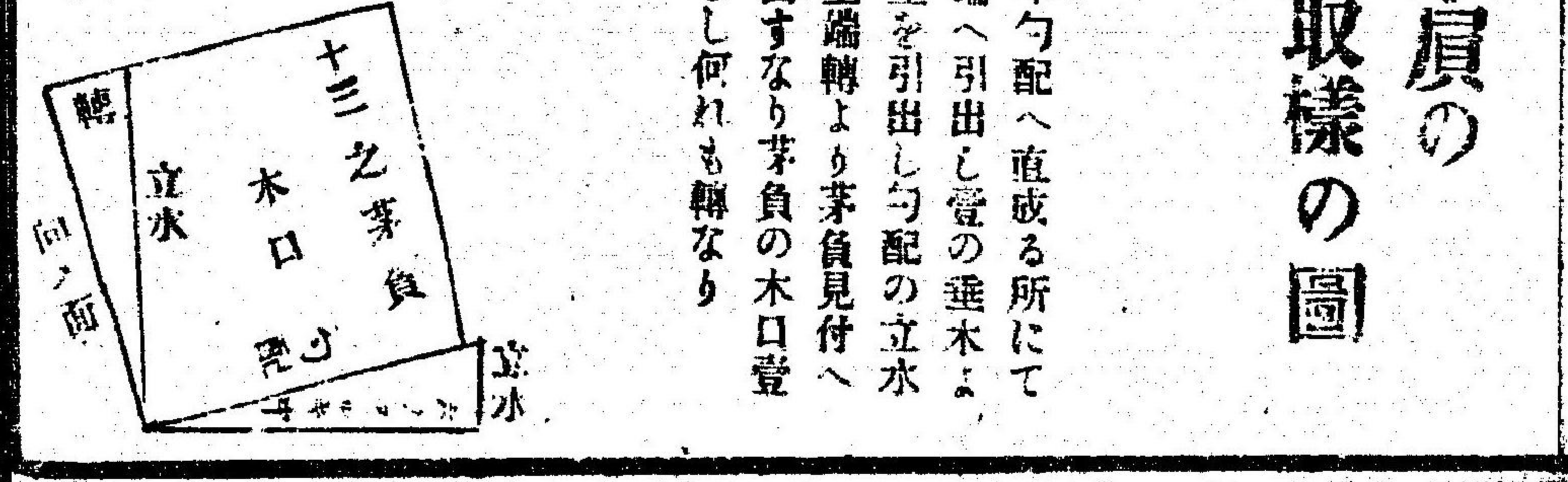
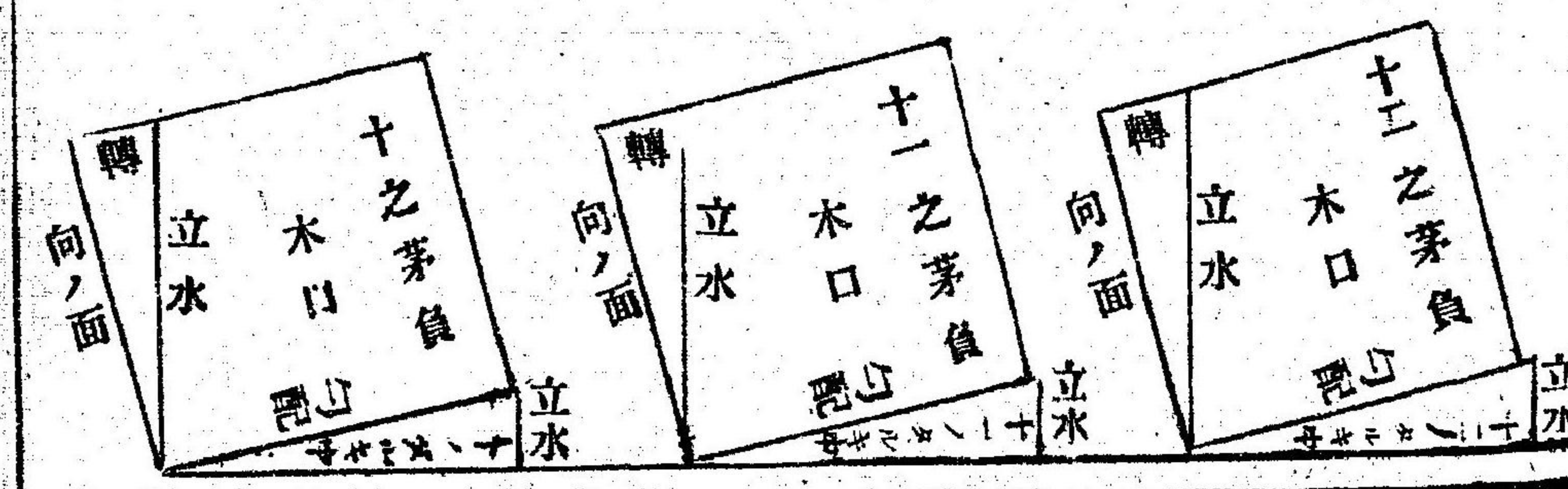
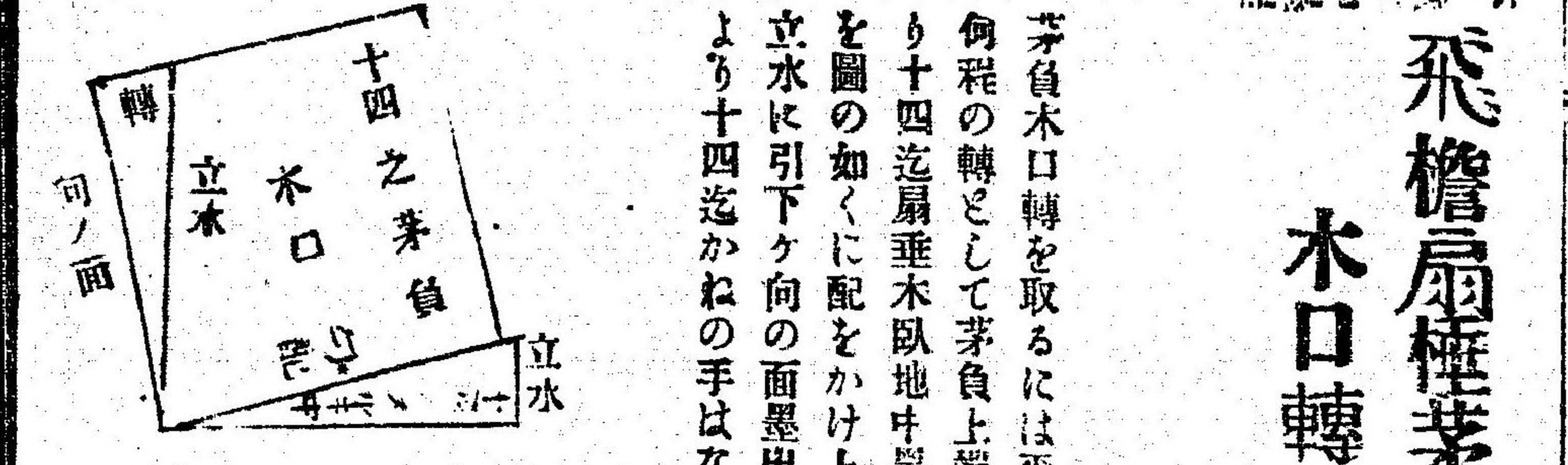
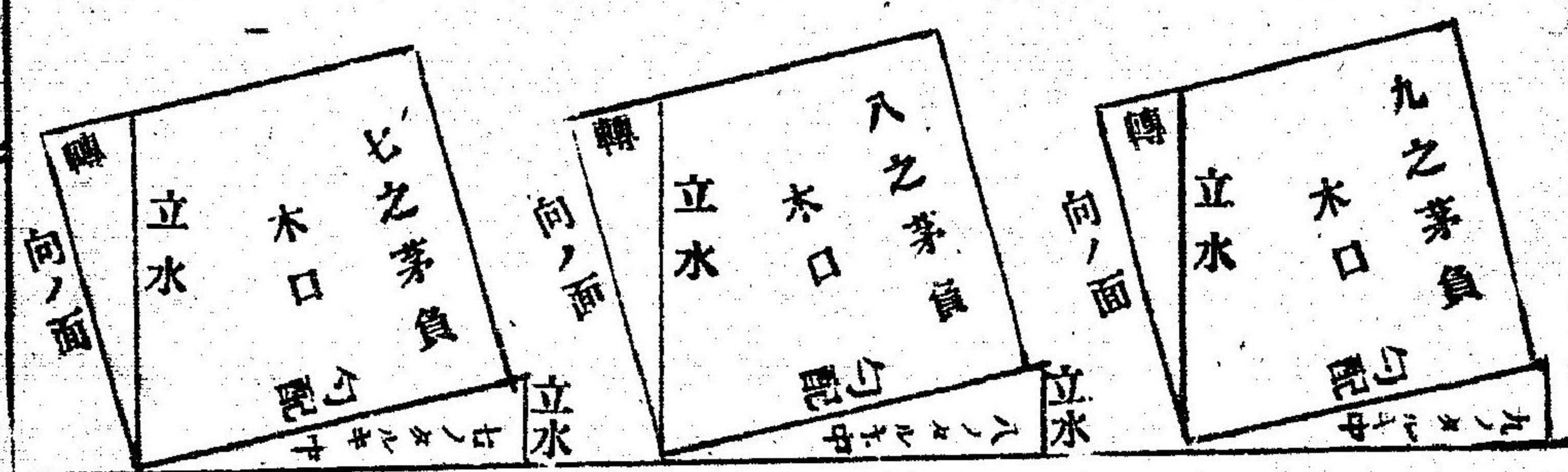
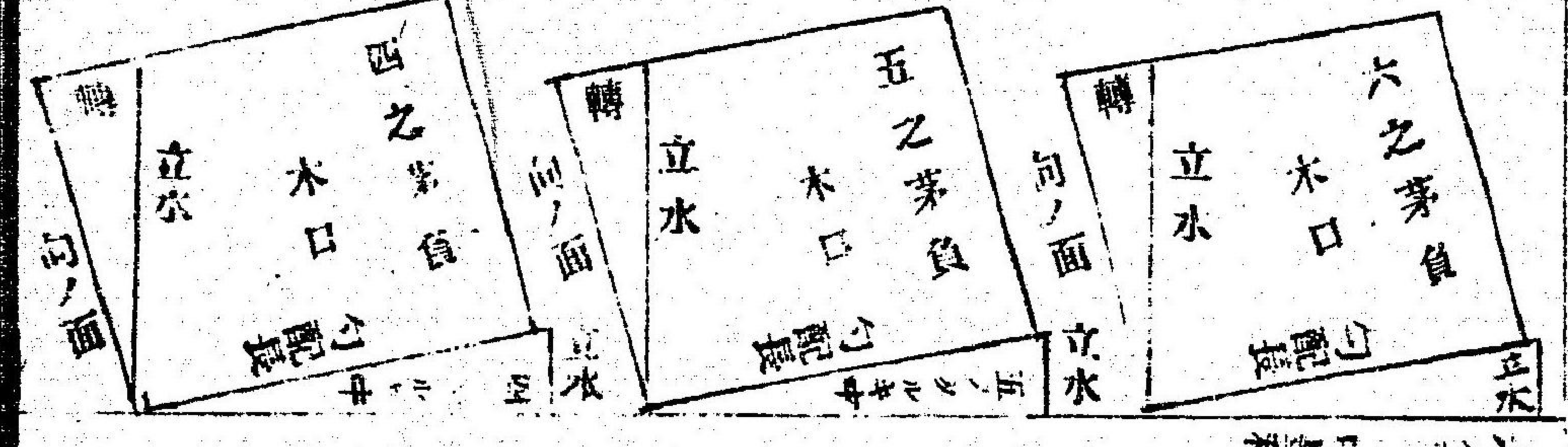
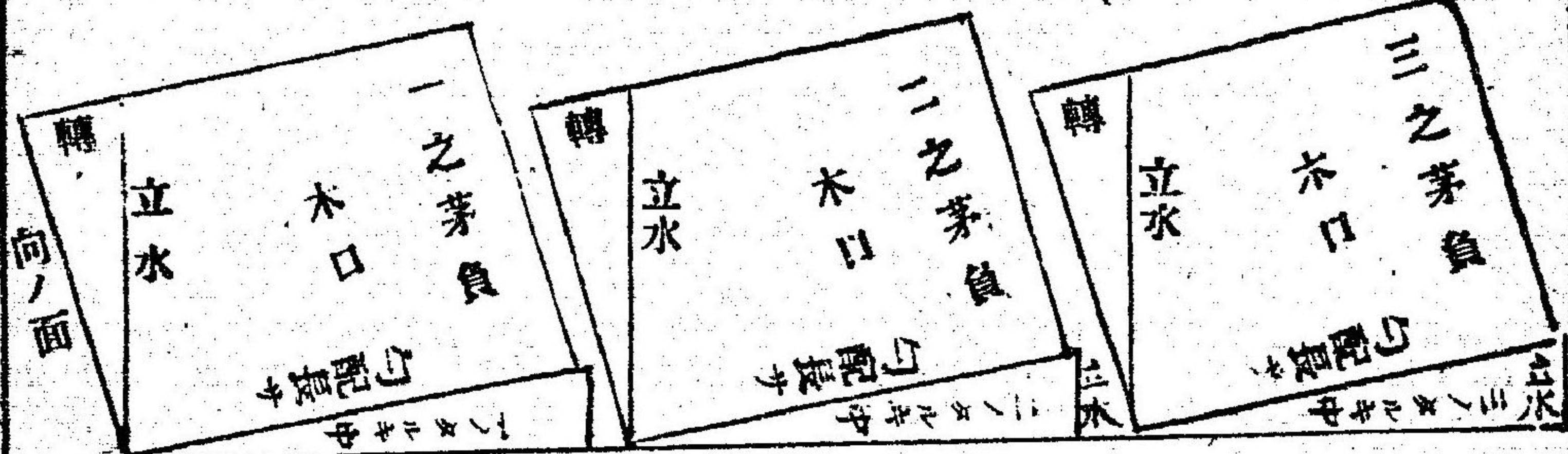
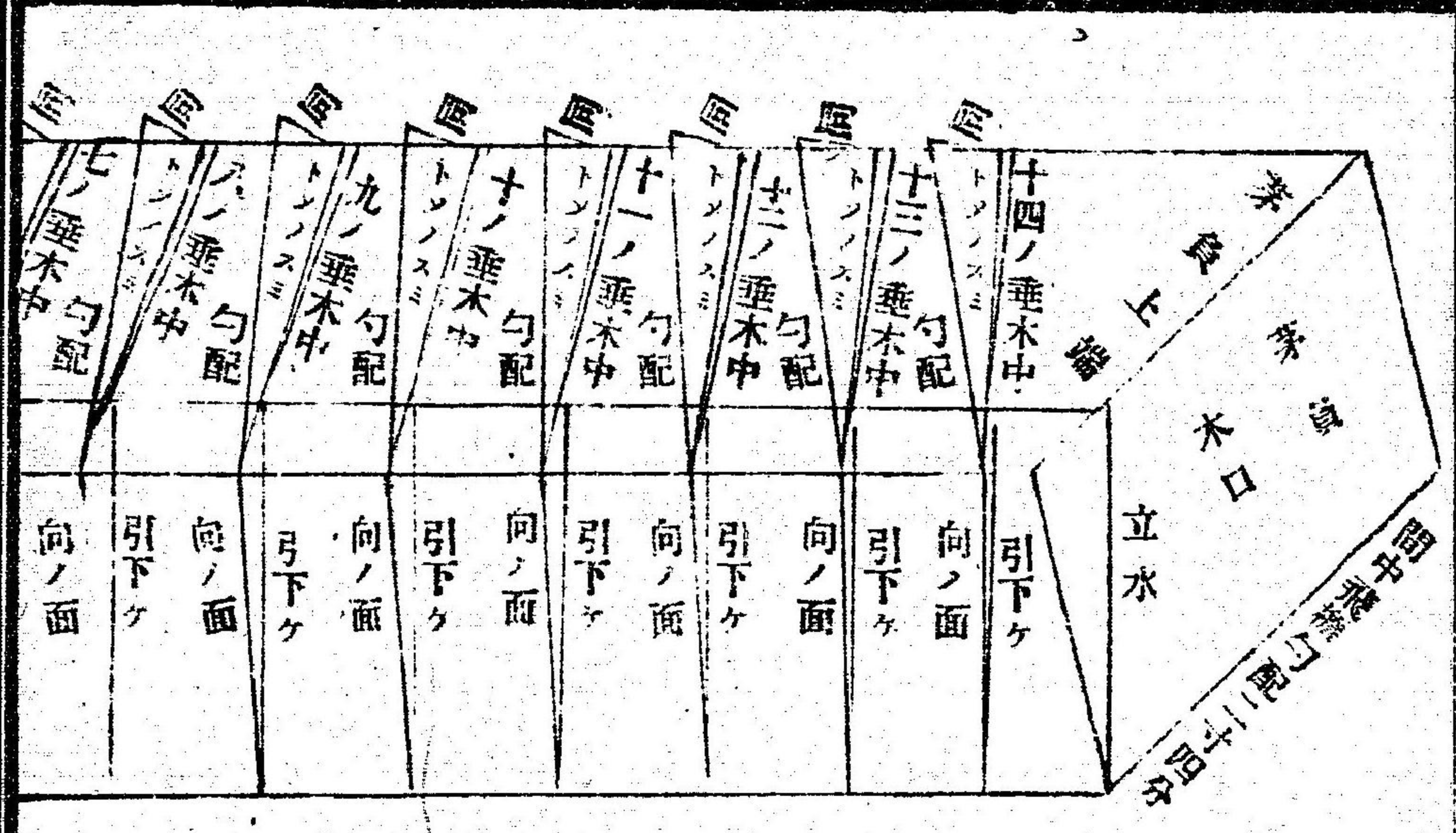
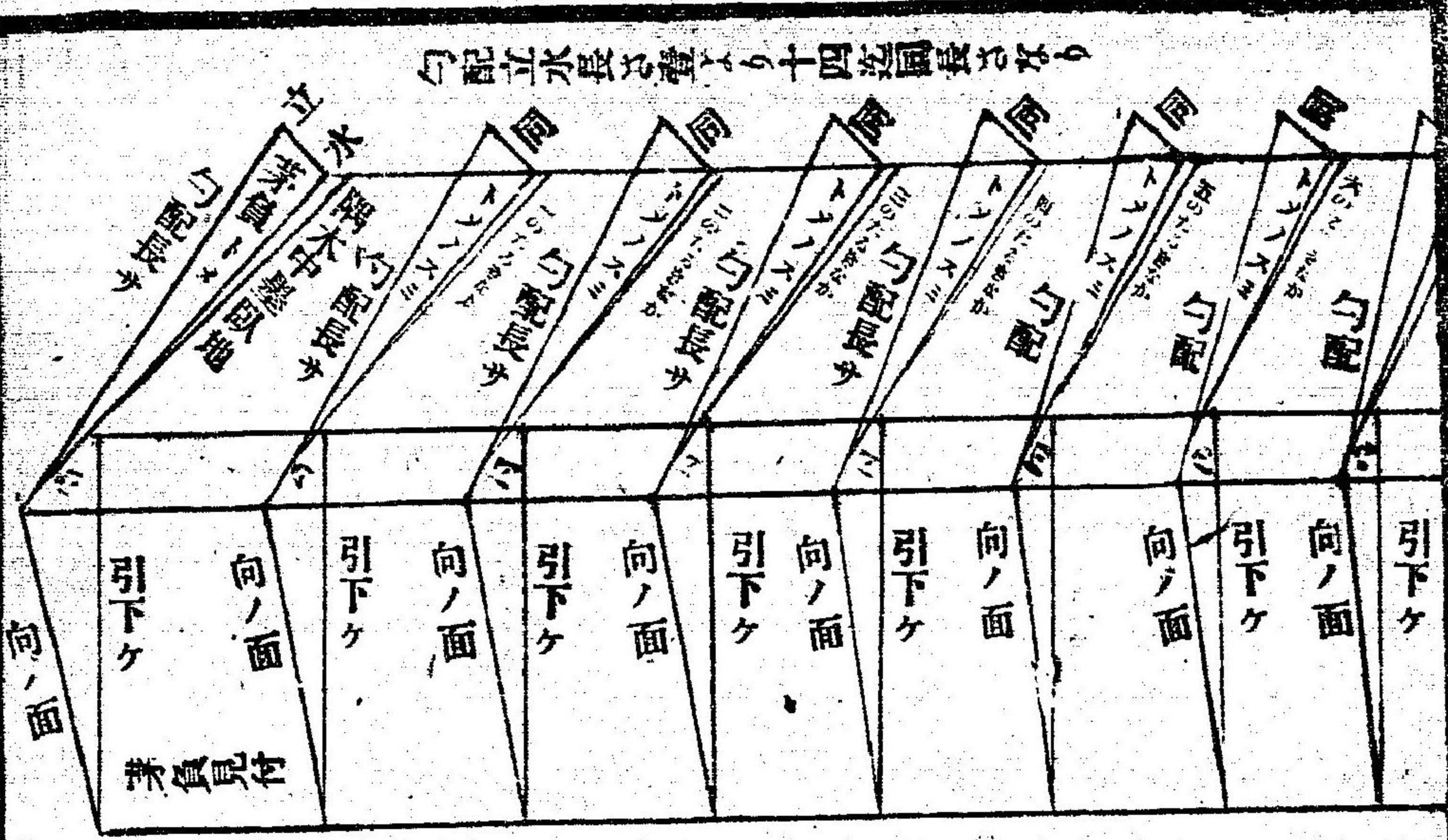
朱引平墨ノ水

間中真墨





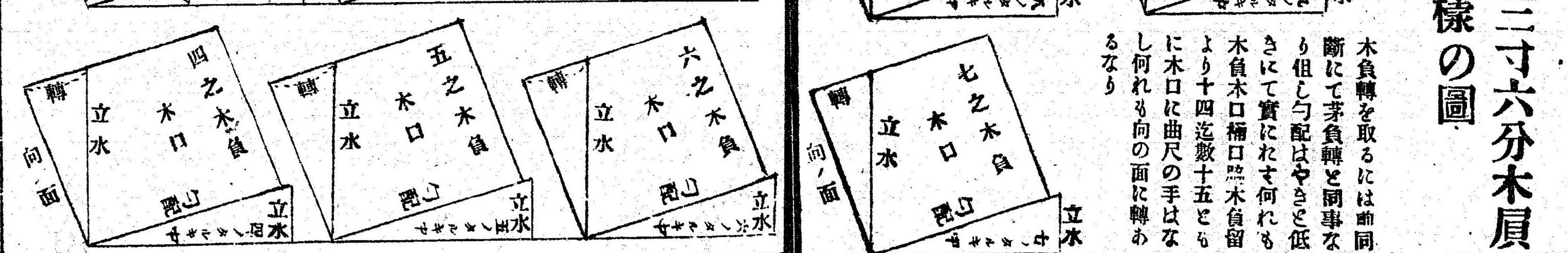
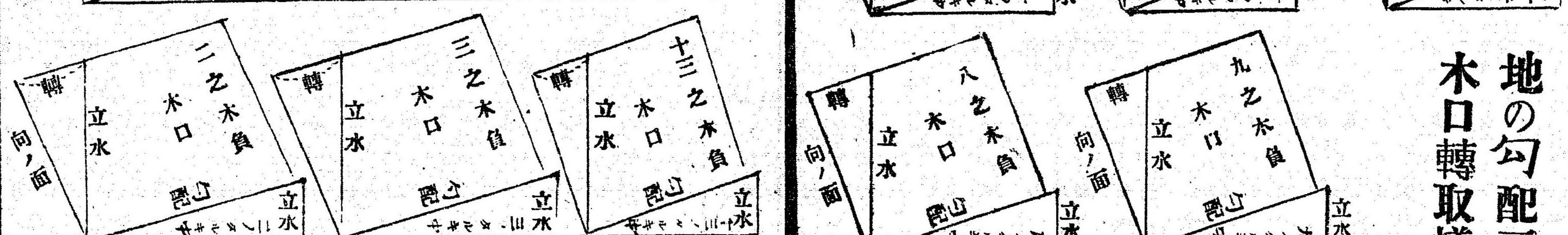
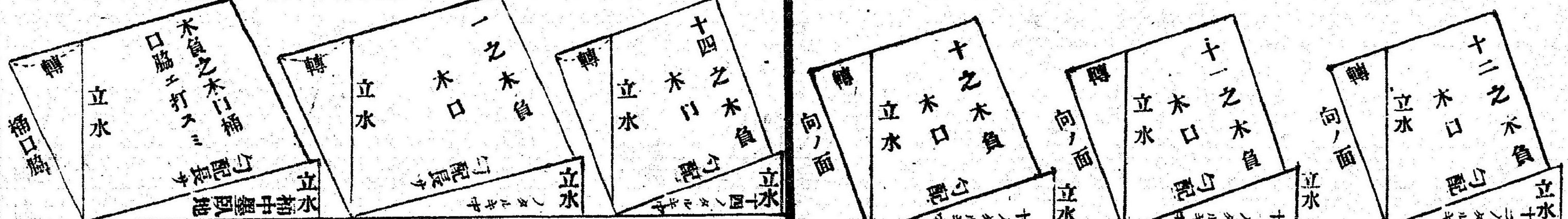
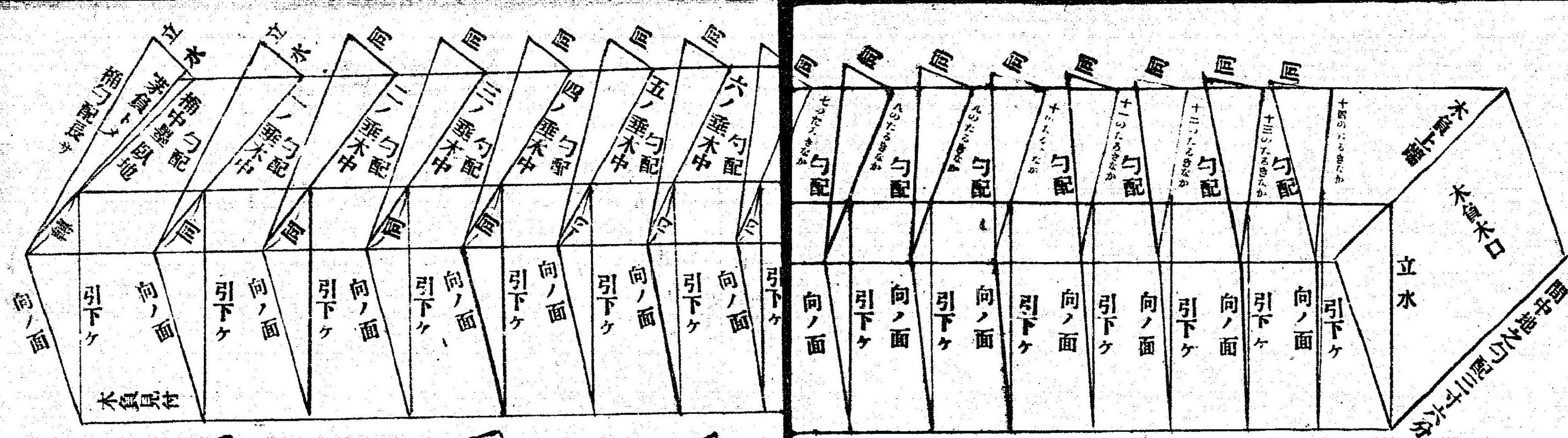




茅負木口轉を取るには平均配へ直成る所にて  
何程の轉として茅負上端へ引出し登の垂木より  
十四迄扇垂木臥地中盤を引出し勻配の立水  
を圖の如くに配をかけ上端轉より茅負見付へ  
立水に引下ケ向の面墨出すなり茅負の木口登  
より十四迄かねの手はなし何れも轉なり

飛檐扇極茅負の  
木口轉取様の圖





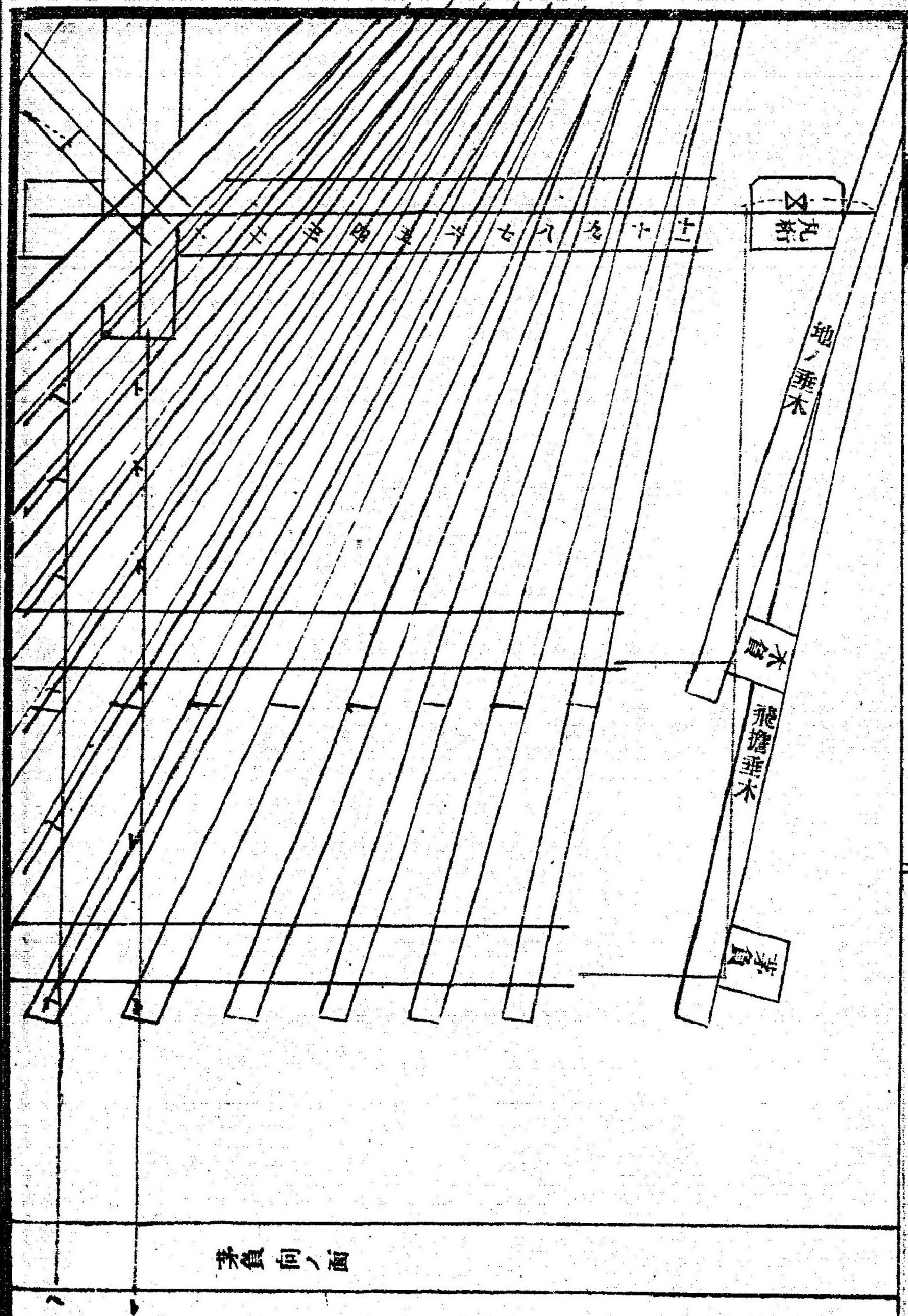
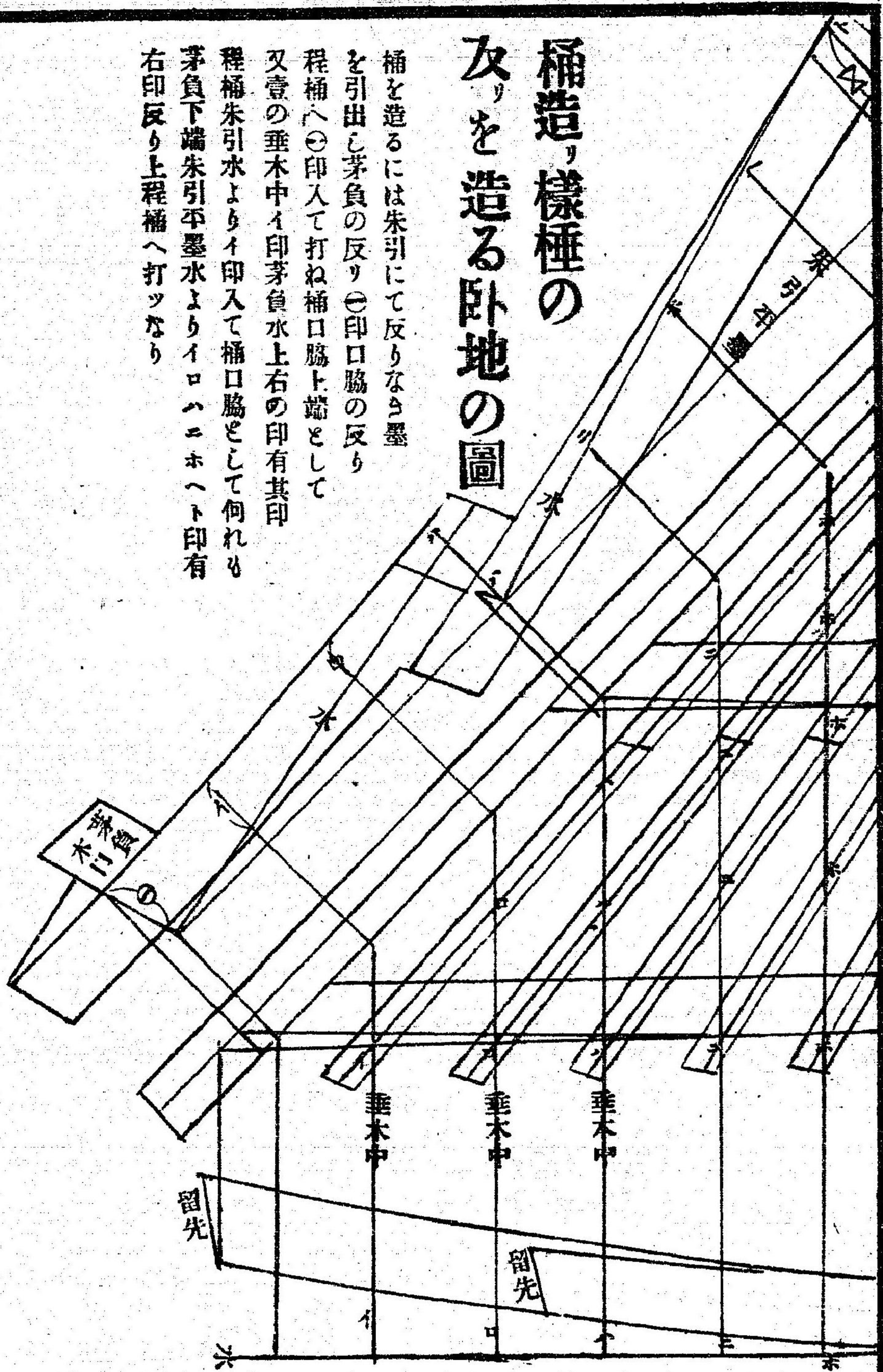
地の勾配三寸六分木屑  
木口轉取様の圖

木負轉を取るには前同  
断にて芽負轉と同事な  
り但し勾配はやきと低  
きにて實にたす何れも  
木負木口桶口照木負留  
より十四迄敷十五ども  
に木口に曲尺の手はな  
し何れも向の面に轉あ  
るなり



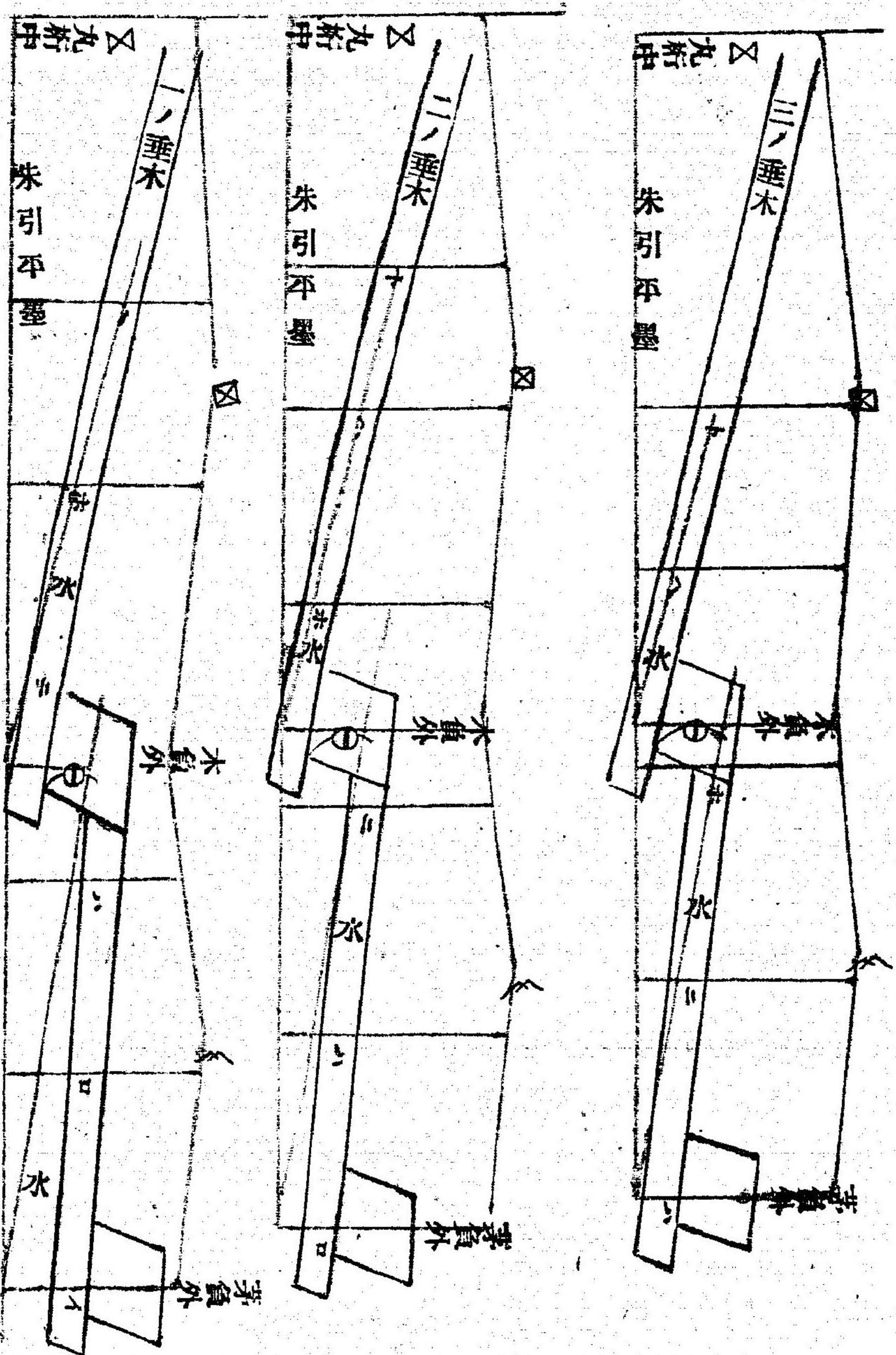
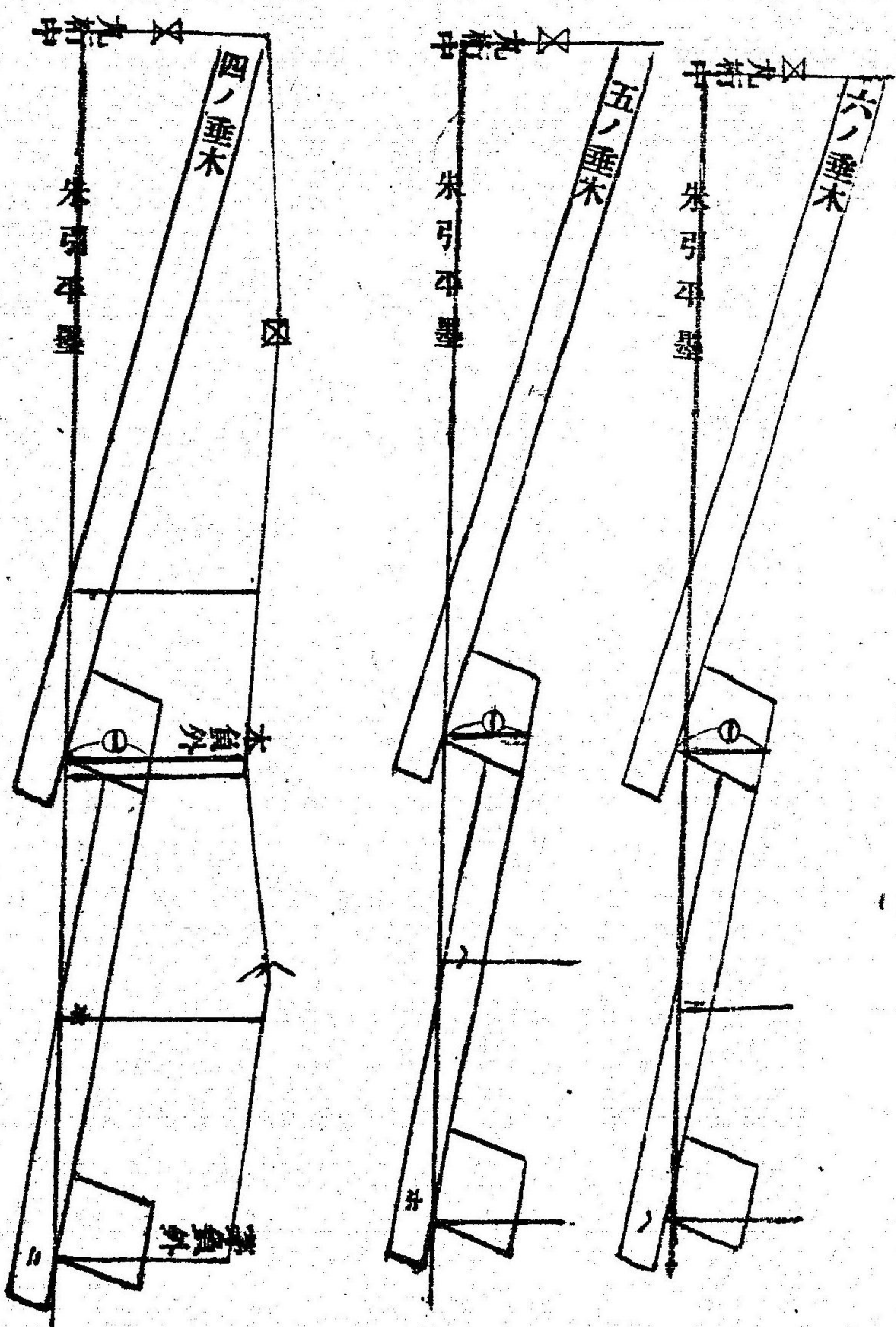
桶造り様極の  
及リを造る臥地の圖

桶を造るには朱引にて反りなき墨  
を引出し茅負の反リ印口脇の反り  
程桶へ印入て打ね桶口脇上端として  
又壹の垂木中イ印茅負水上右の印有其印  
程桶朱引水よりイ印入て桶口脇として何れも  
茅負下端朱引平墨水よりイロハニホへト印有  
右印反り上程桶へ打ッなり





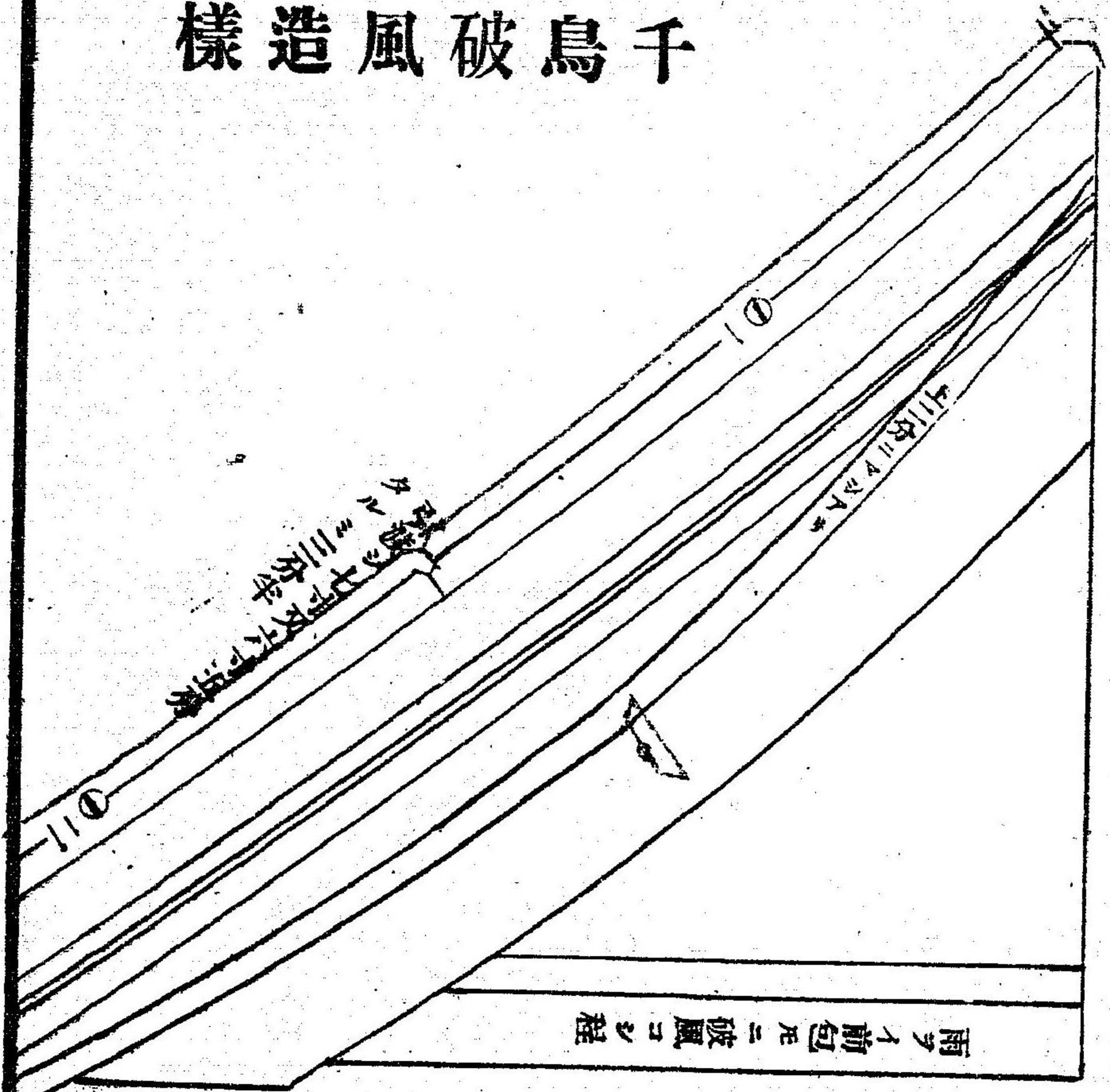
種の反り取様の圖



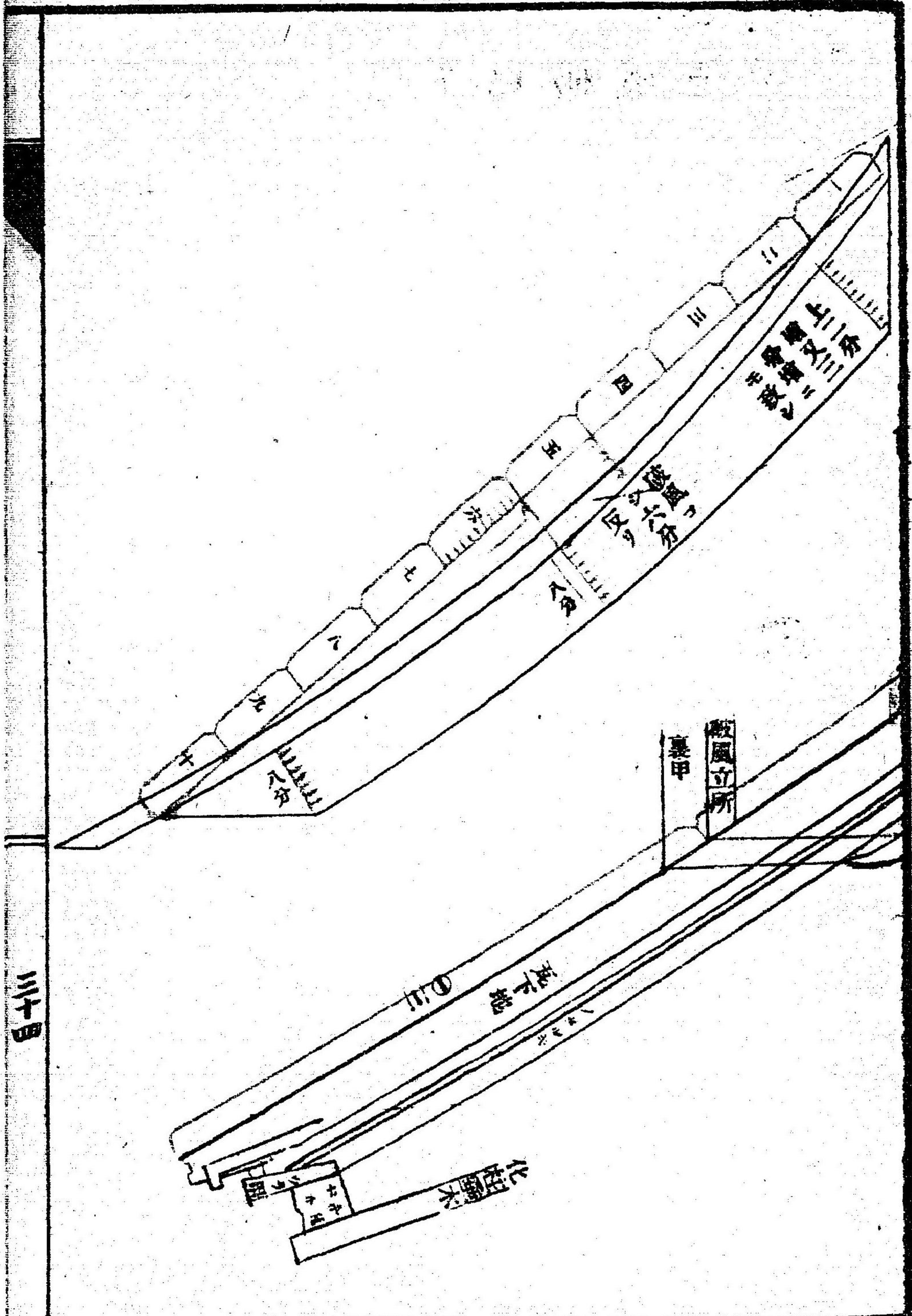
垂木反りを造るには反り茅負へ下端平墨水有イロハ印何はとくして隅木の反り打ッ如くに同事なり何れも茅負木負の反りに習ふて作るなり



千鳥破風造様

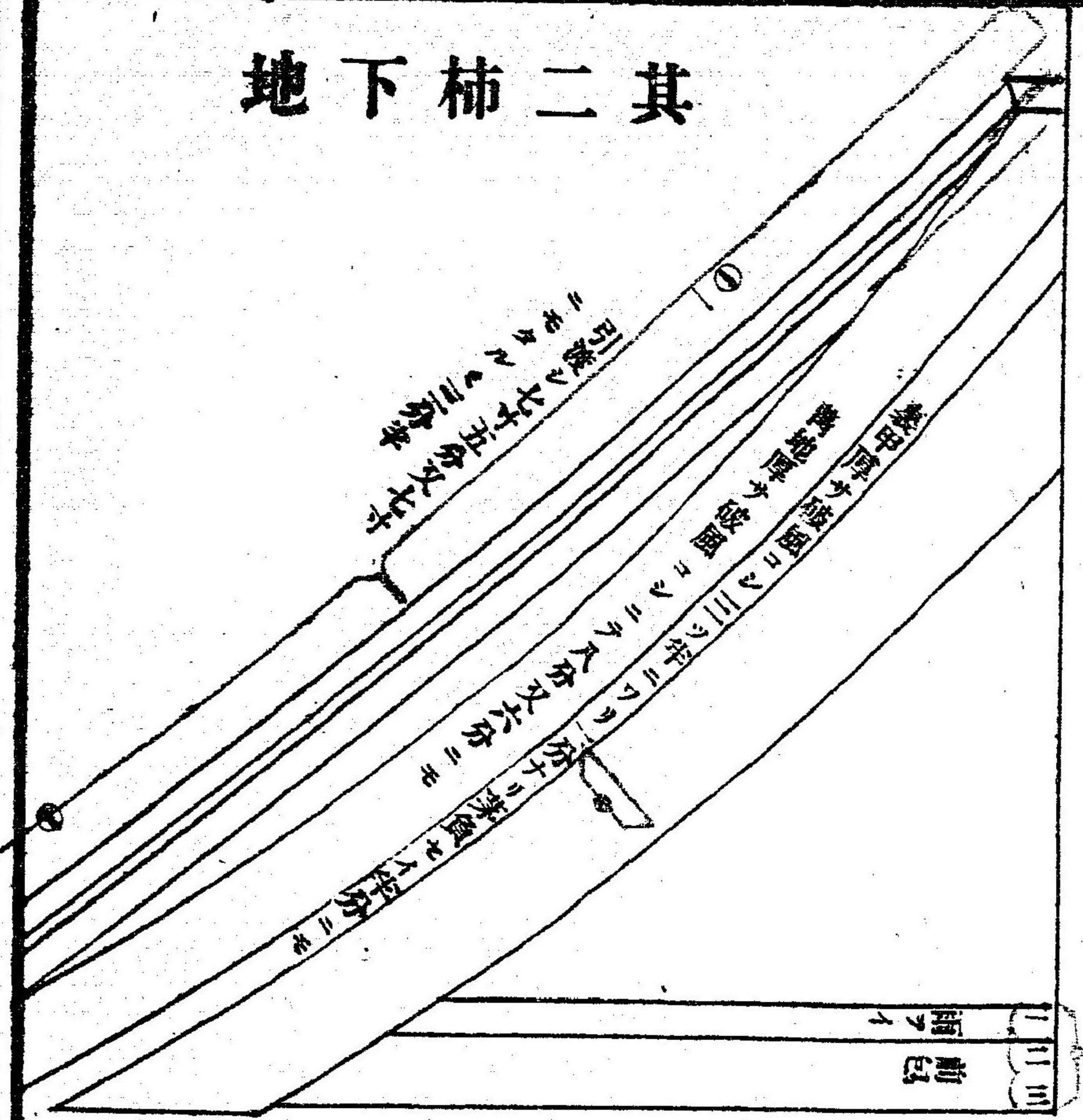


一破風造りやうは引渡し三ッ割にし  
て一分軒より入て破風立取に致す  
是を三ッ割母屋といふ又引渡し七  
ッ割軒より二ッ入て破風立取に致  
すもわり是を七ッ母屋といふなり

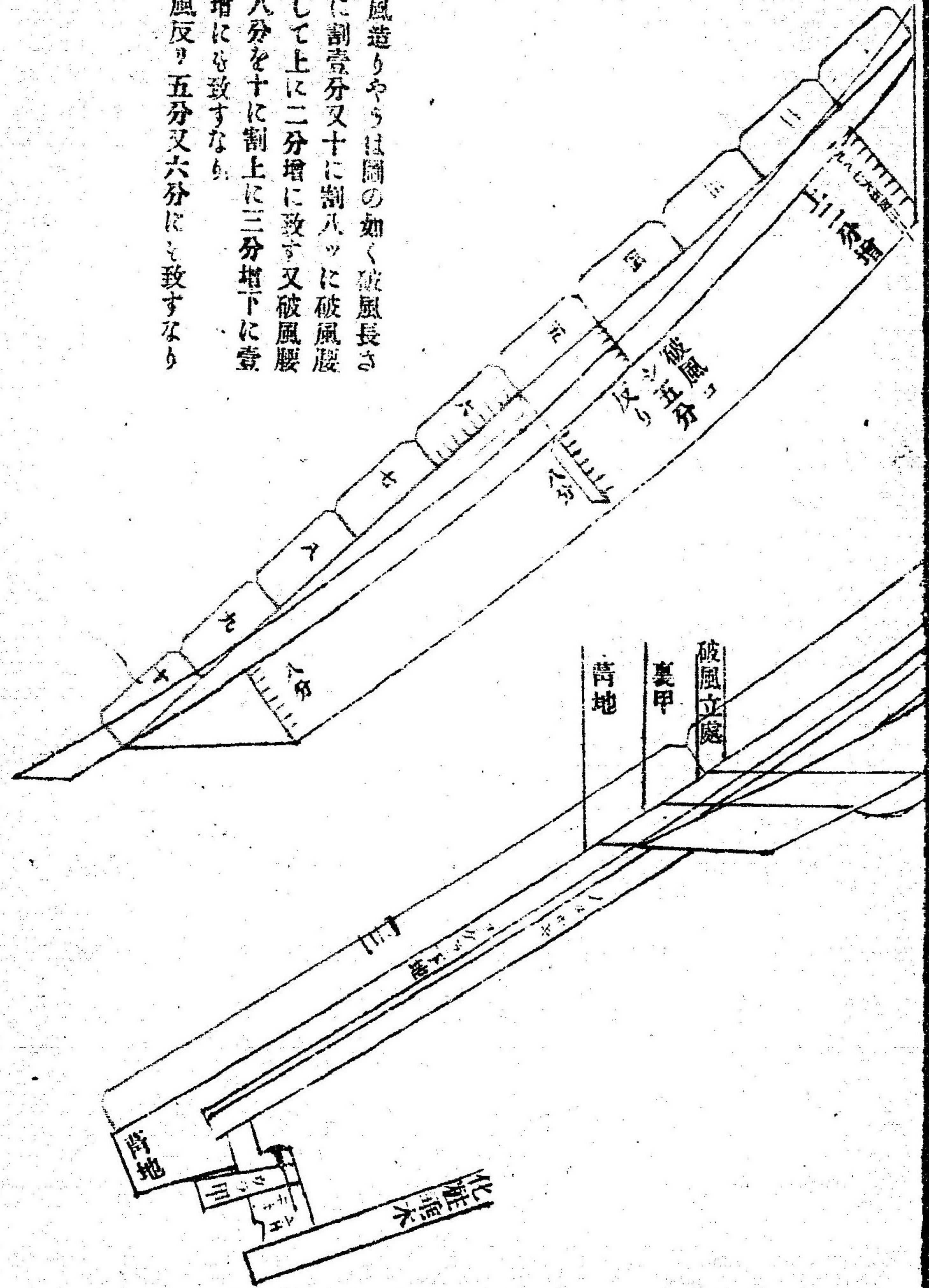




其二柿地下



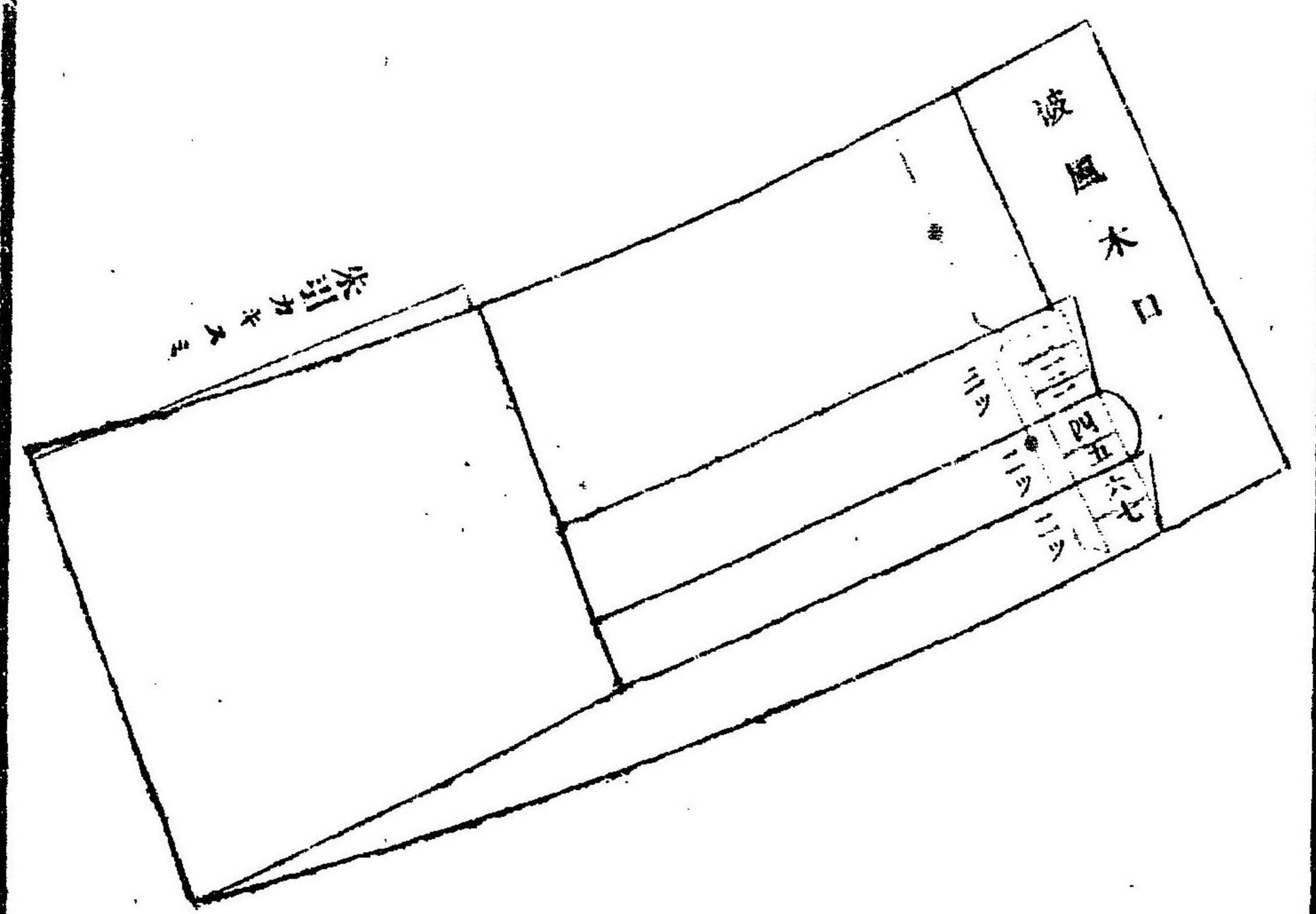
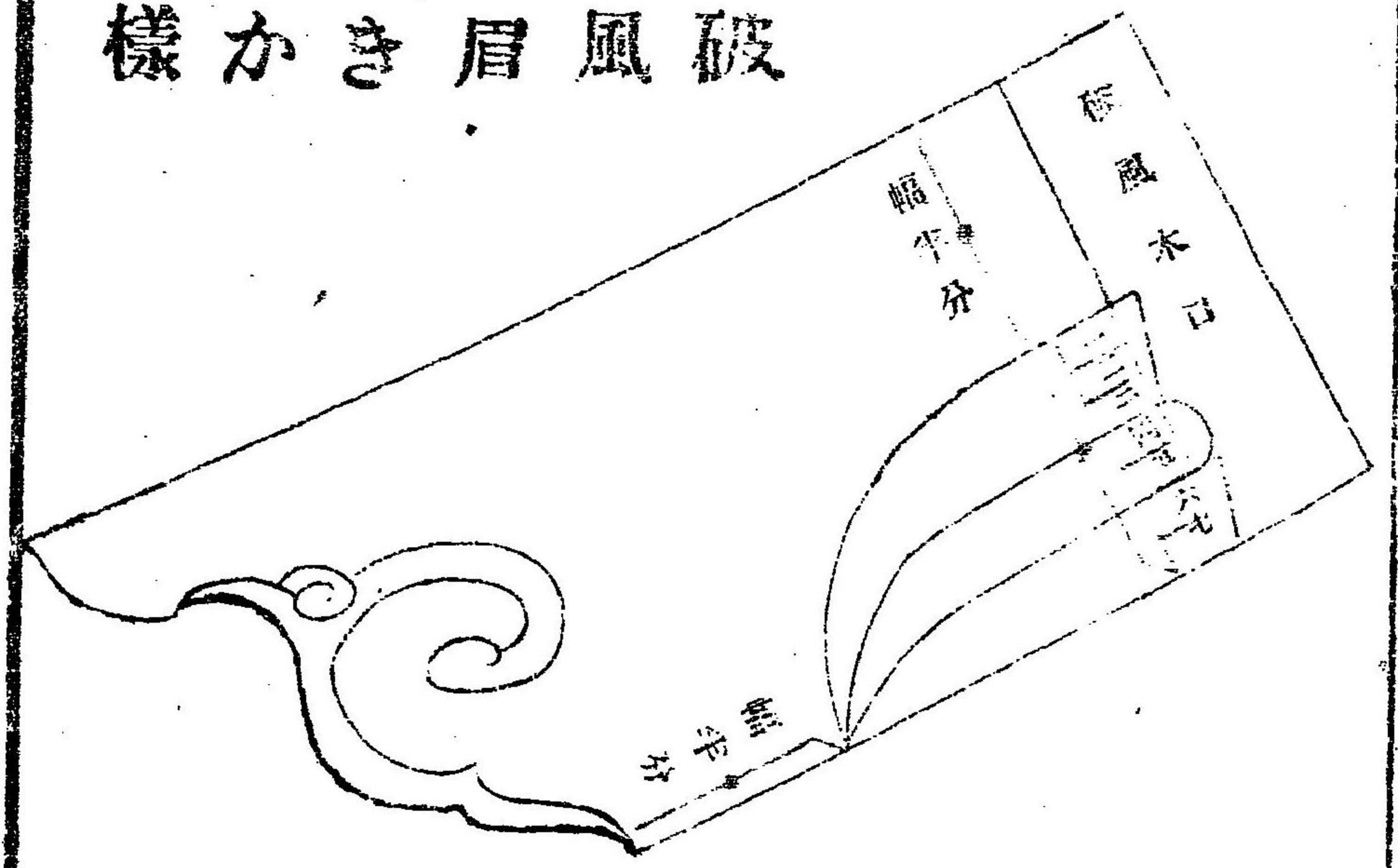
一破風造りやは圃の如く破風長さ  
 十に割五分又十に割八ッに破風腰  
 にして上に二分増に致す又破風腰  
 の八分を十に割上に三分増下に壹  
 分増にも致すなり  
 一破風反り五分又六分にも致すなり





187  
441

# 破風眉かき様



明治三十九年九月七日御届  
全 年全月全日出版

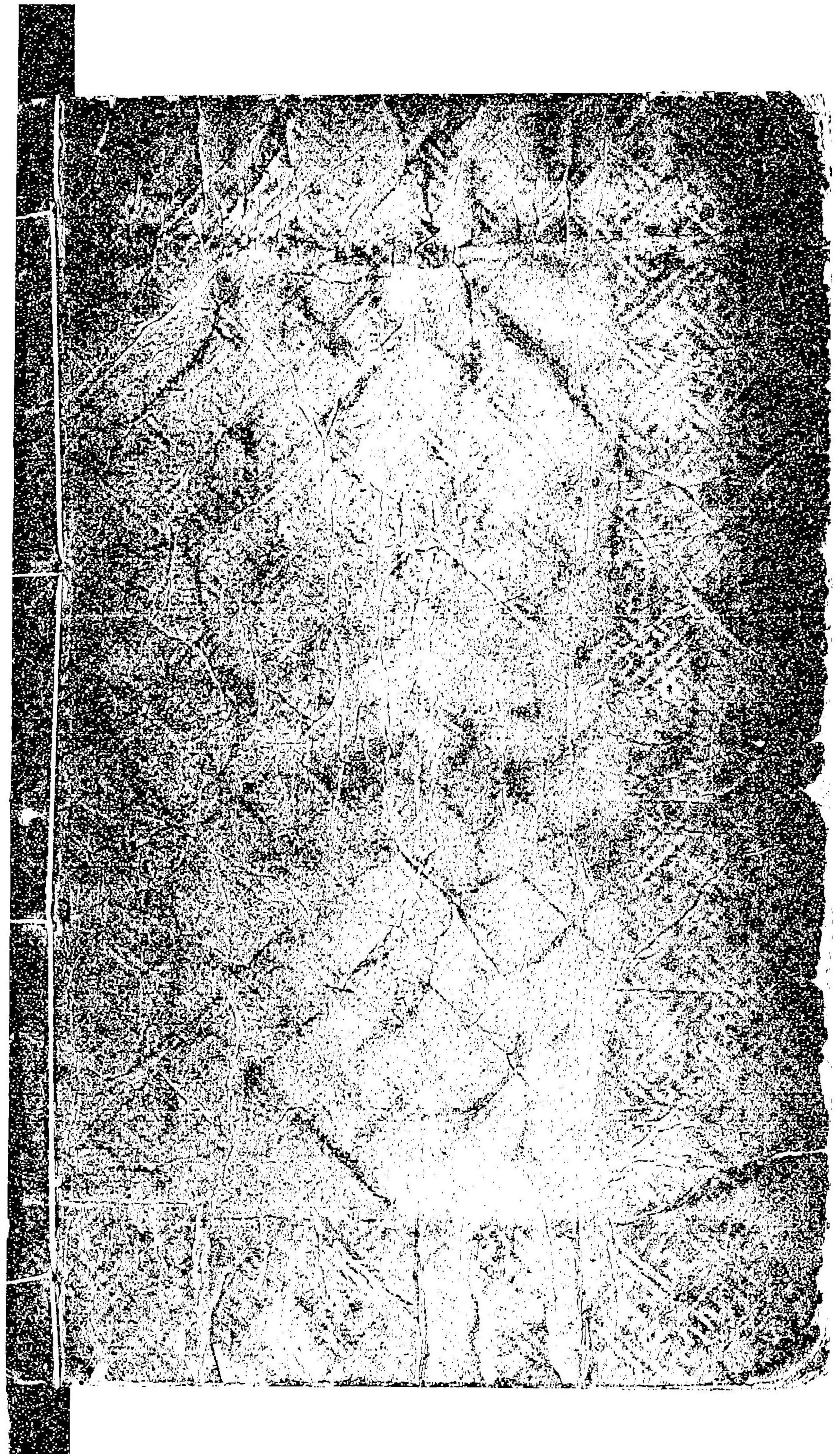
定價金八拾五錢

編輯人 菅原吉藏  
羽前國北村山郡東根町甲七百貳番地

印刷人 小池順治  
全國全郡全町甲五百四拾六番地

印刷所 弘文堂  
全國全郡全町全番地







187

441

066481-000-9

187-441

匠家必携

菅原 春広 / 著

M39.9

CDC-0096

